麻原彰晃の世界 PART4

宗教にだまされるな！

巻末特別インタビュー

「正しい宗教の選び方」

（『流行通信HOMME』一九九一年九月号より）

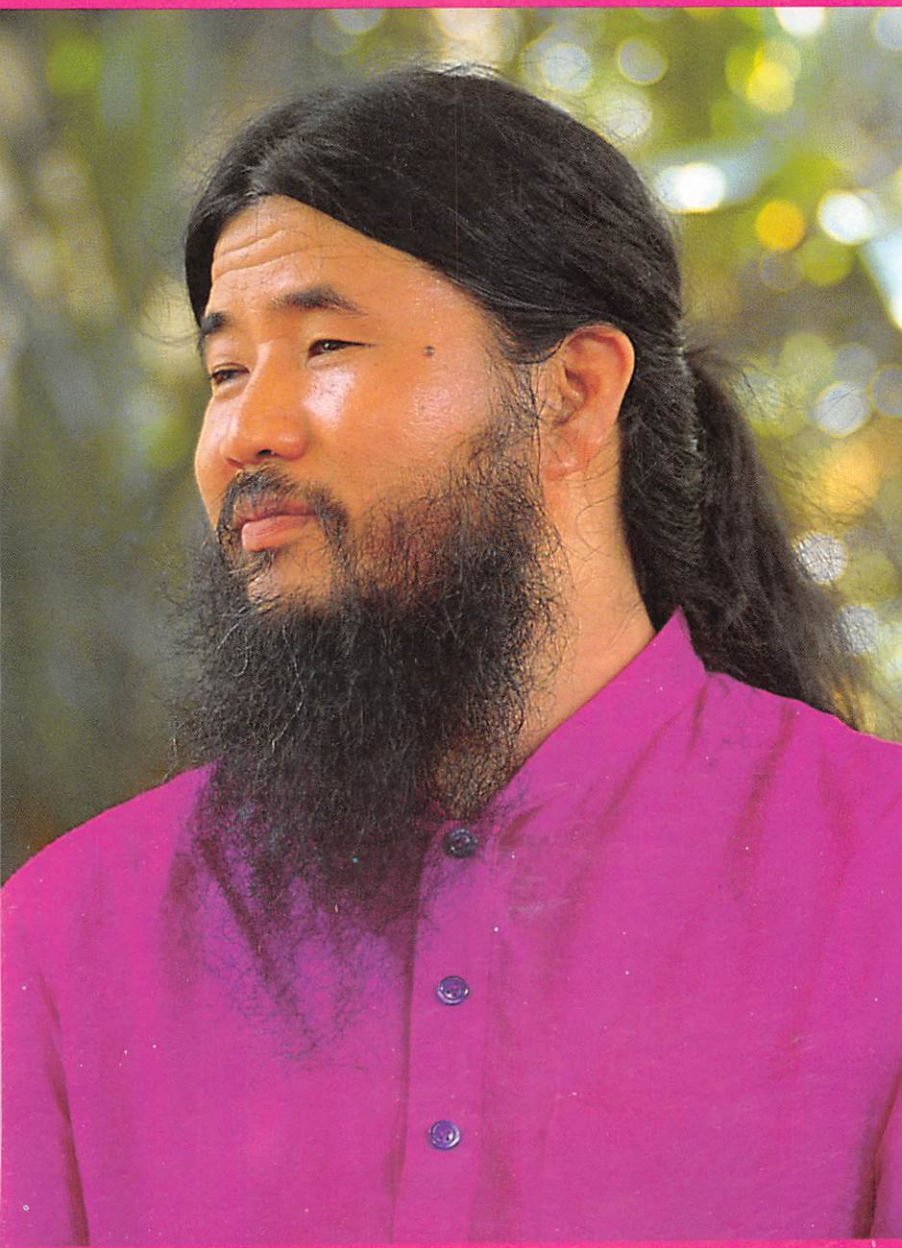
霊障、水子、先祖供養、心霊治療、魔術…etc.
氾濫する精神世界のウソに最終解脱者、
麻原彰晃尊師の鋭いメスが入る

麻原彰晃

麻原彰晃の世界PART4

宗教にだまされるな！

麻原彰晃



——流行通信インタビューにて(巻末参照)——

はじめに

霊障、先祖供養、水子供養、様々な幸福グッズ……「第三次宗教ブーム」といわれる現在、わたしたちの周りには「宗教」があふれています。

ところで、これら宗教はわたしたちに必要なものなのでしょうか。また、もし必要とするならば、たくさんの中から何を基準に自己の宗教を選択すればよいのでしょうか。

残念なことに、今、日本に存在する宗教のほとんどはその教えに間違いや矛盾を含んでいたり、実践することが無意味であったり、それどころかかえって害になることすらあるものばかりなのです。

その一方で、わたしたちに「生とは何か」「死とは何か」「本当の幸福とは何か」といった真実を求める心、精神的な満足を求める心が決してなくなることがないというのも事実です。そして、その根本的な解決を与えてくれるのが、宗教と呼ばれるものであることもまた事実なのです。

それでは、わたしたちはどうすればよいのでしょうか。

本書『宗教にだまされるな』は、麻原彰晃尊師がこの問いに明確に答えた一冊といえます。

本書には、

(一) 宗教にだまされない
(二) 本当の宗教を見分ける
(三) 本当の幸福を得る

といったポイントが説き示されています。

これらをお読みになれば、

「何が真実で何が真実ではないのか。」

「真に自己を心の本性にまで導いてくれる教えが何であるのか。」
といったことがおのずと明らかになることでしょう。

＊

「人には宗教は必要ではありません。必要なものは真理です。」
「もし心を惑わすような宗教であるならば、それは実践すべきではありません。」
と麻原尊師は語られます。
この本をお読になった方が、心の絶対的な平安、精神的な豊かさ、そして本当の幸福を手にされ、価値ある人生を歩まれることを願ってやみません。

一九九一年九月　広報編集部

麻原彰晃の世界 ❖ PART 4

宗教にだまされるな

——目次——

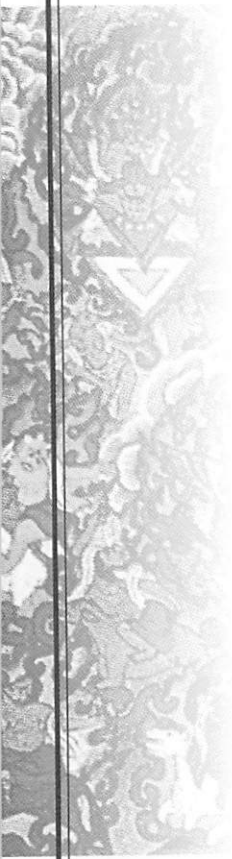
第一部　宗教にだまされるな

第一章　霊障・水子霊は霊能者が創り出す！——10
第二章　先祖〝供養〟ではなく先祖〝救済〟——42
第三章　要注意！　守護神が足を引っ張ることも——62
第四章　あなたの知らない心霊治療の恐ろしさ——67

第五章　魔術、ヒランヤ、幸福を呼ぶペンダント……
〝幸福グッズ〟が不幸を招く　72
第六章　間違った護摩法で火の災害に遭う　90
第七章　解明！　オーラの正体　98

第二部　至福をもたらす真理の実践

第一話　一切の苦しみを断つ十の実践
「十戒、その素晴らしい恩恵」　104
第二話　幸福へと至る三つのステージ
「帰依し、施し、自己を律せよ」　126
第三話　至福へ導く仏教の最奥儀
「実践！　八正道と四無量心」　148



第三部　カルマが決める幸・不幸
あなたにもこんな覚えがないか？

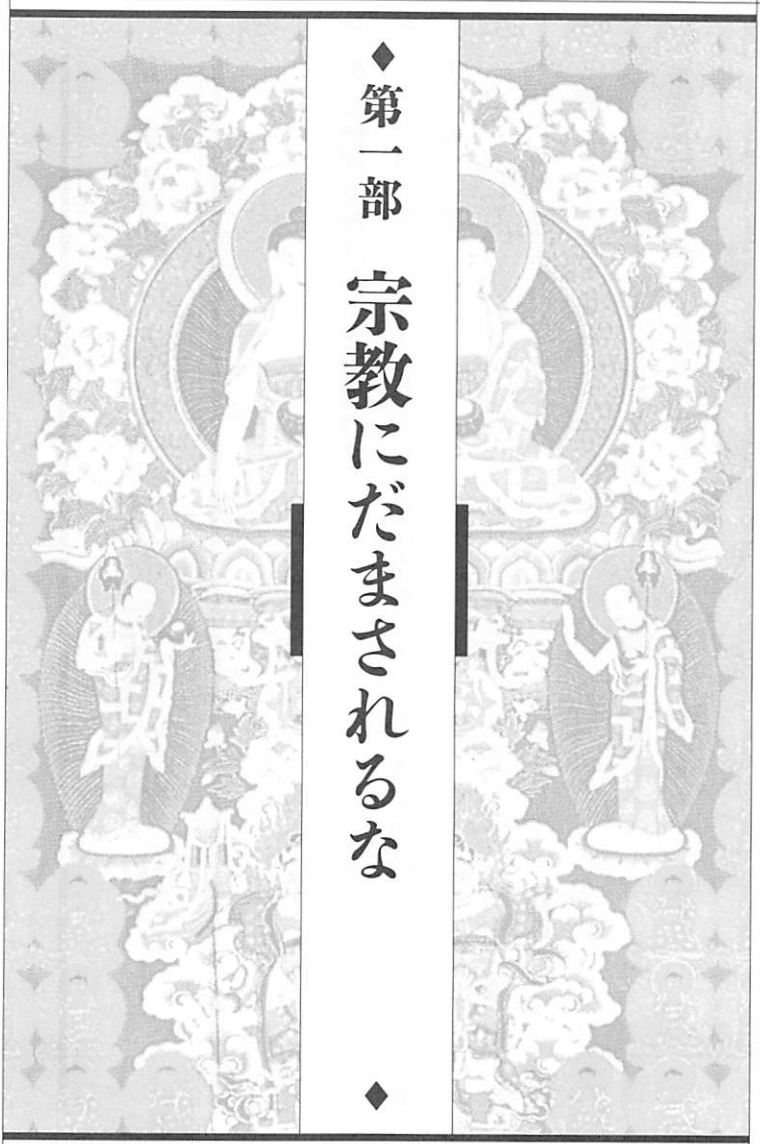
◉水子一——修行を断念させた殺生の恐しさ——180
◉水子二——抜けられない性的欲望の渦——185
◉大事故を起こした暴力のカルマ——191
◉ガンと餓死——貪りの心が生み出した不幸——196
◉精神病——徳を積まなかった報い——204

第四部　今、なぜオウム真理教か

第一話　これであなたはだまされない——212
「真の宗教の四つの条件」

第二話　絶対の自由・幸福・歓喜をあなたに——227
「実践せよ、そして獲得せよ」
第三話　成就者を続出させた秘密——232
「〝四本の柱〟が解脱に導く」
第四話　次々と新派を生むわけ——242
「深遠て広大——最高の教義」
第五話　依存型宗教では悪趣に落ちる——257
「幸福をもたらす実践型宗教」

巻末特別インタビュー
麻原尊師が語る「正しい宗教の選び方」——272
（『流行通信HOMME』一九九一年九月号より）



◆第一部　宗教にだまされるな◆

第一章 霊障・水子霊は霊能者が創り出す！

◉仏教理論が証明する霊障の嘘

今日はですね、まず皆様が最も興味を持っている、霊障の話について今から説明したいと思います。

その前にね、仏教、あるいはヨーガの世界観を話さない限り、あなた方の疑問っていうのは解けないだろうから、まずそれからちょっと話したいと思います。ちょっと難しいからメモを取る人はメモを取ってください。で、これがわかればあなた方の疑問っていうものは簡単に解決できます。そしておそらく、今世界でこの世界観を話すことができるのはわたしだけではないかと考えています。

まずね、チベットの仏教でいわれている五法身について話さなければならない。いいですか。まず、マニプーラ・チャクラのところに「変化身」が宿るといわれています。変化というのは、「変化」の身体ですね、変化身。

そして、アナハタ・チャクラのところに、「法身」。法身というのは「法律」の法ですね。法身が宿るといわれています。

それからヴィシュッダ・チャクラのところに、「報身」。「報いる」身体ですね。報身が宿るといわれています。これは説明は後でしますから、ここの定義をきちんと押さえておかないと、今から話すことがあまりにも難しいので、理解できなくなると思います。

そしてアージュニャー・チャクラのところに、「本性身」。本当の「本」に――ｂｏｏｋの本ですね――それから性質の性、本性の身体の身、本性身が宿るといわれています。

そして、サハスラーラ・チャクラのところに、「金剛身」。金は「金」ですね、剛は「岡にりっとう」と。金剛の身体が宿るといわれています。いいですか。こ

れはオウムの最高の秘儀ですので、決して他に漏らさないように。まず、それはお願いしますよ。

この金剛身イコール、「真我」だとお考えください。いいですか。真我の真は、「真実」の真に「我」です。これは同じ意味合いを示しています。いいですか。

そして本性身と、それから法身ですね、つまりアージュニァー・チァクラとアナハタ・チァクラ、この二つはコーザルの世界の身体だとお考えください。釈迦牟尼の言葉を借りるならば、それは「無色界」というふうに表現することができます。

そして、報身と変化身、これはアストラル世界の身体だとお考えください。アストラル世界というのは、「欲界」の裏側と「色界」に存在している。

◉五法身は三界を行き来する

はい、じゃあこれをもっと詳しく言いましょう。

まず、「変化身」から説明しますよ。変化身というのは、欲六界の裏側、下位

のアストラルで働いてる身体と。

そして、上位のアストラルで働いている身体を、「報身」ですね。報いる身体。次に、下位のアストラルと上位のアストラルの裏側のコーザル、この全体を行き来するのが、「法身」です。法律の「法」の身体です。

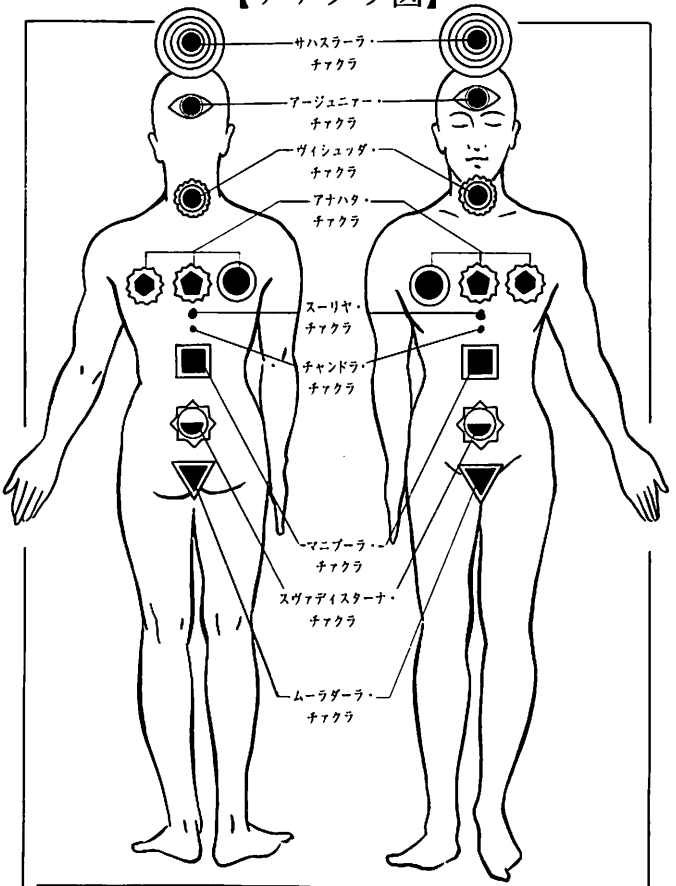
で、「本性身」は、もうコーザル世界しかないわけですね、これは。

ちょっとわかりづらいだろうから。もう一度まとめると、本性身イコール、コーザルの世界、純粋コーザルの世界と。そして、高位アストラル、これが報身と。それから低位アストラル、これが変化身。低位アストラルを欲六界の裏側だと考えてるわけですね。それから、アストラルの裏側のコーザル、これをすべて担当してるのが法身ということになります。

◉チァクラと対応する五法身

では、それはどうしていえるんだと。よく見ましょうね。マニプーラ・チァクラは、これは阿修羅と天界を表わしています。いいですか。スヴァディスターナ・

【チャクラ図】



—超能力を支配するチャクラ—

チャクラとは、人間の身体にある霊的なセンターで、主なものは七種である。しかし、普通の人はそれが眠った状態で働いていない。訓練によって開発されるのである。

また、チャクラは、身体の下部に位置するものに比べ、上部へいくほど次元が高くなっていく。

超能力もこのチャクラが司っているのだ。

チャクラは人間界と動物界を表わしています。そしてムーラダーラ・チャクラは地獄と餓鬼を表わしています。これはメモしてくださいね。

ムーラダーラ・チャクラは地獄、餓鬼。スヴァディスターナ・チャクラは動物、それから人間と。マニプーラ・チャクラは阿修羅、天界と。そうすると、当然この変化身の働く世界は最も低い世界で働くことになります。いいですか。

次に、法身の働く世界を見ましょう。マニプーラの上は、何かというとアナハタだから、ここで働く身体、法身について考えると、法身の宿るところ、アナハタ・チャクラには心がありますね。いいですか。つまり、心というものは実体がないと。実体がないっていうのは形がないと。微細でもなければ粗雑でもない。そして、心がすべての原因であるという考え方を持つ、仏教やヨーガにとっては、当然ここに、わたしたちの本質的なものが宿ってなければならない。

だから、法身の担当している世界、これは何かというと、ムーラダーラから始まって、天界に終わるまでの欲六界と、それからその上の、この報身の世界の、裏側のコーザルの世界を表わしてるわけだね。

で、報身というものは、このアストラル世界の上位の世界を表わしているわけだね。じゃあ、どうして報身と、それから法身の位置を考えたらわかるとおり、この報身の方が上なんだと考えると、法身というものは、この下側まで担当してる。ところが報身はそうじゃなくて、この天界以上の世界を担当してるわけだから、当然この報身の方が上であるという定義が成り立つわけです。当然、上位のチャクラに属すると。わかりますか、今の説明は。

もう一度言いますよ。ここに報身がいると。報いる身体がいると。そしてここに法身がいると。この法身というものは、この高位のアストラルも当然担当しているけども、低位のアストラル世界も担当しているわけです。アストラル世界の裏側のコーザル世界を担当しているわけです。ところがこの報身はどうかというと、高位のアストラル世界しか担当してないわけだから、上位に属するわけですね、これは。

例えば、あなた方が、この欲六界の経験をするときには、このすべて変化身が関係しています。あるいは欲六界の裏側にある、俗にいうところのニルヴァーナ

の経験をするときは、すべてこれは法身が担当しています。そして、そのニルヴァーナを超越したマハーヤーナに至るための、いろんな功徳に関係する身体、ね。この色界に関する身体、これはすべてこの報身が担当しています。いいですか。

そしてこの本性身で見る、本性身とは何かというと、これは純粋コザールの世界で俗にいうところの「アーカシック・レコード」、例えば宇宙の組成だとか、例えば個人の宿命、宿命っていうのか何生にもわたる宿命だとか、あるいは、そうですね、真我の知識だとか、そういうものはすべて、この純粋コーザルの世界に入っています。で、ここの担当が、本性身ってことになる。

そして、それから一切解放された状態、自由になった状態、それがこの金剛身、真我独存の状態ですね。マハーヤーナを表わしています。

◉日本の霊能者の次元の低さ

今日の話は、今のは付録です。そしてあなた方の大好きな霊障について話しましょう。

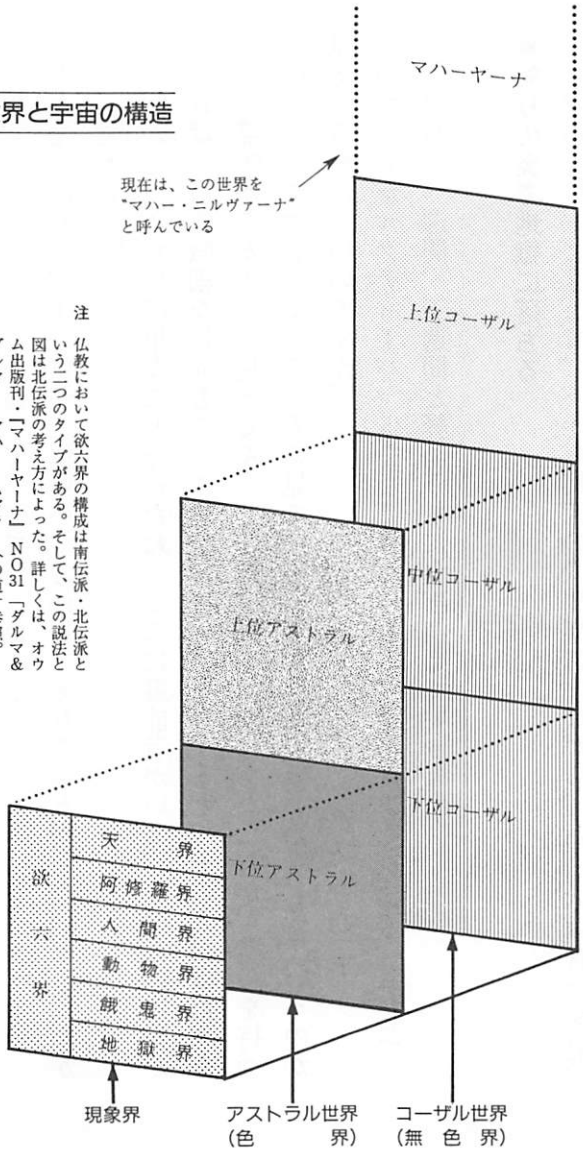
まずわたしたちは、粗雑な世界と、微細な世界と、そして原因の世界と三つあるとお考えください。そしてわたしたちは、下から四番目の人間界に属しています。で、ヨーガや仏教の本当の意味での修行をすると、天界を貫いてね、その微細な世界の天界を貫いて、コーザルの世界に入っていくわけだけども、日本の方々はそれをやりません。

何をやるかというと、ここに粗雑な世界があって、微細な世界があって、そして原因の世界があると。これを言い方を換えるならば、欲界・色界・無色界と表現することができるね。で、ここに人間界があるとします。修行者はこうぶち抜いて行くわけだけども、俗にいう霊障とか、霊能者たちは、こうぶち抜くか、あるいはこうぶち抜きます。わかりますか。これは下に行けば行くほど簡単にぶち抜けます。上は非常にぶち抜きづらいということになる。

そうすると例えばね、こう考えましょう。例えば、こういう質問を受けた。

「先生、実はわたしは、水子霊が三体ついていると言われたんです。でも、わたしはまだセックスの経験もないんです。」

欲六界と宇宙の構造



注　仏教において欲六界の構成は南伝派・北伝派という二つのタイプがある。そして、この説法と図は北伝派の考え方によった。詳しくは、オウム出版刊・「マハーヤーナ」NO31「ダルマ＆ダルマ――マハー・ムドラーへの道」参照。

と。女性の質問なんです、これは。

「いや、それはおもしろいね。で、何て言ったんだ。」

「あなたの後ろに、水子霊が三体憑いてるから、それを何とかしないとしょうがないと言われた」

と。しかし、これは簡単なことなんだね。ここに霊能者がいて、その人の次元が低ければ、当然微細な世界をこうぶち抜きます。そうすると、その人にはだれを見ても霊障があるように見えるんだ。それは例えば別にあなた方が、霊障を持っているわけではなくて、その人の見ている世界が次元が低いから、そういうのが見えてるわけ。いいですか。

わたしもシャクティーパットをたくさんやると、それがよく見える。そして、そうだね、一週間、二週間と経つうちに全部消えていきます。

◉怒りの炎で地獄に落ちる

じゃあ一体、どうして、下から第四の人間界にいながら、ある人は神々を見、

ある人は霊障を見るんだということになる。それは簡単なことだね。

例えば、なぜ地獄に落ちると思う、あなた方は？　なぜ餓鬼に落ちると思いますか。なぜ動物に落ちると思いますか。

根本的に「三悪趣」に生まれ変わる背景というものは、貪・瞋・痴です。この中で、最もわたしたちが避けなければならないのは、「瞋」ですね。この、顔の形相を変えて怒るということ。これは〝怒りの炎〟といいます。

この怒りの炎というものは「殺生をするなかれ」と。釈迦牟尼が説いてらっしゃる、この裏側にあるものです。だから実際には〝十善の戒〟とか、〝十悪の戒〟とかはでたらめであって、あれは実際は五つあれば十分なんだね。なぜかというと、表裏を一生懸命言っているに過ぎない。ただそれを、真理を知らない者が説いてるから、十になったり、二十になったり、三十になったりするわけだ。

何を言いたいかと。もしここに、全く怒りのない人がいたとしよう。この人はすべてのものを慈しむでしょう。この人は決して生き物を殺さないでしょう。つまり、あなた方がもし生き物を殺したならば、それは肉体的な殺生を意味してる

かもしれない。あるいは、精神的な殺生を意味してるかもしれないけども、もしあなた方が殺したならば、あなた方は、地獄に至る道を歩いてると考えなさい。

そして、それを実践しながら、もしあなた方が瞑想修行をするならば、あなた方は地獄の世界を経験するでしょう。いいですか。

つまり、怒りというもの、この怒りの炎というものの背景は何があるかというと、自己を防衛したい本能だ。そして、自と他を区別する本能だ。自己の利益のためには、相手を害しても、相手を殺生しても構わないという本能なんだ。

もし、あなた方がその実践をしたならば、あなた方は必ず地獄に落ちるでしょう、これは。そしてそれは、だれもそれを止めることはできない。

はい、これで地獄に至る道は理解できたね。だったらもう、早速今日から殺さないと。それは簡単なことだね、これはね。

◉貪りの心が餓鬼に導く

そして、現代の人たちは、地獄に落ちる人たちも多いけども、それよりもっと

多いのは餓鬼に落ちる人だ。まあだいたいこう考えなさい。もしあなた方がガンになったならば、あなた方は餓鬼に落ちると考えなさい。この餓鬼は何かというと、これは「貪り」を根本としています。いいですか。

この貪りというものは、例えば家族に対する愛着、例えば物に対する愛着、すべて含んでいます、これは。いや、先程麻原は、例えば異性に対する愛着、言い方を換えるならば情というものは、人間界に生まれ変わるんではないかと、お考えになるかもしれない。

ここでいう愛着というのは、そういうものではない。例えば、ここにあなた方の子供さんがいらっしゃって、あるいはあなた方の奥さんがいらっしゃって、夫がいらっしゃって、もうその人は十分に満ち足りていると。何によって満ち足りてるんだと。それは、例えば食べ物によって満ち足りてると。あるいは、真理の法を実践することによって満ち足りてると。そういう人たちがいたとしましょう。そしてあなた方は、その傍観者だったとしようね。ここでだ、わたしはこの人を愛しているんだから、たとえ本当に一生懸命働いても食べることのできない人が、

ここにいたとしてだよ、あなた方がそれを知ってるとして、その人たちに少しでも布施をしてあげて、生かしてあげるということを考えないで、この満ち足りている人に供養したとしたならば、それはあなた方はもう餓鬼に至る道だと、そう考えなさい。

餓鬼というものはね、仏典に説かれているとおり、例えば食い物を取ると、そしてそれを口に入れると石に変わるというんじゃないんだよ。これは食べても食べても、飽き足らないぐらいの胃袋が用意されているんだ。そして絶えず飢餓感があるんです。

そういえば現代のどうだろうね、わたしたちを見た場合、例えば女性を考えた場合だよ。ストレスで何着も何着も洋服を買う。それは着ないような洋服をたくさん買って、満足してる。

これを、例えば食い物に置き換えてごらん。あっ、あそこのおいしい物、ここのおいしい物、そこのおいしい物と、食いあさる。今、わたしたちは粗雑な肉体を持っているから、この人間界に固定されているけども、例えばそれが肉体を捨

てて、アストラルの世界に一回入るとしたならば、何が残ると思いますか。洋服は残らないよ。あなた方の食いたい物はすべて残んないよ。何が残るか。ただ飢餓感しか残らない。そしてあなた方の転生する世界は次は餓鬼道なんだね。

そして餓鬼道というものは、これは偸盗、盗みの反対側にあるんです。つまり、貪るから盗むと。もし貪らなければ、盗む必要はない。そしてその反対側は何かというと、人に物を施しなさいということなんだよ。これは表と裏ね、これは。だから、これは同一だと考えなさいよ、これは。先程の怒りと殺すなかれ、これも同一だと考えなさいよ。

◉嘘をつくと動物に生まれ変わる

そしてだ、次、わたしたちが動物に生まれ変わる。この背景は何だと。これは嘘なんだね。

この嘘というのは何かというとね、仏教でいうところの「痴」、これは無智と言ってるね。無智というのは、知らないということではない。これは、曖昧さと

いう意味なんです。すべてを曖昧にしているということなんだね。

嘘というのはそうでしょう。嘘には二つのレベルの嘘がある。一つはなしたものをなさないという嘘と、もう一つはなしたものを沈黙する嘘。これは両方とも嘘です、これは。そしてこの実践をすることによって、あなた方は間違いなく動物へ生まれ変わるんだ。

ほーらほら、大変になってきたぞ。今まであなた方が生きていてだよ、どれぐらいの殺生をしたか。どれぐらいの盗みを行なったか、あるいは貪ったかと。どれぐらいの嘘をついたか考えてごらんなさい。

だから現代の病気は、どんどんどんどん固定されてきてるわけです。特に近ごろはガンが非常に多くなってるね、これは。いいですか。

◉霊能者の世界——地獄・餓鬼・動物

そして、今日の話に戻すよ。もし霊能者が修行だけをして、生き方を変えないで、怒り、それから貪り、そして曖昧さを背景として、行だけをなしたならば、

その人の見る世界は、地獄・餓鬼・動物の世界だ。そうするとあなた方は、その人たちが霊能があるからといって、つまりあなた方にも欲望があるから、その欲望につられて、その霊能者のところに行って座ると。あるいは聞くと、その霊能者たちは自分の世界観を話します、必ず。自分の世界観っていうのは、その人がもし動物的だったら、あなたには動物がついてるよと。もしその人が餓鬼的だったら、はい、あなたには餓鬼がついてますよと。必ず、その世界観を話すんだよ、ね。

それは、別にあなた方の世界ではないんだよ。その人たちの世界観を話すわけです。そこであなた方は、今までたくさんついた嘘のカルマによって、その嘘に巻き込まれてしまうわけだ。そして混沌とした曖昧な宗教の世界に引きずり込まれてしまうわけだ。

◉自分の世界を押し付ける霊能者

だとしたらだよ、これはわたしも経験があるわけだけども、いつわたしたちは幸福になることができるんだ。もともとこの宗教そのものが偽物だったら、わたしたちはどうしてその曖昧な世界から抜け出すことができるんだ。

そしてその次元の低い人たちの話をあなた方は聞いてだ、「あーなるほどな」と感心すると。それによって、よりいっそう引きずり込まれると。そしてあなた方の実践する世界は、エゴを満足させるための、つまり、真理からかけ離れた実践になっていくわけです。そうするとあなた方の心は、どんどんどんどんすさんできて、あなた方が得るものは何かといったら、多大な浪費とそれから不幸だ、ね。

これはわたしも過去においてたくさんの嘘をついたし、殺生をしているし、それから盗みもした。いや、そうだよ。わたしもやりました、これは。事実だ。だからわたしもその世界に巻き込まれた。それがカルマの法則だ。そして、その清算をしなければならなかった。

そして今、ここに集まってる人たちは、その清算がある程度できた人たちなんだね。だからここで、また次の世界、ステージの真理というものに巡り合うことができたわけだ。あまりにもオウムの法というものは、はっきりしているから、ただだよ、あなた方の尊敬する釈迦牟尼、あのお方がお説きになった『阿含経』とか『スッタニパータ』とかお読みになってごらんなさい。すべてははっきりしてるから。

例えば、ある旅役者が二人訪ねて来たと、釈迦牟尼の前に。ねえ、「如来よ」と。「わたしたちの来世はどうなるでしょうか」と。「汝らは芝居をやってるから、それにのっとった地獄に落ちるだろう」と、こういってらっしゃる。なぜはっきりそうおっしゃったかというと、「汝らは人の心というものを惑わしたと、そのカルマによって地獄に行くんだ」と言ってらっしゃる。

ところがだよ、現代の宗教家で、あるいは現代の法を説く者の中で、誰がそれだけはっきり言えるか。みんな曖昧なんだよ。

じゃあ、なぜ曖昧かというと、その方々のステージは低いからなんだね。要す

るに自分のことがわからないで、他のことを理解することはできないわけだ。そして自分の世界観を押し付けるしかない。

わたしもあなた方に言えるよ、今言ったとおり、今後あなた方が怒りの実践、あるいは、貪りの実践、あるいは無智の実践をしたならば、あなた方はいかなる修行をやったとしても、地獄・餓鬼・動物に生まれ変わるだろう。わかりやすいでしょ。ねえ、これぐらいはっきりした話はないよね。つまり、あなた方が見ている霊障とか、聞いた霊障というのは、本来あなた方の世界ではないんです。だれの世界かというと、あなた方にそれをおっしゃった方々の世界なんです。

何か納得してないみたいだな。

よし、じゃあ、いったん区切って、ここまでの質問を受けようか。

◉世界の聖者も霊障は説かない

――その霊能者自身が持ってる世界が地獄・餓鬼・動物であるから、動物霊とかが見えるとおっしゃいましたよね。じゃあ、その対象になる人は、そういう世界

を持っていないわけですか。あくまでも、それは霊能者の世界なんですか。

（尊師）対象になる人は持っていないかというと、普通は他人のアストラル世界というものは、視覚で見えるもんじゃないんです。例えば、あなたがどういう世界に入ってらっしゃるかっていうのを見る場合、もちろんエネルギーでチャクラの状態で見ることはできます。

しかしそうではなくて、一般的には三昧に入って、あなたのそのアストラルの世界に入らなきゃなんない。普通は。わかりますか。わたしがあなたのアストラル世界に入った段階で、あなたは今どういう世界に入ってますよと言うことはできますよ、それは。

しかしそうじゃなくて、パッと見て、お前は地獄だとか餓鬼だとか、これは世界を通して、日本だけにしか存在しません、そういう人たちは。それだけ日本の霊能者は、レベルが高いのかもしれないね（笑い）。いやいや、そうだよ。これはインド辺り行ってごらん。いないから。必ず瞑想に入ります。

前生もそうですよ。「あなたの前生は」ってよくやってるけども、よっぽど力

がなければわかりません。あるいは前もって、その人たちの生年月日とか写真とかを見ながら、ディアーナといって瞑想状態に入る。あるいは三昧に入って、前生を見ることは当然できます。しかしそうじゃない限り、何にもない状態で前生を適中させることっていうのは、皆無に等しいです。わたしはいろんな力のある方と会ってきたけども、どの方も同じように言ってらっしゃいますね。それは三昧に入らなきゃ駄目だよと。ところがこれもまた、先程言ったとおり、日本の霊能者方はね、力がおありになるから、即お答えになると。

わたしはね、よくこういうテストをするんだよ。例えばこの甘露水もそうだけども、この甘露水というのは今東大の物理研究をやってる子がね、結局データ分析したわけだけど、これは光を放ってるんだよね。普通の水じゃないんです、これは。で、それがデータとして出てます。そういう感じで必ずわたしはテストするわけです。で、例えばここに霊能者がいて、その霊能者がどれぐらい力があるか、試してごらんなさい。百発百中で外れるから。あなた方はそれを信じてるわけだよ。そりゃ中には、たまにはまぐれ当たりで当たるかもしれないよ。だから

あとはあなた方のカルマだね。カルマというのは、過去においてたくさんだましたんだから、今だまされるカルマがあるんだとお考えになって、例えば一年、二年、わたしはだまされ続けようと考えたら、それも一つの行だと思うよ。

よろしいですか。答えとしては。ですから三昧に入らなければ、あるいは、瞑想に入らなければ、相手の本当の状態はわからないということです。

――そうすると、三昧に入ったときには相手の霊障がついてるという事実はあるわけですね。

（尊師）霊障がついてるというよりも、その変化身というか、その人のもともとのコーザル・レベルがありますね、心の状態が。その心がどの世界に通じてるかっていうことがわかるわけですね。だから霊障がこうやって抱きつかれてるとか、あるいは、おんぶされてるとか、それはないです、はっきり言うと。

ただ、邪気はありますよ。邪気というのは心の作り出したよこしまなエネルギーですから、それは当然存在します。例えばそれに触れると、そのエネルギーが体に入ってきて、体を害することはあります、それは。しかし、それはあくまでも

邪気であって、そのアストラルの形をとってません。よろしいでしょうか。

――はい、わかりました。

◉潜在意識に傷があるから霊障になる

――霊障に関してなんですけれども、霊障はやはり人間の潜在意識とか深層意識に影響は与えるわけでしょうか。

（尊師） 逆です。潜在意識とか深層意識に傷があるから、毒があるから、霊障になるんです。

――要するに霊体があるから、潜在意識や深層意識に影響を受けるということではないわけですね。

（尊師） ではないです。それはもう大嘘ですね、それは。

――そうですか。逆なわけですね。

（尊師） ええ。要するにどういう理論かといいますと、この肉体と、この粗雑な世界というものは、ここにある粗雑な肉体と、それから微細な肉体と、それから

もう一つ原因体といって情報だけの体と、三つを持っております。で、その微細な肉体というのは、イメージででき上がっています。

ですから、例えばあなたをだれかが恨んでいるとしたら、それは微細な肉体に影響を与えます。そうすると、微細な肉体というのは潜在意識と深い関係がありますので、当然そこに傷ができるわけですね、例えば。おわかりですか。

――チャクラとは関係があるわけですか。

（尊師）霊障体質の人は、だいたいせいぜいがスヴァディスターナ・チャクラと。ムーラダーラ・チャクラ、スヴァディスターナ・チャクラしか使っていませんね。だから、もともと人類のためにといっている人は、霊障の話はしません。だいたい自分のことだけを考えている人が、「あー、霊だ。霊につかれた」と言っております。ですから、霊障体質というのは治すことは簡単です。それはなぜかというと、自己のことを、自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを悲しみとする実践を行なったならば、簡単に霊体質から逃れられるでしょうね、それは。だから、まあ言い方を換えるならば、功徳の足りない人は霊体質になったり、魔境に入っ

たりします。功徳のある人は決して魔境には入らないし、霊体質にもなりません。

◉霊能者のレベルの見分け方

――いろんなレベルの霊能者がいると思うんですけども、わたしなんかも身の回りに多少そういう人と会う機会があるんですが、その方たちのレベルの判断というのはどうつければよいのでしょう。

（尊師） 世界観を聞きなさい。まず世界観を。そして、その人が矛盾しているかどうかを確認しなさい、第一段階で。わたしは、だから世界観を話したんだよ。これはね、どんな成就者が登場したとしても、この世界観以上の世界観はありません。だからまず世界観を確認しなさい。その人が言ってることは何を言ってるのか、どのパートのことを言ってるのか。つまり現象界の裏側の話をしているのか、あるいはアストラルの裏側の話をしているのか、あるいは純粋コーザルの話をしているのか、それを確認してごらんなさい。

◉「水子は先祖の霊」の嘘

――昨日、密教に関係した宗教家が、水子というのはご先祖の霊だと言ったんですね。しかし、結局人間は死んで輪廻転生すると。結局妊娠した時点では、もう真我は、そこに入っているわけでしょう。

（尊師） 入っています。

――ということは、水子の霊が先祖の霊というのは、正しくないと思うんですが、もし霊というものが存在するなら、子どもを堕ろすと何かあるんじゃないかと。

（尊師） 殺生になりますよね。殺した段階で。それは殺生のカルマとしては残るでしょう。

――で、水子の霊は存在はする、ということが言えるんでしょうかね。

（尊師） 一時的にはですね。つまりバルドーに入るわけだから。しかしそれは、水子の霊なんていうのは、だいたい四十九日も、だいたい三十日くらいで転生しますから。

◉不幸の原因は水子霊のたたりではない

――エドガー・ケイシーの本に、人間は生まれたときに、そこに魂が宿ると書いてあったんです。生まれて息をしたときに、初めて体に魂が宿るっていうんですけども、そのへんのところはどうなんでしょうか。

（尊師） それはエドガー・ケイシーが間違っています。一言で言うと、精子が卵子と結合しますね。そして卵割が始まった段階で魂は宿ります。

じゃあ、それはなぜそう言い切れるかというと、もちろんわたしの弟子たちの中にもその経験をしてますし、それだけではなくて、例えば『エジプト死者の書』だとか、『チベット死者の書』でも同じ記述をしてるんですね、これは。エドガー・ケイシーのみが違う。ということは、エドガー・ケイシーが間違いであると考えた方が正しくないでしょうか。

――ということは、これも、要するに水子の霊っていうのがたたって……。

（尊師） いや、水子の霊がたたるんではなくて、先程言った殺生のカルマだ。最も身近なものを殺したという殺生のカルマが生じるとお考えになった方がいいと

思います。

――そうすると、その殺生のカルマはどういうふうに返ってくるんでしょうか。

（尊師）それは、まず心が殺伐としてくる。そして、やっぱりそのまま放っておくと地獄に落ちるんじゃないでしょうかね。

――この現在の生活の中で……。

（尊師）もう現在の中では、まず愛情というものが欠落してくると思います。

――それは、男性と女性のどちらも？

（尊師）いや、それは、まずは堕ろせと言った方が先に殺伐としてきます。だから、例えばカップルがありますね。そのカップルの例えば女性が妊娠したと。それを男性が聞いて、「それは堕ろせ」と。例えば言ったら、その堕ろせと言った男性の心がまず殺伐としてきます。そして、それは行為をなしたならば、女性も当然、同じように心が殺伐としてきます。

そして、まあ一般的にはその異性間ね、その男性と女性の関係が悪化します、一般的には。愛情が持てなくなってくると。それは、なぜかというと、子供とい

うのは、最も愛情を持たなければならないパートなんです。愛情があるからセックスをします。ところが、それがそうでないとしたならば、当然心に変化が起きるわけですね。愛情に対する変化が。そうすると、例えば今身近にいる彼に対しても、あるいは彼女に対しても同じように殺伐とした気持ちになります。

で、まずは愛情の欠落から始まるとお考えになっていいと思いますね。

◉憑依の正体をあばく

――憑依のことについて、よくわからないのですが……。

（尊師） 例えばここに殺生をかなり積んだ家系があるとしましょう。そうすると、それは地獄の世界とつながっています。そうすると、地獄のエネルギーが流れてきているんだよ、地獄界からのエネルギーが。わかりますか。それは、だれに影響を与えると思いますか。そこに住んでいる生き物たちすべてに影響を与えます。それが憑依だとお考えください。

――患者さんを治療して楽にしてあげると、その瞬間にわたしの首が「ガクーッ」

と痛くなるのは、その地獄界の流れがわたしの方に伝わってくるからですか。

（尊師）いや、それは違います。それは俗にいうところの邪気というものですよ。つまり、病気をしている人の気の流れというものは阻害されているわけです。例えばあなたに強いエネルギーがあるとしたならば、それが相手に行きますね、綺麗なエネルギーが。そうすると相手の同じ部分のエネルギーが当然来るわけです。

というのは、エネルギーというのは心の産物ですから、病んでいるということは、心に病があるわけです。わかりますか。そうすると、同じパートにだいたい出ます、それは。それは、憑依とは違います。憑依ってのは怖いですよ。

――邪気を払うために、一生懸命修行すれば邪気は落とせるんですか。

（尊師）ええ、それはもう簡単です。よく医者の方とか、あるいは治療家の方がね、深夜セミナーに修行に来てるから。それは、大師方が全部担当してくれますから。大師方は、どんどん病弱になってくるでしょ、大師になった段階で。それは、みんな性に合ってるんです。大乗の発願をした人のカルマですね、これは。これから、どんどん修行してください。

第二章　先祖〝供養〟ではなく先祖〝救済〟

◉先祖供養は無智ゆえの所行

今現在、日本では「先祖供養」というものが行なわれている。しかし、わたしは、先祖供養というのは、無智の、無智を背景としてなされている所行だと考えています。

それは、なぜかというと、例えば地獄へ落ちた者、あるいは餓鬼へ落ちた者、あるいは動物へ落ちた者に対して供養したとするならば、相手の徳をすり減らすわけだから、いっそう低いステージへ落ちてしまうと。よって、供養すべきではないと。

では、何をなさなければならないのかと。これは救済であると。つまり、わたしたちがなさなければならないことは、先祖供養ではなくて、「先祖救済」なんだと。供養というものは、自分たちよりステージの高い者になすべきであると。例えば、信徒の皆様は、シッシャ、あるいは大師、あるいはグルに対してなすべきであると。

◉出家は最高の先祖救済

では、どのような形で救済できるんだろうと。それは、最も素晴らしい救済というものは出家である。これはわかるね。

つまり、ここに母親、父親がいたと。そのもとに子供がいたと。その子供が大変な善業を積むならば、その善業を積んだ因というものは、父母にあるわけだから、当然父母には大きな恩恵が返ってこよう。それによって、真理に結び付いたり、あるいは修行者に生まれ変わるかもしれないし、あるいは、その功徳が現世的なものに還元されるかもしれない。よって、最高の先祖救済というものは出家

である。

それは、例えばここに母親がい、父親がい、そして子供がいた。この子供が悪業をなしたと。この因は、母親、父親にあるわけだから、この悪業をなした母親、父親はそれによって当然徳を消耗することになる。よって、落ちる。

これこそ、最高の先祖救済だと考える。

◉在家でも先祖救済できる

しかし、出家できない人もいると。その場合は、先祖救済はできないのかと。いや、そんなことはないと。じゃあ、どうしたらいいんだと。

シッシャほどは先祖の救済はできないかもしれないけども、例えば無償の布施、例えば無償の祈り、例えば無償の奉仕、そして自己の功徳そのものが、自己の父母、あるいは先祖に対していってくれますようにと。それによって、ご先祖様が真理と結び付き、あるいは修行者と同じになって、未来際においてマハー・ニルヴァーナに入りますようにと発願すると。これこそ、真の先祖救済である。

いくら高価な仏壇を用意して、いくらご先祖供養と書いた紙とお布施を出したとしても、それはあまり効果がない。要するに、生まれてきた子供が真理を実践すること、大きな功徳を積むこと。

大きな功徳を積んだ人の父母はだれだと。当然、その父母には影響があるだろう。その父母の父母はだれだと。当然影響があるだろう。出家をしてね、功徳を積めば、七代前の先祖まで供養できるといわれている。在家の場合、七代の先祖まで供養できないかもしれない。しかし、徳の積み方によっては、一代、二代、三代、四代とね、功徳を積むことができるんじゃないかと考えています。

◉計り知れない父母の恩恵

そして、この先祖を救済することは、仏陀釈迦牟尼もこのように説いてらっしゃる。

わたしたちが父母に受けた恩恵というものは、大変なものであると。

例えば母親は、出産のときの三キロ近くの重みの子供をかかえるわけだから、

大変な苦痛を味わうと。そしてつわりの苦しみと。それから、出産のときの陣痛の痛みと。生まれた後は、自分は食べなくても子供には何とか乳をあげたいと考えると。そして、子供がケガをしないようにと絶えず気を遣うと。そして大きくなっていく過程においては、ケガをしないようにと。あるいは、病気をしないようにと。あるいは、いい着物を着せてあげたい。あるいは、おいしいものを食べさせてあげたいといったような思いにいつも駆られていると。

父親はどうだろうかと。父親は、赤ちゃんのために一生懸命働き、お金を稼ぎ、ね、自分はぜいたくしなくてもいいから、赤ちゃんには、あるいは子供にはおいしいものを食べさせてあげたいと考える。あるいは、いい着物を着せてあげたいと考える。あるいは、いい学校に行かせてあげたいと考えると。

このような愛情に対して、子供の報いる道は、たとえ成長して両肩に父母をしょって、一生歩いたとしても、恩を返すことはできない。

ただ一つ恩を返すことのできる道がある。それは何かと。それは、三道を——つまり、地獄・餓鬼・動物というね——三つの道から父母を救済することである。

つまり、真理の道を説いてあげ、真理の道に入れ、そして高い世界へ生まれ変わってもらうこと以外に、わたしたちが父母に受けた恩恵をお返しすることはできないんだ。これは、まさに真理である。

わたしたちがここに五体を維持できているのは、父母の恩恵に他ならない。わたしたちが救済者として生きていることができるのは、父母の恩恵に他ならない。よって、例えば父や母の間違った見解があるとするならば、それを取り除いてあげて、そして正しい道に入れ、そして高い世界に生まれ変わってもらうこと。これこそ、先祖救済であると。

◉マハーモッガラーナの先祖救済

そしてね、仏典によっては、いろいろ異説があるわけだけど、次に、今回の講話というものは、信徒さんには八月十四日、十五日の盆にね、各支部で流されるわけだけども、そのエピソードについて最後に簡単に触れて終わりにしたいと考えます。

小乗の仏典においては、マハーモッガラーナと母親の関係を次のように話しているとと。これは、他の経典においても、母親のシチュエーションは餓鬼道に落ちたということになっています。餓鬼の世界ね。

で、マハーモッガラーナは神通によって、自分の母親が餓鬼の世界に落ちたことを知ったと。そして、救済しようと考えたと。ね。ところが仏陀釈迦牟尼はそれに対して、

「お前はそれは執着だよ。自分の母親に対する単純な執着だよ。それはおやめなさい。」

と言ったということになっていると。

大乗の経典では、同じシチュエーション、つまり、マハーモッガラーナの母親が餓鬼の世界へ落ちたと。それに対して仏陀釈迦牟尼は、自分の友、つまり真理を実践している僧十万人に食事の供養をしなさいよと。そして、マハー・モッガラーナは十万人にその食事の供養をなしたと。これがお盆の始まりであるといわれています。

また、ある経典ではマハーモッガラーナの母親が餓鬼道に落ちているのを知って、釈迦牟尼に相談に行ったと。釈迦牟尼仏はそのときね、

「では、一緒にお母さんを救済に行きましょうと。」

ね。で、行きはマハーモッガラーナの神通力で餓鬼道の世界に行ったと。これは、一週間かかったと。そしてそこで、深遠な法をお説きになった仏陀釈迦牟尼によって母親は教化されたと。そして、以後、真理の道を歩くことを誓ったと。心は餓鬼の世界から解放されたと。

いいか、ポイントはここだぞ。しかし、母親は餓鬼の世界にいたわけだよ。つまり、心は餓鬼の世界から解放されたから、当然、餓鬼の世界からは転生するだろう、ポアされるだろうと。しかし、まだカルマが完璧に落ち切ってるわけじゃないから、餓鬼の世界にはいたわけだね。

そして、次は釈迦牟尼の神通力によって、マハーモッガラーナと釈迦牟尼は一瞬のうちに元のところへ帰ったと。

◉オウム独自の先祖救済システム

この三つの話でわかるとおり、先祖に対する考え方は小乗、大乗によって違います。オウム真理教は、スタートした当時わたしは小乗を説いた。よって、父母に対する愛着、それは「汝それは執着なり」という話を君たちにした。

しかし、それはわたしが大乗のものの考え方を知らなかったわけではない。まず、第一に出家制度というものを確立しなければならなかったから、そういう話をしたと。

そして、小乗の考え方がある程度定着した段階で、わたしはタントラ、大乗、ね、それから金剛乗、ヴァジラヤーナね、といった三つの乗を説いたと。

そして、ステージの高い人は、当然、先祖だけではなく、自己の周りにいる人をすべて救済しなければならない。これがここに菩薩が存在している理由であると。

よって、八月十四、十五を境として、オウムはオウム独特の先祖救済を始めようと考えている。もちろん、生きてる先祖、つまり自分の父、母、あるいはおじ

いちゃん、おばあちゃんに対しては真理を実践していただき、入信していただき、そしてポアさせることが理想である。

ポアというのは何かというと、低い意識状態から高い意識状態へ移し変えるということ。例えば、仏陀釈迦牟尼が、マハーモッガラーナと一緒に餓鬼の世界へ飛んでいって、そして母親の心を餓鬼道からチェンジさせたと。これぞ、ポアであると。ポアは生きてはいても行なわれるし、当然死ぬ瞬間も行なわれる。いいかな。これができれば最高であると。

できなくとも、例えばね、大いに正しい功徳を積んで、その功徳が自己のためではなく、自己と縁のある人すべてに還元されますようにと発願すること。これが先祖の救済である。

そして、先程も言ったとおり、最高の先祖救済、それは出家し、真理を学び、真理を実践し、救済者となること。

しかし、在家でも先祖救済できないわけではない。徹底的な功徳を積みなさいと。無償の功徳を積みなさいと。これぞ真のね、先祖救済であると。

そして、そういう大きな功徳を積んだ人は、出家行者の場合は光音天に生まれ変わるだろうと。ブラフマンの世界ではなくて、四つの無量心を背景とした世界へ生まれ変わるだろうと。在家で煩悩を持っている人も、当然、とう利天、夜摩天、兜率天といったね、高い世界へ、高い天界へ生まれ変わるだろうと。

そして、真理との縁は、他を真理に結び付ければ結び付けるほど、強くなるね。太い太いパイプで結び付けられるだろう。

◉末法の世を正法の世に

現代は末法の世の中である。その末法というのは、ものの考え方が転倒してしまった世の中である。例えば、供養をしてはいけないものを供養し、供養をしなければならないものを供養しない。救済しなければならないものを救済しないで存在している。これが末法の世の中であると。

しかし、今ここにオウム真理教が存在している以上、この末法の世の中を正法の世の中に変えていかなければならない。それは、信徒の皆さん、あるいはここ

に集っているシッシャ一人一人が、あるいは、大師一人一人が意識して行なわなければならないことだ。大いに縁のある人を救済しよう。

はい、それではこれでわたしの話はこれで終ります。

◉地獄へ落ちた先祖を救うには

――オウムの考え方では、人間が亡くなった場合、四十九日以内にいずれかの生に転生するので先祖供養は意味がないということなんですけれども、これは動物界以上に転生した人はまあいいと思うんですよ。

しかし、地獄界・餓鬼界に転生した霊魂にとっては、子孫による供養みたいなものは何らかの意味があるんではないかと思うんです。つまり、子孫が先祖に対して供養する気持ちが、地獄界・餓鬼界にいる霊魂に対して何らかの影響を持つんではないかと思うんですが。

（尊師）質問してよろしいですか。例えばね、地獄へ落ちるカルマがあったとしましょう。それは当然、苦しまなければならないから地獄へ落ちるわけだよね。

それはいいですか。ということは、そこで苦しまなかったらどうなりますか。

――カルマは落ちないわけですか。

（尊師） というと、どうなりますか。苦しむ期間が長くなるだけだよね。わかりますか。つまり、先祖のために祈った日が一日だとしたら、その日は楽だと。でも、その一日分がプラスされて苦しむと。というのは、どういうことかというと、データを止めることはもともとできないからね。

――その苦しんでるのが、いくらか慰められて、また元気が出るということはないですか。

（尊師） それはないね、残念だけれども。ただ、一つだけ先祖供養があるよ。これはみんなわかるかな。出家して、あるいは出家しなくてもいいいから解脱すること。そして、人類のために働くことだ。なぜならば、その両親がいたから聖なる魂がここに存在したわけだからね。その功徳というのは先祖七代に及ぶといわれています。

ところが、例えば他のものによって一時的に苦しみを和らげたとしても、それ

は単に、借金があるのに、また他のところから借りてきて借金するようなもんなんだね。

どういうことかというと、二つのパターンがあるよね。例えば一つは、ここに一千万円の借金をしていた人がいるとしよう。――これは大切な比喩だからね、よく覚えておくように――そして彼は、この一千万のうちの、五百万を投資していたと。もちろん一千万の借金はしてるわけだよ。で、その中の五百万を投資していたとしよう。で、彼は一千万の借金で苦しんでると。ところが、この投資が実を結んで、一千万以上の利益を上げた。そうすると、この人は借金苦から解放されるよね。

この投資というのが、つまり子供なんだよ。だから、この子供が聖なる魂となって救済活動を始めたならば、この投資してた分が返るんです、親に。なぜかというと、子供のために悪業を積んでいるわけだから。わかるかな。

例えば、子供がかわいいために悪業を積んでるわけだよね。そうでしょ。一生懸命、仕事をするとき、例えば嘘をつくんだって、「あー、お母ちゃん、あるい

は娘、息子にいいものを食わしてあげたい」と思うからやるわけだよ。

ところが、この娘や息子が成就し、そして救済活動に回ったならば、この悪業は、即善業に変わると。そういうタントラの考え方があるんだね。だから、これは上に上昇すると。つまり、両親が悪業を積まなければ、この子は生きていけなかったんだということになるんだ。いいですか、ここまでは。

ところがそうではなくて、ここで一千万借金してた人が、「苦しいわ」と言ってサラ金からまた五百万借りたとする。そうすると、借金は一千五百万になる。確かにこの五百万で生きてはいけるよね、しばらく。どうかな。しかし、いずれ自分で自分の首を絞めることになる。これがカルマの理論です。

◉釈迦牟尼の先祖救済

――仏典で、マハーモッガラーナのお母さんが餓鬼界に落ちたという話があるということは、成就しているにもかかわらず、その母親が餓鬼界に落ちているというような事例があると思うんですが……。

（尊師）いい質問だと思うね、それは。例えば、それについてこういうふうな形で答えることができる。マッリカーの話を知ってるかな。

――知りません。

（尊師）これは、パセーナディー王の后なんだけれども、結局、彼女が淫行したわけだね、犬と。それによって地獄に落ちたわけだよ。でも、徳があったから一週間で抜け出しているわけだね。

だから、モッガラーナの母親も餓鬼のカルマがあったわけだけど、例えば、それが永遠に続く苦しみであったら、釈迦牟尼もお考えになったかもしれない。しかし、逆に苦しませることによって霊的な成熟があるからこそ、マハーモッガラーナに対して、「汝、それは執着なり」という言葉を言ってらっしゃるわけだね。わかりますか。それは母親のカルマだからと。

そしてもう一つは、先程も述べたとおり、マハーモッガラーナという偉大なる神通力者を生んで、救済活動のお手伝いをさせたわけだから、早く抜け出すということだ。いいかな。

――わかりました。

◉仏壇はいらないか

――先祖供養はいらないという話を聞きましたが、仏壇なんかもやはりいらないのでしょうか。

（尊師） 仏壇には何を飾ってますか。ご先祖様でしょ。それは仏陀ではないですから、仏壇とはいえません、そうでしょ。だから、それは何かというと先祖壇（笑い）と。仏壇というのは釈迦牟尼仏をはじめとする仏陀、成就した人を飾っているのを仏壇といいますから。わかりますよね。

そうすると、面白い例が神道なんかにあるんだけども、非常に気の短い人を一生懸命供養していると、その人も気が短くなりますね。同じように、例えばご先祖様で、すごく念の悪い人を供養したら最後ですね、これは。

――そうしたらやはり、その影響を受けるんですか。

（尊師） ええ、当然受けるでしょうね。そのカルマをしょうでしょう。

◉より良い転生をさせるのが大切

――現実に人間が死んで、やっぱり社会習慣に従って、やはり何か、その死んだ後始末をしなくちゃいけないわけですね。

そうしますと、オウムの信徒になった場合、どんな形でどんなふうに、供養か何か知りませんが、死んだ後の後始末をして、それから先、どのように考えていったらいいのか、ご指導いただきたいと思います。

（尊師） 今考えていることはですね、ポアを実践させようと考えています。それは成就すると亡くなった後、肉体が滅びますね。その後、必ず幽体っていうのは抜け出します。それはマニプーラから抜け出します。その世界が、例えば、スヴァディスターナとか、あるいはムーラダーラの方に下降するか、あるいは上昇するかは、一つはその人のカルマなんです。

もう一つは、それを今度修法するのによく読経しますね、例えば。「魔訶般若波羅……」ってやりますね。あの読経している人はそれを見て、引き上げられるかどうかなんです。だから、実際は亡くなられたと。で、何日間、まあだいたい、

そうだなあ、現代人の場合は三週間ぐらいは固定されてます、だいたい。だから、その間に、例えば成就した人がそこに行って、それを修法して、上に引き上げたら、その人は高い世界に入るでしょう。

で、当然そこでもう肉体から離れて高い世界に行った段階で、その骨というものは焼いて、後はまあ、オウムでも一応墓は用意するつもりでいますけどね。

――それはぜひしていただきたいです。

（尊師） ええ。やるつもりではいますよ、一応。

――で、その後はもう何もしない。

（尊師） もうその後はいらないですね。

――はい、わかりました。どうもありがとうございました。

（尊師） 大切なのは、その抜け出した魂をどの世界へ放り上げたらいいかということでしょう、それは。だからその、いかにポアさせる実力を持つ成就者を作るかということが、わたしの課題だと考えていますから。

――そういたしますと現実問題で、亡くなったときにオウムに連絡をすればいい

わけですか。

（尊師）そうです。もう少ししたら、確実にそのシステムができると思います（注・現在、オウム真理教のポアおよび先祖救済システムは確立されている）。

――そうですか。ありがとうございました。

第三章　要注意！　守護神が足を引っ張ることも

◉偉くなったあなたに嫉妬する守護神

――守護、指導霊というものについて、この機会にぜひお聞かせ願いたいと思うんですが。

（尊師）守護神っていうのはだいたい二人から三人の守護神がつきます。それはどういうことかというと、まずその人が欲界レベルの、だいたい第二天界に至るまでの守護神がつく、まずはね。功徳のある人ですよ、これはあくまでも。

そして、それを乗り越えるときに、その第二天界まで応援した人は、必ず今度は足を引っ張ります。よろしいですか。それはそうだよ、だって自分も第二天界

までしか行けないんだもん。自分が守護してたのが、どんどんステージ上がっていったら、こりゃ駄目だと思って引きずり下ろしますよ、これは。いや、そういう世界なんだ。あなた方だってそうでしょう。それまで自分がどんどん引き上げていったのが成長したと、ところが自分より偉くなったら、これは困ったと、やっぱり思いませんか。いやその世界なんだね、これは。

それで次は、第三天界っていうのは、これはあなた方もよく知ってる閻魔天の世界ね、夜摩天といっているんだけども、この世界だから関係がない。

それで第四天界からは、今度は兜率天、ここからまた別の守護神がつきます。そして、だいたいアストラルのね、報身の世界、ここまでだいたいついていきます。

そして最後には、前生のグル、あるいは最高霊といったらいいのかな、それが本性身の世界でつきます。

だからだいたい三人つくとお考えください。で、もちろんこの第二番目の兜率天レベルの人は邪魔しないよ。もう精神的に安定してるから。よろしいですか。

だから、どのへんのレベルをいってるかだね、問題は。だから現象的に満足したければ、やはりその足を引っ張る守護神にお願いするしかないと。そうでなくて、高い世界に入って、最終的にマハーヤーナに到達しようと考えるんだったら、その守護神は切り捨てなきゃならない。

まあとにかく、これはダライ・ラマ法王もおっしゃってたことだし、あるいはまあわたしが今までに会った聖者も言ってらっしゃることだけど、今の日本の宗教というものは、先程言ったとおり、まあ欲界のね、だいたい阿修羅の世界までの宗教だとお考えになってよろしい。

だから第一番目の守護神っていうことになるよね、今一般的に説いているのは。だって例えばだよ、守護神がついたから金持ちになれるとか、あるいは恋愛がうまくいくとか、これはばかばかしいと思わないか。

例えば、人の三倍働けば、金持ちにはなれるよ。どうですか、それは。それからちゃんと女性を口説くような練習を一生懸命やれば、それは女性にはもてるようになります、それは。わざわざ一生懸命、念力でこうしたって、それは念力で

寄って来る人は、念の強い人で、最終的には不幸になるよ、それは。だからそこはなんか、本末転倒してるような気がするよね、わたしは。

◉「守護霊が先祖霊」はあり得ない

――守護霊というのは、その先祖の霊だというふうに本に書いてあるんですが、本当でしょうか。

（尊師）そういうことはあり得ない。よろしいですか。ただし、俗にいうところの、先祖の悪い因縁によってね、家系がおかしくなるということはありますよ。その悪いエネルギーによってね。どういうことかというと、例えば先祖が殺生ばかりしてたとしましょう。そうするとそこは、殺生界とつながる磁場ができてる。そうすると、例えばそこで生まれ育った子供にも当然、怪我や悪いことが連発して起こるでしょう。その人が亡くなってもだよ。それはなぜかというと、その親の子供として生まれたわけだから、その条件をしょってるわけだね。ところが子供がきちんと自己のカルマを消滅したならば、あるいはこの磁場を変化させたな

らば、それも消えてしまいます。だから、守護霊が先祖であることは百パーセントありえない。よろしいですか。

第四章　あなたの知らない心霊治療の恐ろしさ

◉体が良くなるのと引き換えに……

――いろんな霊能者の方が心霊治療っていうものをなさっていますね。近所の方も、その心霊治療でだいぶ良くなったっていう話も聞きますが、それについて、どう見ればよいのでしょう。

（尊師）それは霊能者の持っているプラーナ、生命エネルギーを注がれたわけですね。ですからその人の持っているカルマも当然しょってしまうでしょう。だから確かに肉体的には一時的に良くなるかもしれないけれども、例えば、食べる好みが変わりますね。それからものの考え方も変わってきます。

例えばオウムのメンバーはわたしにシャクティーパットを施されると、即解脱だ、悟りだと言い出します。それからマハーヤーナだ、大乗だ、救済だと言い出しますね。これは今言ったとおりのことです。

つまり、何をやっているかというと、コーザルのデータを入れ替えてるわけです。例えば狐つきの状態だったならば、まあ、恐らく今生で発現するかしないかは別として、狐つきになるでしょうね、当然。

だからそこらへんの判断というものは、つまり病気があって、その病気というものね、これだけを見るか、それから長い生命の流れを見るかによって違ってくると思います。

それからもう一つは、病というものは、知らせなんですね。知らせとは何かというと、例えばここでガンの人がいたとしますね。そうするとそれは、今お前は貪欲だからガンになっているんだと、だからその貪欲を消滅しないと次の生では大変な目に遭うぞという知らせなんです。

だからむやみやたらに治してはいけないわけです、本当は。それを霊能で治し

てしまうと、悪いことをやっても構わないから、その人に帰依すればいいんだという考えが出てきます。そうすると、次の生、その人は、帰依した人の、子分というか弟子というかになるんでしょうね。そして例えば、その帰依した人がオスライオンに生まれ変わったなら、メスライオンとして生まれるとか、そういう形になると考えられます。

ですから魂の流れというのは、これは点ではありません。線ですね。だからその始めもない終わりもない線でね、例えば病気をしたって、それはカルマなんだから、それは今自分に、自分の守護神が、あるいは主宰神が教えてるわけです。お前はこうだからこうなんだと。で、それを当り前に素直に受けてもし実践するならば、ほとんどの病気は治るでしょうね、それだけで。どちらを選びますか。

じゃあ、わからないという人がいるね。いや、でもそういったって来世があるかどうかわからないじゃないかと。だからわたしは二カ月、三カ月、四カ月の独房修行をさせて、極限修行をさせて、あるいはシャクティーパットを施して、いろんな神秘体験をさせるわけです。それによって、あなた方の知らない高い世界

があるんだよ、そして輪廻転生というものはあるんだよ、ということをあなた方に今やっと証明し出してるわけです。

以前のお寺さんには地獄絵がありました、必ず。しかし近ごろのお寺さんにはないんですね、これ。そして地獄の話をする僧侶って少ないです。ほとんどいないんじゃないんですか。それは瞑想技術というものが、はっきり言って次元が落ちてきているからなんですね。瞑想を完璧にこなしたならば、三昧に入ったならば、地獄道からマハーヤーナに至るすべての世界が理解できるようになります。だからわたしが今話していることは、それを背景としています。

ですから手でエネルギーを入れる。あるいは触らないでエネルギーを入れることは、はっきり言ってマイナスです。それは、ある段階の精神的ステージがないと、煩悩のない状態でやらないと、相手にカルマをしょわせることになります。だからオウムでは、それができる人にのみ許可してます。よろしいでしょうか。

第五章　魔術、ヒランヤ、幸福を呼ぶペンダント……〝幸運グッズ〟が不幸を招く

◉人が幸福になるためには

人が一体幸福になるためには、どのようにしたらいいか。一体幸福になる道はあるのかと言ったら、それは当然ありますとわたしは答えます。じゃあ、どのようにしたらいいのかという質問に対しては、わたしはあなた方が幸福であるとき、あるいはあなたがゆとりがあるとき、苦しんでいる人を本当に幸福にしてあげなさいと。しかもあなたが将来において、苦しむであろう、苦しみを持った人に対しては、特に親切にしてあげなさいと、答えます。

それはなぜかというと、すべては因があり、その因を根本として縁が生じ、結

果が生じてくるわけだ。だから例えばあなた方が、他人を幸福にしようと、他人を真実の世界に入れようと考えたならば、あなた方が本当に困っているとき、本当に苦しんでいるとき、あなた方に必ず、真の愛の手が差し延べられるだろう。

ところがだよ、俺はオウムの信徒だと、俺は幸せだと。他はどうでもいいんだという考えをもし持っていると、そこには必ず落とし穴があります。

◉絶えず謙虚に

じゃあ、その落とし穴を防ぐためには、どうしたらいいんだ。それは絶えず謙虚になることなんだね。例えば、今、自分が幸福であると、自分の心が安定してきてると、しかし、それは決してわたしの力ではない。例えばそれはシヴァ神のお力であると。例えばある人は大内にすがったんだったら、ああ、大内さんがいたからわたしはこうやって幸福なんだと。例えばシャンティーに悩みを解決してもらったら、シャンティーがいたからわたしは幸福なんだというふうに考えなさい。その訓練を一つ一つ積み上げていくならば、あなた方の心というものは、ど

んどんどんどん成熟していくだろうね。

あなた方は不思議に思うかもしれないけど、わたしの今の修行もそうだよ。わたしの瞑想というものは、とにかく、絶えずシヴァ神のしもべでありたい、そして、時間、距離関係なくね、シヴァ神の意思なさることは何であるかだけ追い求めていく。そして、わたしがあなた方のお手伝いができるのも、すべては、わたしのグルであられるシヴァ神のお力であると考えています。そして、その感情というか、その気持ちというか、それが完全にわたしのものになったとき、わたしは一般的にいわれている不動ではなくて、そこでは、大涅槃と言ったらいいのかな、完璧な安定を得たね。

オウムの信徒が一番気を付けなければならないことは、例えばあなた方は、地獄を破ることもできるだろう。餓鬼を破ることもできるだろう。動物を破ることもできるだろう。人間を破ることもできるだろう。阿修羅を破ることもできるだろう。しかし、神々を破ることができるだろうかなという、わたしはこの一点だと考えている。それは今のオウムの修行システムからいくと、神々の世界までは

楽に行けるわけだけども、その神々の世界を突き破るというのはなかなか難しいわけだね。それはなぜかというと、本人の自覚がない限り、本人の謙虚さがない限り、この慢というものに没入したら、もう最悪なんだよ。

だから、あなた方が絶えず幸福な気分になるためには、二つ言ったよね。一つは、まず本当に苦しんでいる人を、本当の意味で解放してあげなさい。もう一つは、あなた方が幸福になってきているんだったら、そのあなた方に幸福を与えたものに対して、謙虚な気持ちで、お礼を言いなさいと。簡単なことだね、これは。それをやることによって、あなた方は必ずや成熟した心の持ち主になるだろう。

◉ザンゲと功徳が大切

まあ新しい方もいらっしゃって、わからない言葉もずいぶん出てきてるだろうけれども、もう一つ。じゃあ、謙虚な気持ちになれない場合は、どうしたらいいんだ。これには二つの方法があるわけだね。

一つは何かというと、ザンゲをしなさい。それは、謙虚な気持ちになれないと

いうことは、ここにあなたがいて、あなたの周りをタマスが覆い隠しているわけだね。自分の嫌なとこは見せたくないとか、これを言ったら嫌われるんじゃないかとか、そういうタマスのエネルギーがあなた方を巻いています。

だからそれは、大師方に対してザンゲをなさい。それによって、あなた方のタマスをいうものはね、取り除かれます。取り除かれたら、あなた方の嫌な部分、いい部分両方が出てくる。両方が出てきた段階で、ね、あなた方は自己というものを知ることができるわけだ。そしてこれがまあ悟りにつながるわけだけども。

じゃあ、嫌な部分といい部分が出てきたとき、次にわたしたちは何をやればいいんだと。嫌な部分をつぶすためにはどういう方法があるんだという、質問が出てこよう。それに対してはこうだ。功徳を積みなさい。功徳を積むことによって嫌な部分は消えますよ。嫌なデータが消えますよ。じゃあ、麻原、なぜ功徳を積むことによって消えるんだ。

◉心を早く成熟させよ

そうすると、今日の本題。先程からのヨーガ・タントラの本題に戻るわけだけども、つまりここにコーザルのデータがあって、アストラルがあって現象界があると。現象界で功徳を積めるということは、その人のコーザルレベルでは、かなり浄化した意識があるわけだ。だから今、言い方を換えれば、功徳の積めない人は、もう駄目だということだね、これは。

いや、そんなことはない、イメージだけで功徳を積んでもいいんじゃないかと。ところが、それはおかしいわけだ。何がおかしいかというと、アストラル、つまりイメージの世界はこの現象界に降りてくるわけだ。現象界に降りてきている行為がだよ、全く功徳と関係ない悪業の塊みたいな行為をしていてどうしてアストラルの世界が、その人は浄化されているといえるか。

だから、現実の面で功徳を積みなさいと。そしてもう一つは、ザンゲをしなさいと。で、この二つを完璧にこなしたならば、必ず心は成熟しますよ。できるだけ早く、心を浄化しなさいよと。心が浄化されね。熟し切ったならば、あなた方

はいかなる修行をやったとしても、例えばそれは、タントラの修行をやったとしても、あなた方に失敗はないんだよ。

それはなぜかというと、あなた方のコーザルのデータがね、功徳、神々、グル、これしかないと、例えば。そうすると、あなた方は上の世界へ行ってからも、功徳、神々、グルしかないと。絶えずこの三つの影響を受け続けていくわけだよ。

そうじゃなく、例えば、名誉欲とか権力欲とか、あるいは恨みとか嫉妬とかそういうものがあったら、データがあったらだよ、上の世界へ行って、強いエネルギーを持った、要するにその、俗にいうところの悪魔といわれてる、エネルギーと感応しなければならなくなるわけだ。で、魔境に入るわけだね。いいですか。ですから、今日説いたとおり、功徳、それからザンゲ。この二つはあなた方の修行のベースとなろうと。

◉魔術をすると魔境に入る

はい。少し魔境の話をしようかね。この中で、白魔術をやったことのある人、

黒魔術でも白魔術でもいいから、ちょっと手を挙げてください。ちょっと前に出てきてくれるかな。年数はどれくらいやりましたか。

（信徒A）二年くらい。

（信徒B）そんなに、何カ月か。

（信徒C）一年くらい。

（信徒D）あの、ただ、インセンスとか、オイルとか買ったりしただけです。

（尊師）使っちゃいない？

（信徒D）使ってます。インセンスは使っていないけど、オイルはちょっと。

（尊師）使った？　あなたは？

（信徒E）三年前に、一回か、二回やって、あとは、本を集めたりして……。

（尊師）まず、百パーセント高いステージ入ったら、魔境に入ると思いなさい。だからそれまでに、完璧な功徳を積んで乗り越えないと。

というのは、わたしがあずかった弟子の中の二人がひどい目に遭っている。いずれも二人とも魔術をやっています。それはなぜかというとその、アストラルの

イメージを使ってけがしているわけです。だから、イメージを使うことの恐怖というか、それを味わわなければならない。だから、あなた方もまず気を付けなければならないのは、功徳をベースにしなさいよと。で、高い霊性、高いエネルギーを引っ張り出すよりも、何よりもまず、行為の修正をしなさいよ。

◉魔術をすると必ず狂う

これは他の宗教団体に入っている人で、魔術的な行法をやった人も同じだよ、これは。必ず来るからね、お返しは。いいね。だからこれは、わたしのあなた方に対する口頭伝授だ、特別の。力のない修行をやっている人は大丈夫ね。単にマントラ唱えるとか。西洋魔術っていうのは力があるんだよ、それだけ。つまりイメージ化していくための力があるわけだ。だから力のあるもの、まあ、多分オウムの修行もそうだよ。ものすごく力があるわけだね。だからオウムでなぜ口を酸っぱく、功徳、功徳、功徳って言っているかと、そこなんだ。

魔術をやると必ず狂うね、これは。だから、決して狂わないように。本当だよ、

これ。決して狂わないように。わたしの知ってる人はみんな狂ってるから、今のところ。やっぱ、三人の特徴というものは、俺が俺がっていうか、そういう性格を持ってたから。あなた方は謙虚だから大丈夫だと思うけども。だからこの要素は必ずつぶしなさいよ。もう少し専門的な話をするから、終わったらちょっと向こうに入ってきなさい。ちょっと口頭伝授があるから。君たちが魔術の世界から抜け出すためのね。よし、じゃあ、バックしていいよ。

だからね、わたしは、そういう意味でいったら、すごく尊敬しているんだね、西洋魔術を。なぜ尊敬しているかというと、日本の宗教というのは力がないけど、西洋魔術というのは力があると。つまり、言い方を換えれば、アストラルの住人たちとコンタクトできるわけだ。で、あなた方も功徳を背景にして修行したならば、必ずコンタクトできます。高い世界の神々と。しかし、もし単なる欲のために、ヨーガ・タントラに入って修行したならば、大変なことになるからね、これは。だから気を付けるように。

◉幸福を呼ぶペンダントはみんな邪気

――すいません。そうしたら、今俗にいう幸福を呼ぶペンダントですとか、あの手のものも……。

（尊師）みんな同じです。あれについては、わたしは四人くらいから相談を受けまして、握ってみたら邪気なんですね、あれね。

――ああ、それじゃあ、絵とかいうものもみんな……。

（尊師）あれはもう完全に妖怪のアストラル世界ですね。あの幸福を呼ぶ絵でしょ、あれ。

◉黒魔術も白魔術も駄目

――今までずっと、その質問の内容聞いてみると、その黒魔術とか白魔術というのは、そのオウムの見地から見れば、間違った、その潜在面のアプローチだと思うんですけど、そういう間違ったアプローチの仕方は、全部駄目なんですか。

（尊師）全部駄目だ。

――じゃあ、僕も……。

（尊師）お前もか（笑）。

――魔術ではないんですけど、アルファコイルとか……。

（尊師）ああ、同じだそれは、駄目だ。

◉ヒランヤ、アルファコイルも魔術だ

――もう一つ、つまらないことなんですけどヒランヤというのはどうでしょうか。

（尊師）じゃあ、言いましょう。アルファコイル、ヒランヤ、それから魔術、それから呪法、それからもう一つは火を拝むもの、火を拝むものといっても、それが自己のために拝むもの。他のために拝む場合は関係ありません。これは、みんな魔術です。いいかな、これで。

◉魔術をやると夢見が悪くなる

――先程おっしゃられた西洋魔術の修行についてですけど、聞いていて怖くなっ

たんですが、僕もちょっとやってたんです。ただ、本格的にどこかの団体に入ってというのは違って、ただ本で独習してただけなんです。神秘体験もしないし、超能力もつかないということで、結局やめちゃったんですけど。

（尊師）夢見が悪くはなりませんでしたか。

――いえ、別に。変化っていうのが全然なかったんです。

（尊師）夢は覚えていますか。何を見ているか真っ暗でしょう。ほとんど覚えてないでしょう、夢は。

――ああ、夢はあんまり覚えてないです。

（尊師）でしょう。もう完全にそれ自体が魔境ですよ。いや、本当に。だから普通はイメージを使ったものは、夢で現われてくるから。だから、その夢で判断できるわけだけども、その判断ができないくらいに、暗いわけです。それは明らかに影響出てますよ。それは間違いないでしょうね、それは。

――最近は、またちょっと、夢を覚えていられるように……。

（尊師）オウムの修行を始めたのはいつですか。

――まあ、だいたいそれくらいから。

（尊師） 夢がはっきりしてきたでしょう。ですからオウムは光を超えていますので、当然夢見が鮮明になってくるでしょう、それは。ただ魔術は、もう既にアストラルのデータっていうのは、現象界に現われてきますから、それは注意しなきゃならないですね。まあ後で来なさい、一回説明しなきゃ。困るよね、これは。

◉徳なくして超能力を使えば地獄

――会社で社長が超能力の本を出されたんです。で、いろんな人に、お得意さんに伝授したりしてますけども、社長の言う超能力を実行していたら、その後どうなるでしょうか。

（尊師） まず、はっきり言えることは、地獄に落ちるでしょうね。なぜかというと、例えばここにAという人が、なべ一杯の功徳を持っているとしましょう。そして俗にいうところの願望成就といわれているものは何かというと、このなべ一杯の功徳をコップで一杯、一杯汲み出してる状態です。そして、それがなくなっ

た後もやったらどうなるかというと、それは悪業となってどんどん積み上げられていきます。そうすると悪業がいつの間にか積み上がって、死んでしまったとしましょう。その人はどうなると思いますか。この悪業によって地獄に落ちるしかない。　ただね、これは信じる信じないは自由なんですね。しかし、信じようが信じまいが来世は地獄です。これは簡単だね。

　そしてもう一つ言えることは、その超能力というものがあって、本当にそれが超能力であるか超能力でないかのテストだね、してみたらわかるよ。例えばここにシールがあって、そのシールというものを媒体として意志を使ったと、そしたら他のものに較べてこのシールは御利益があるんだということで強烈な意志を使うわけだ。当然願望がかなうかもしれない。しかしそれは先程も言ったとおり、このなべの総量で決まるわけだから、その人はどんどんエネルギーを使い果たしていくわけだ。使い果たした後も意志を一生懸命使って、最後は魔境に入って地獄に落ちるというプロセスになります。そしてわたしはその例を何例も持っています。

――そしたら今生においてはしっぺ返しはこないんですか。

（尊師） 今生においては徐々に徐々に、その人の言ってること、やってることがおかしくなります。必ずおかしくなります。今生で積んだカルマは来世で出てくるわけだけれども、あまりにもひどいカルマを積むと、今生で必ず返ってきます。

◉超能力を使うとエネルギーも減る

――超能力を使うことは、なべの功徳を少しずつ擦り減らしていくということですけども、エネルギーについてはどうなんですか。

（尊師） 功徳も減るし、エネルギーも減るでしょう。功徳というのはエネルギーだから。だから、オウムのシッディ・コースの経典を持ってる人はわかると思うんだけども、パタンジャリの『ヨーガ・スートラ』の八段階システムをオウムでは採っていますね、今は。その一番目と二番目は何かというと、善をなせ、悪をなすな、ということです。それによって願望成就したいときは、必ずなべ一杯のエネルギーを蓄えておくと。そして使ったら、また補っておくと。で、本当に必

要なときに、その超能力を使うべきであるという方法を採っています。

◉六星占術は根も葉もない

――ここ何年か、ちょっとブームになっている六星占術というのがあって、それによるとわたしは、今年、来年が大殺界に入るんですけれども、ああいうものは根拠があるんでしょうか。

（尊師） わたしはそれについては知らないんだよね。だから、その原義がわからないから答えられないんだけれども、要するに、内容としては天中殺みたいなものかな。

――要するに十年に二年かは、非常に良くないときが来るというんですけれども。

（尊師） それは十二年に二年ですね。十二年が周期ですね。それは俗にいうところの天中殺と同じ意味ですね。あれはどういうものかというと、根も葉もないと。実際に今年、来年ね、修行を一生懸命なさってごらんなさい。特に、徳をお積みになってごらんなさい。すごく良いことが起こるから。これは約束しましょう。

だから、大殺界なんて、根も葉もないと。そして、そういう本を読んで苦しむということは、過去において嘘をついたカルマだと考えた方がいいですよ。だからそれは全く信用してはいけない。

◉いらなくなった魔術グッズの処理

――わたしもいろんな教団や魔術的なことをやってきたんですが、その都度、例えば五宝塔なり、なんなり、いろんなものがだんだんたまってくるんです。で、そういった物の処置は、どういったふうにしたらいいのでしょうか。

（尊師）一番いいのは、返すのが一番よろしいですね。自分はこの教義とは合わないというか、この教義は実践できないということで、お返しになるのが一番よろしいでしょう。

――はい、わかりました。

第六章　間違った護摩法で火の災害に遭う

◉日本密教の限界

――密教についてお伺いします。日本の密教で一番有名なのは弘法大師空海だと思いますが、彼のレベルはどの程度だったのでしょうか。

（尊師）彼のレベルというよりも、日本の密教全部についても言えることなんだけどね、限界は阿羅漢だよ。

じゃあ、なぜ、阿羅漢と言い切れるか。もし、阿羅漢ではなく仏陀の道を歩いている人だったら現世利益は説かない。

それはなぜか説明しよう。すべてのカルマというものは原因によって結果が生

じる。これはわかるな。例えば護摩法を一つ取ってみようじゃないか。護摩火に、護摩木を供養する。その護摩木に願望を書く。炎の力によって、願望を成就するとしよう。そのときの原因は何だ。今日の話は少し難しくなるかもしれんぞ。願望成就の原因は火によるトランス、つまり一種の精神集中だ。

そして、それはアストラル世界に影響を与えている。つまり願望を成就することで、アストラル世界に借りを作った形になる。そうしたら結果としては、願望は成就するかもしれないけど、次は必ず火によって痛め付けられるという結果となる。わかるか。火によってプラスのエネルギーを受けたわけだから、次は火によってマイナスのエネルギーを受けることになる。

だとしたら、そういう法は真理の法であるか、あるいは邪法であるか、考えなさい。そうすると、その法を展開している弘法大師空海の少なくとも、精神的ステージ、原因と結果に対するものの考え方、洞察力というものは、真理を見抜いているとはいえない。この場合彼の霊的ステージは別だけどね。どうだ。いいかな、答えはそれで。

◉これが真実の護摩法

――今の空海の問題で、これと同じことを、以前質問したことがあるんですが、そのときに「いわゆる空海の現世利益の問題は、当時の世相としてはしょうがなかったんだ」という尊師のお答えを受けたんですが……。

（尊師） そのとおりです。ただね、条件があって救済者は生まれてきます。それはわかりますか。

だから『マハーヤーナ・スートラ』の初めの文章を読みましょう。その中に「日本人の精神的ステージが低かったせいで、本当の仏教というものは、本当の真理というものは、この日本に根付かなかったのでしょうか」という疑問をわたしは投げかけています。わかりますか。

つまり言い方を換えるならば、空海が生まれた時代の状況、そして、空海の登場というものを見た場合、空海レベルの救済者で十分な時代であったということです。

しかし、今はもうそれではいけないわけです。空海レベルの人はいますね、そ

こそこそ。そして一生懸命、護摩壇を組んで、龍神様だとかいろいろ出していますね。

――我々は、それは判定できないわけですね。

（尊師） いや、判定はできるじゃないですか。なぜ、できると言い切れるかというと、それは今言ったとおり、仏教というものは条件説法だからです。ヨーガというものも条件説法であると。条件によってものを見ていたならば、物事ははっきりわかるじゃないですか。

例えばね、本来火の供養、火の世界というものは、阿修羅の世界、神々の世界を表わしています。それはわかりますね、マニプーラ・チャクラの世界が火のステージであるということはわかっているね。そして、マニプーラ・チャクラは阿修羅・天界のステージなんだ。つまり火を供養すると阿修羅とか神々が動き出します。

そうすると、もし本当に願望があるならば、願望を一切意思しないで、最も自分の必要なものをどんどん供養するんです。そうして、神々と阿修羅に貸しをつ

くっておく。あとは、その貸しが一定量を越えたならば、自分は意思しなくても、必要なときには勝手に返ってくるんですね。これが真実の護摩法のはずだ。

現にチベットとかインドの密教では黄金を燃やしますよ。黄金を溶かしますよ。これは、大きな図書館にある密教辞典とかに書いてありますから、それを考察なさい。

そして、もう一つ大切なことがある。チベット仏教とかインド仏教ではこの護摩法は所作だといってるんだ。儀式だといっているわけです。つまりそれは、ベースなんだ。これは瞑想に入るための儀式なんです。神々に対するあいさつなんです。

――必要ないということですね、現在の日本では。

（尊師） いや、そんなことはない。オウムだって護摩をやります。

先程も言ったように、徳というものは、積み過ぎると必ず利息で生きていけるようになります。それを神々とか阿修羅に対してやれば。

じゃあね、なぜ純粋な意識を持った人でないとそれができないかというと、例

えばAという護摩法をやってる人間が、「物を食いたい、物を食いたい」と思って火の供養をしているとしましょう。そうするとその供養した物はすべて神々、阿修羅の世界に行って、食べ物となって還元されます。

純粋な供養とはどういうものであるかというと、あなた方のいろんな願望があるでしょうけども、そんなことはどうでもいいと。いったんわたしが受けてあげて、例えばだよ、阿修羅、神々に供養してしまう。まあ、オウムでは阿修羅、神々には供養しないけどね。そうすると、これは麻原を通じて供養している人たちの魂であるということで、あなた方が困ったときにはポッと力が現われます。わかりますか。わたしがもし弘法大師空海の時代に生まれたならば、その方法を採ったでしょう。

――方法がちょっと違ったということですね。

（尊師） そうです。じゃあ、なぜ密教はいけないんだというと、単に煩悩を増大させているにすぎないからです。煩悩以外の目的が何かありますか。

――煩悩を消滅させるのが最高の目的ですね。

（尊師）そうでしょ、煩悩を消滅するのが最高の目的でしょ。つまり、煩悩を消滅するのが最高の目的であるにもかかわらず、密教は煩悩という壁を厚くしていってるわけだね、結果的には。じゃあ、これは聖なるものか聖でないものかは、もう歴然としているじゃないですか。そういうものの考え方をしましょう。

例えば、空海偉い人、最澄偉い人というのではない。そういうことはわたしにとってはどうでもいいことです。つまり、その人たちがいかなる生き方をしたかということの方が大切だね。

第七章　解明！　オーラの正体

◉オーラを生活に活かすには

――わたしはオーラというものを信じています。アメリカではそういったものを数式でちゃんと証明できるそうですね。

（尊師）甘露水の話は聞いているか。あなた方は現代の科学に侵されているから、説明するならば、これは、あなた方の大好きな東京大学の理科の実験室の中で、わたしの純粋な透明液っていうのがあるんだね。

これは何かというと、要するに普通の純粋な水と。これを三本用意して、一本はわたしがエネルギーを込めたもの、そして一本は単にわたしのそばに置いてい

たものと、そして一本は暗室に、全然別個のところに置いていたものと。

で、わたしの込めたものに関しては、確実に光のエネルギーというものが吸収されるわけです。どういうことかというと、光を発しています。これはちゃんとデータがあるわけだ。

だから、あなたが先程おっしゃった、万能主義・万能科学の中でも、きちんとわたしの超能力というのかな、力というのは証明されています。もし必要だったらそのグラフを見せてもいいよ、それは。

――そういう超能力を少しでも普段の生活に生かしていく方法はないのでしょうか。

（尊師）オーラというのは、何が原因でできているかわかりますか。

――精神力ですか。

（尊師）そうです。逆の言い方をするならば、精神力が強いときはエネルギーを発していると。精神力が弱いときにはエネルギーを吸収している状態になるんですね。まず、それは理論的にわかりますか。

そうすると、例えばオーラの使い方というのは、例えば自分が疲れているときにはエネルギッシュな人のそばに行けばいいと。で、逆に自分が、エネルギーがあり余って、ちょっとイライラしているとか、そういうときは、逆に病人のそばに行ってあげると。そうすると精神的に安定すると。そういう働きはありますね。実験してごらんなさい。

それによって、それを実践することによって、心がすべての原因であると、そして、その心が発しているオーラというものは、言い方を換えれば、プラーナの現われにすぎないんだということがわかってきます。よろしいでしょうか。

だから、あなたがもし、豊かな心で、例えば子供さんに接しられたら、例えば子供さんのちょっとした病気も治るでしょうし、そういう使い方はできるでしょうね。

つまりどういうことかといいますと、ここにあなたの心があって、その周りをエネルギーが取り巻いていると。それはまずいいですか。

そうすると、そのいい心を持っていますと、その周りのエネルギーというもの

は、いい方向に変わるわけです。人を幸福にしてくれる方向に変わります。それはいいですか。そうすると、例えば子供さんが、ここにいらっしゃって、子供さんがなんらかのエゴの働きによって、病気になっていらっしゃった場合、そのエネルギーの流れというのは非常に悪いです、これは。それはいいですか。そうすると、あなたがいい心で、いいエネルギーで接したならば、この子供さんは良くなるでしょうと。すべては心の現われです。

ではここでね。正しい食事があるとしましょう。正しい食事を正しい心を持って実践なさる人は、ものすごいスピードで健康になっていくでしょう。ところが正しい食事を間違った心で実践なさる人は、なかなか良くならないでしょう。それは、正しい食事というものは、正しいエネルギーなんですね。ところがそれがいったん人体に入って、間違った心を持っていたら、間違ったエネルギーに変わってしまうんですよ。だから例えば、ある人は正しい食事をすれば治ると、ある人は正しい食事をしても治らないということになりますね。

それと同じように、あなたが正しい心を持っていらっしゃれば、そのあなたの

周りのエネルギーは豊かになりますし、それから、幸福な波動を出しますし、その波動を受けられて、子供さんにしろ、ご主人にしろ、とにかくそれと感応して健康になって、幸せになれるんですね。それがオーラといわれているものです。そして、強い願望持てば、オーラは大きくなります。意気消沈すればオーラは小さくなります。よろしいでしょうか。

◆第二部　至福をもたらす真理の実践◆

第一話　一切の苦しみを断つ十の実践

「十戒、その素晴らしい恩恵」

◉戒の実践――幸福への鍵

今日はどのようにしたら現象的に幸福になれるか、それは結局、言い方を換えるならば、持戒を守るということ、あるいは持戒を守らないということ、この表裏の関係に、その人が幸福になる、ならないというものがあるんだよ、という話をしたいと考えるわけです。

それはどういうことかというと、まず、ここに修行者がいた、あるいは修行者でなくてもいい、凡夫がいたとしよう。この人は殺生をしなかった、全く生き物を殺さないで、すべての生き物を慈しんだとしよう。生き物を慈しむということ

は何を意味してるかというと、その背景には心の優しさというものがあるよね。だから、心の優しい人の周りには、当然、心の優しい人が集まるわけだから、この人はどうだろう、安らいだ生活が送れるだろうか、安らかでない生活が送れるだろうか。

（信徒）安らいだ生活。

うん、そうだね、安らいだ生活が送れる。

そうすると、今度は逆にだよ、もうとにかく、自分を害する生き物はみんな殺してしまえと、どんどん殺したと、あるいはどんどんいじめたとしよう。この人の心の状態というのはどういう状態だろうか。殺伐とした状態だろうか、それとも安らいだ状態であろうか。そうだね、殺伐とした状態だね。

だから、殺生をしないで生き物を慈しむ、これを実践してる人にとっては、この世は安らいだ生活、安らいだ空間になるということになる。逆に、殺生をして、あるいは生き物をいじめる人にとっては、この世は殺伐とした空間ということになる。

同じ、〈この世〉という空間にいながら、例えば、この殺生という一つの戒の実践をなすか、なさないかによって、わたしたちは安らかな生活を送ることもできるし、あるいは殺伐とした緊張の生活に放り込まれるということになるわけだ。だから、それは、あなた方が、どちらの道を選ぶか、あなた方が考えなければならない。これが第一だ。

◉施し——心の解放のために

次は、ここに自分のものがあって、それを施す人がいたとしよう。どんどん施す人がいたとしよう。この人は、この行為の実践によって、執着というものが落ちると思うか、落ちないと思うか。実践をし続けているうちに、落ちると思うか、落ちないと思うか。

(信徒) 落ちる。

そうだね、落ちるね、当然。

では、もう一つ聞こう。ここに、人の物があって、それを盗んでいる人がいた

としよう。この人は周りを気にして、いつ見つかるんじゃないか、いつ逮捕されるんじゃないか、あるいは、いつ人に詰め寄られて、殴られるんじゃないかという気持ちに襲われると思うか、襲われないと思うか。

（信徒）襲われる。

そうだね、襲われるね。そうなると、この偸盗、盗みというものの背景に何があるかというと、盗みをしないで施した人は心が執着から解き放たれる、安らかな状態になれるということだ。

では逆に、盗みをした人はどうなるかというと、その人は周りを絶えず気にしなければならない。緊張の状態に追い込まれるわけだ。確かに、盗んだときに、一時的に物を得て幸福感を味わえるかもしれないけど、その裏側に心の緊張というものを得るわけだから、さあ、果たしてどちらが得だろうかという問題になる。これも、あなた方が考えなさい。これは第二の戒だね。

◉不邪淫——心を下降させないために

では次、第三の戒だ。邪淫だね。これは修行者だったら、あなた方男性も女性も、オウムの会員だったら経験してるはずだ。例えば、性エネルギーを漏らした状態と、漏らさない状態とでは、どちらがいい瞑想ができるかという問題。それからもう一つは、クンダリニーの上昇は性エネルギーを漏らした状態と、漏らさない状態では、どちらの方が上昇するか。漏らさない方が体が熱くなるよね。漏らしたら体が冷えるよね。これが修行者における第三番目の邪淫の戒だ。

そして、在家の修行者にとってはそうではない。じゃ、性欲があって異性をだまして、あるいはお金を使ってセックスをしたとしようではないか。そのときに性的な感覚、つまり触覚的な喜びは生じる、これはOKだね。しかし、そのときに心は殺伐とすると思うか、それとも心も幸福感に浸ると思うか。どうだ、これは。殺伐とするよね。

密教の経典ではこのようにうたわれているよね。たとえ夫婦であっても、相手が悲しみに暮れているとき、たとえ恋人であっても、相手が、例えば怒り狂って

いるとき、あるいは悲しみに暮れてるときにセックスをしてはいけないと。

これは何を意味してるかというと、要するに関係が深ければ深いほど心はつながりが深いわけだよ。つまりアストラルとかコーザルでのデータの入れ換えが起こりやすいわけだ。

そうなると、例えば、相手が悲しみに暮れてると、セックスをしている最中に、その悲しみが自分に移ってしまう。ね。そして、相手が泉のように悲しみをわき出していたならば、彼女の、あるいは彼の悲しみが減らないで、二人が悲しまなければならなくなってしまう。二人が暗い気持ちになってしまう。怒りも同じだ、これは。だから、こういう状態のときにはセックスをしてはいけないよ。

それから、もう一つ、生理中にセックスをしてはいけない。なぜ、生理中のセックスはいけないかというと、アパーナ気優位の状態になっているから――アパーナ気というのは何かというと、下降させるエネルギーだったね――その優位の状態でセックスをすることによって、よりいっそうアパーナ気は強くなるわけだ。そうすると、アパーナ気が強くなると心というものは、それと連動して引き下が

るから、下の世界に落ちてしまうから、やってはいけない。

よく日本の修行者は血でけがれるとか言うんだけど、それはあり得ません。すべては気の働きで考えてください。

◉嘘をつかない——堂々と生きるために

はい、次は、質問しよう。いつも真実をここに語っている人がいたとしようじゃないか。この人は堂々としていると思うか、堂々としていないと思うか。

(信徒) 堂々としてます。

そうだね、堂々としてるね。では、いつも自分の都合のいいように嘘だけをついている人がいたとしようじゃないか。この人は堂々としていられると思うか、いられないと思うか。

(信徒) いられない。

そうだね。だから、嘘をついてはいけないよということになる。つまり、堂々と、自分はここに存在していると、そして堂々と生きたければ、人の顔色を伺っ

て生きたくなければ真理を語りなさい、正しく言葉を語りなさい。これが第四番目の戒だ。

◉不飲酒――五蘊をコントロールしなさい

そして、在家においては第五番目戒、酒の戒がある。出家者においては、また違った戒があるよね。まず、在家の戒の第五番目のできるだけ酒を飲むなというのは、もうわかるよね。酒を飲むと自分の意識というものはコントロールしやすくなるか、しづらくなるか。

（信徒）しづらくなる。

しづらくなるね。だから、酒は飲むべきではないと、できるだけ。

どういうことかというと、ここに真我があって、真我が自分の心、これはあるいは「識」という、意識という言葉で言ってもいいかもしれない、あるいは、意志、欲求のコントロール、これは、仏教では「行」といっているよね。そして、イメージ、これは「想」といってる。そして、感覚、これは「受」といってる。

そして、肉体的なもの、肉体の動きをコントロールするために、どうしたらいいか。これを自由自在に操るためにはどうしたらいいかというのが、ヨーガであり、仏教である。

そうすると、酒が入ると、この五蘊といわれている、五つの集積といわれているものがコントロールしづらくなる。つまり、修行の害である。

「じゃあ、おかしいじゃないか、麻原。禅でも、今、他の仏教でも飲んでるぞ、酒を。」

と。いや、それは、日本の仏教は飲んでいるだろうけど、インド仏教では飲んでいないよ。だから、わたしは日本に真理はないですよと言ったのは、そこだ。

酒を飲んだら、当然コントロール不能になる。ということはだよ、例えば、マリファナ、あるいはLSDといわれているもの、ああいう覚醒剤的なものも、あるいはタバコも害だということになるね。薬物でコントロールすることは正しくないわけだ。

じゃあ、仙道で言うところの地丹はどうだ。これも薬物だ。確かにそのとおり

だ。地丹は使うよね。では、何のために地丹を使うのかというと、これはエネルギーの補強のために使うんだね。だから、意味合いが違うわけだ。つまり、覚醒させるために使うのではなくて、逆にコントロールしづらい状態でエネルギーを強める、これが地丹の狙いだからね。

その負荷分、負荷というのは、例えば、あなた方が修行していて、何も持っていない状態で歩いているとしよう。そして、例えば地丹を飲むことによってエネルギーが強まる、煩悩が強まる。そうすると、あなた方は普段の状態に五キロ、十キロ、二十キロと負荷重量を乗っけた形になるんだ。その状態で歩きなさいよというのが地丹だからね。

そして、その地丹のエネルギーを昇華していくのが仙道だね。仙道というのはタントラと、まあだいたい同じようなものだと考えてください、わたしの言ってる仙道という意味合いはだよ。

では、質問しよう。その地丹についての質問だけども、例えば、普段二十キロをしょって歩いている人が全くしょわないで道を歩くことができたら、それは楽

だと思うか、それとも大変だと思うか。楽だろ。これが地丹の理論だ。ところが今まで何もしょってなかった人が二十キログラムしょったら大変だ。だから、地丹を飲んで修行を始めると大変になるんだよ、修行者は、煩悩に巻き込まれてしまって。それで失敗して修行を挫折する人もいる。だから、この道を選択する人は選ばれた人でなければ駄目だね。はい、じゃあ、酒の戒までいったよね。

◉「両舌、悪口、綺語」――正しく優しい言葉を

次、人と人とを仲たがいさせてはいけないよということについては、どうだ。例えば、AさんにはBさんの悪口を言うと、BさんにはAさんの悪口を言ったら、AさんとBさんは仲たがいします。これはOKだね。では、もし、このAさんとBさんが、あなた方の発言によって仲たがいしたんだということを知ったならば、どうだろう。それはあなた方は恨まれるだろうか、喜ばれるだろうか。恨まれるね。だから、この両舌というものをしてはいけない。AさんとBさんを仲たがいさせてはいけない。

では、今度は逆に、AさんとBさんを、あなた方が中にいて、もし取り持ったら、仲良くさせたら、それはどうだろう。AさんとBさんが、あなた方が、それをやってくれたんだとわかったとき、あなた方に対して感謝するだろうか、しないだろうか。感謝するよね。

では、ここにAさんがいて、あなた方が本当は心に悪く思っていないんだけど、悪口をペラペラとしゃべったと、そのAさんの悪口を。そのAさんは気持ちがいいだろうか、悪いだろうか。

（信徒）悪いです。

気持ちが悪いよね。

では、もし、あなた方が正しい言葉で相手に優しく絶えず語りかけたとしよう。このとき相手はあなたに対して喜びの気持ちを持つだろうか、それとも嫌な気持ちを持つだろうか。おべっかではないんだよ。正しくと言ってるね。正しく優しい言葉をかける。これが、悪口や、不悪口との違いだね。つまり、悪口を言うなかれの背景にあるものだ。

ではだよ、例えば、今、タレントの中でいろんな面白い言葉を発する人がいるけども、これは一見楽しいよね。しかし、その発している人に対して、あなた方は信頼の念が持てるかどうか。そういう発言をしょっちゅうしている人に対して信頼が持てるかどうかだ。面白いとは思うけど、信頼しないんじゃないか。もし、面白いから信頼すると言う人がいたら、この「綺語」というのは善ということになる。そうではなくて、そういうことばっかり言ってる人は、確かに遊びとしては楽しいかもしれないけども、真理という意味においては、それは尊敬できないと考えるんだったら、綺語というものは、やはり十悪の一つということになる。

やはり優しく正しく語った人の方がいいんじゃないか。あなた方が修行しようと考えたならば、尊敬しようと考えたならば。ここでは、一種の沈黙があるね。皆さん、面白いのが好きなのかもしれないな。

では、もう一つ見方を変えよう。その相手が、楽しくというか、面白い言葉をいろいろ発してるときに、時間はどんどん過ぎていくよね。このとき、あなた方は得るものがあるか、ないか。

（信徒）ない。

ないよね。では、今までの釈迦牟尼が説いたときからの綺語という定義を変えてしまおう。つまり時間の浪費だから悪業であると。今、あなた方の感覚からいったら、それが正しいだろうから。こういう法なんていうものは、要するにきちんと背景に真理があればよろしい。

そして本当はね、一つの戒には、今説明したような一つずつの意味合いではなくて、たくさんの意味合いがある。その一つずつをわたしは引っ張って、あなた方に説明している。まず、あなた方は、その一つを押さえなさい。そうすると、あなた方も時間があまりないわけだから、修行者としての。だから、そういう綺語を発してはいけない、それから聞いてはいけないということになる。そして、優しくて丁寧な、ね、言葉、そして真理を語ると、その実践をなしなさい。そうすると、そこで七つだ。

◉貪りを離れなさい

では、ここに物があって、例えばこれは十人で分けるものを、「これはわたしの物だ」と、独り占めした人がいたとしようじゃないか。この人に対して、あなた方は敵意を感じるか、それとも「ああ、この人は素晴らしい」と感じるか、どうだ。これが、貪りだ。

今日はすべて、あなた方と他という関係で話を説いているよ。また、次の機会には違った角度で説くかもしれない。

では、ここに十個の物があって、十人いて、十個のうち九個を皆に分け与え、最後の一個までも九等分して、分け与えた人がいたとしようじゃないか。その人を、あなた方は素晴らしいと思うか、思わないか。どうだ。

(信徒)素晴らしいと思います。

これが、貪りを離れた状態だね。

◉瞋りの滅却――菩提心を培う

ではもう一つだ。ここに人がいて、理由もなく、しょっちゅう大声を出して怒鳴って怒ってたとしよう。この人に対して、「ああ、この人は素晴らしい」と、「尊敬できる」と考えるか。

では、例えばだよ、マハーモッガラーナみたいに、あるいはウッパラヴァンナーみたいにね、たとえ殴り殺されても、たとえ頭を叩き割られても、これは自己のカルマである。そして、彼らがわたしを殴り殺したことによって、わたしの、このけがらわしい肉体というものを捨てさせてくれたことを感謝する。その偉大なる功徳によって彼らも覚醒してくださいよ。彼らも真理に到達してくださいよというような心の持ち主がいたとしたら、あなた方は尊敬できるか。これが、怒りの裏側にあるものだ。だから、今、九つ説いたよね。

◉無智の滅却――真理を実践するために

では最後に。

ここに真理の実践がある。しかし、その真理の実践をすることによって、自分の執着を捨てなければならない、あるいは自分の物を布施しなければならない。そして、その人は見えていないと。それを実践することによって高い世界へ上がれるんだと。あるいは、次の転生は素晴らしい世界に行けるんだと、あるいは解脱できるんだ、あるいは成就できんだと。あるいは、怒りを捨てたことによって、同じように綺語を発しなくなったことによって、悪口をなさなかったことによって、あるいは、AさんとBさんを仲たがいさせなかったことによって、酒を飲まなかったことによって、あるいは邪淫をしなかったことによって、あるいは盗みをしなかったことによって、あるいは嘘をつかなかったことによって、あるいは、殺さなかったことによって、高い世界へ行けるということはわかっているけども、例えば、そんなのは未来がわかるわけではないから知らないと。

そして、知らなかったがために地獄へ落ちたとしようじゃないか。あるいは餓鬼へ落ちたとしようじゃないか。あるいは動物へ落ちたとしようじゃないか。このときにだよ、あなた方は、「わたしはあのとき、あの教えを聞かなくても、こ

れでよかったんだ」と考えるだろうか、考えないだろうか。「いや、わたしは、あのときあの教えは聞かなくてもよかったんだ。これで幸せだ」と考えるだろうか。

だから、そのためには、初めから説いた、酒も入れて十の戒を、つまり全部で十一あるわけだね、在家と出家と今合わせているわけだから。この十一のうちの十の戒をきちんと実践すると。そして教義を読んで、経典を読んで、真理と照らし合わせる、あるいは現象と照らし合わせることによって、それが真理であるということを直感したと。そのとき修行に入れるかどうか、入っていける人、入っていけない人、両方いるわけだけど、入れるかどうかということが、一番大変な、あるいは大切な戒である、無智の壊滅ということになるね。無智というのは何かというと、要するに真理を実際に知らないということだ。その壊滅ということだ。

そして、あなた方が、このトータルで十一の戒を実践したならば、あなた方は当然、幸福な世界へ行けるだろうし、この世でも幸福になれるはずだよというのが、この戒の意味合いなんだよ。

◉役者たちの転生

一つ、面白いというか、偉大な釈迦牟尼の話がある。わたしは、釈迦牟尼の偉大さをいろいろと証明してるけども、『阿含経典』の中に「聚落主相応」というのがある。その中で、歌舞伎役者について法を説いていらっしゃるところがある。

そのインドというのは、カースト制が昔からあって、歌舞伎役者は歌舞伎役者で、一つの村を形成している。その村を形成している村の長、つまり一番長の人だ。この人が釈迦牟尼のところに行った。そして、釈迦牟尼に、こう聞いているわけだ。

「先祖代々、わたしたちは皆さんを喜ばせている、歓喜させている。だから、わたしたちは喜楽という天界へ行けるということですけども、吉笑という天界へ行けるということですけども、どうでしょうか」

と。それを三度聞いて、釈迦牟尼は、わたしに、そういうことは聞いてはいけないと、三度返答していらっしゃる。そして、四度目に、

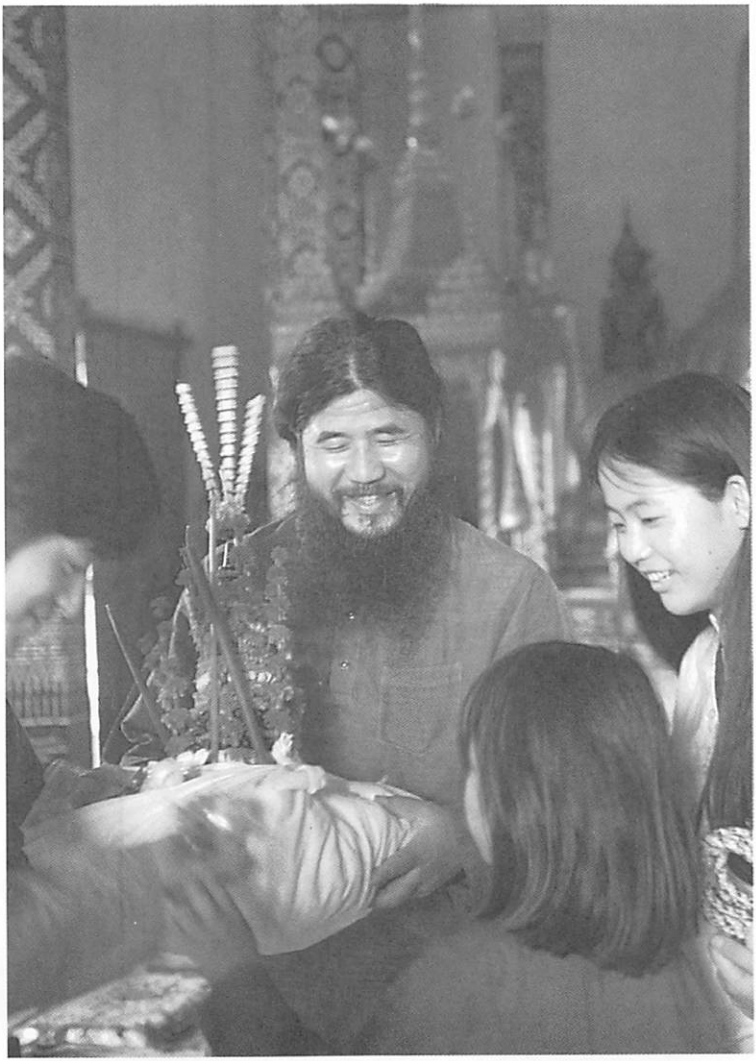
「じゃあ、わかった。村の長よ、話そう。昔から人間というものは、怒り、貪

り、そして、無智、あるいは愚痴に覆われていた。そして、役者というものが現われて、怒りの場面を演じて、それによって凡夫たちは、ここではこう怒ればいいんだなと考えて、怒りのエネルギーがいっそう強くなった。あるいは貪りの場面を演じると、凡夫はそれを見て、ここの場面ではこう貪ればいいんだなということで、いっそう貪りが強くなった。あるいは愚痴を演じる、あるいは真理を否定する無智を演じるということによって、凡夫は、ここの場面ではこう演技すればいいんだなと考え、いっそう、そのエネルギーが強くなった。だから、村の長よ、役者は吉笑という、あるいは喜楽という地獄へ落ちるんだよ。そして、それをもっと言い換えるならば、それは地獄と動物界である」と言ってらっしゃるんだよ。いいかな。では、わたしは、どうしてそれを証明しようとするのか。これはポイントだね。これはちょうど、わたしの「水中エアータイト・サマディ」のときの新聞に――「朝日」か「読売」だったかと思うな――新聞に猿のことが書かれていたんだよ。で、猿には、旧型の猿と新型の猿がある。そして、新型の猿――あれは南アメリカだったと思います――新型の猿というものは、すごく芝

居がうまいんだって。泣きまねをしたり、とにかく、芝居がうまいんだそうだ。あれ、これはおかしいね。釈迦牟尼は地獄の道と動物の道があると言ってらっしゃるよね。ということは、彼らはわたしの魂の友である人間だったことがあるんだということだね。そして、そこで役者を演じていて、無智なるがために、そのカルマによって猿に転生したんだということが言えるわけだ。ということは、一つの動物の世界において、それがあるとしたならば、もっとひどいのは、きっと地獄に落ちてるだろうね。わたしがあなた方に提示できる例というのは、そういうことしかない。

そして話を戻すよ。あなた方が十の戒のうち、少なくとも五つの戒をできるだけ実践したならば、他の人よりは少しは良い世界へ行けるだろうということを保証できよう。もちろん、完璧に実践したならば、少しの罪もなさないように実践したならば、それは、より高い世界へ、あなた方が飛躍する、飛翔することは間違いなかろう。いいですか。では、今日の説法これで終わりにしましょう。

一九八八年三月二十七日　東京にて



第二話　幸福へと至る三つのステージ

「帰依し、施し、自己を律せよ」

◉帰依――何に魂をゆだねるか

今日の説法は修行のベースとなるような、そしてあなた方に利益をもたらすようなことについて話したいと考えています。

まず、修行に必要なものは何かといったら「信」、あるいは「帰依」ですね。そして、次に三つの布施がある。そして十の戒めがある。そして三つの精神を鍛え上げる訓練がある。そして、三つの修行プロセスがある。そして、十の瞑想プロセスがある。そして、最後に真理がある。これが一般的に大乗の仏教といわれている六つの極限を現代的に言い直した内容です。

まず、帰依から入りましょう。

一体帰依とは何かというと、いろいろな世界が構成されていて、例えば暴力のカルマのある人は、その一群を形成する。これが地獄だね。例えば、貪りのカルマの強い人、絶えず物を求めている人。これは餓鬼の世界を形成する。真理を見つめようとしない生き方をしている生き物たち。これは動物の世界を形成する。そして情のしがらみに引っかかっている、情の影響を受けないときは正しく物が見られるんだけども、一たび愛情という色眼鏡が、愛情という障害物が目の前に現われたときに、それに影響される一群。これがヒューマン・ビーイングだ、人間です。そして、ある程度の功徳があるが、しかし、まだ完全な状態ではない。背景に闘争本能のある生き物たちの集合体。これが阿修羅だね。だから、阿修羅を嫉妬の塊だといっているわけだね。そして、一応は徳が満ちて、満足し切った状態、徳を使い果たしている状態。これがデーヴァ、天界だね。

で、帰依というものは、今の六道でもわかるとおり、どの意識の世界に自分の魂を、自己の真我を委ねるのか、これが帰依なんだよ。

◉清らかな水の中へ——浄化される魂

例えば、真理に帰依をするとしたら、その六道の背景にある、いや、それよりも高い世界に根差している教えというものに帰依するわけだから、当然帰依を続けていくうちに、真理の実践を続けていくうちに、あなた方の心、魂は浄化されるであろう。

これはちょうど、水にたとえることができるんだね。ここに濁った水がある。ここに色の付いた水がある。ここに藻の生えた水がある。ここに透明な水がある。この例えば四つの水の存在している湖があるとして、そのどの湖の水をあなた方が飲むかと、あるいは、あなた方がどの湖で泳ぐかということとね、帰依というものとは全く同じであると考えたらよろしい。

もちろん、わたしたちヒューマン・ビーイングはね、人間は、決して魂が清らかだとはいえない。そして、周りを見ると、わたしたちと同じようなカルマの人たちがいるわけだから、それと真理とを比較した場合、初めは違和感がある。あるいはつらいことがあるかもしれない。しかし、清らかな水に、例えば身を委ね、

実践している人たちの話を聞き、そして自分自身も少し実践してみて、自己のけがれというものを知って、もし真理に帰依することができたならば、たしかに今まで慣れた水、今まで慣れた人間の世界というものは楽だけれども、わたしたちに本当の喜び、本当の幸福を与えてくれるものではないなということがわかるはずだ。つまり、帰依というものはどの世界に没入するか、どの世界の水を飲むか、どの世界の水の中に浸り切るかということの意思表示、そして試みなんだね。

◉煩悩を落とす――真理に対する帰依

例えば、ここに色の付いた水があって、その人はその色のついた水の中で生活していたとしよう。ところがその人にある日迷いが生じ、そしてドブ川の中に入ることが幸福なんだという誤った情報を得たとしよう。その人の魂はどうなるかな。色の付いた水というのは、物事を正確に映し出さないだけであるから、そう大した害はない。しかし、ドブ川の水を飲むとしたら、それには、わたしたちの体を害するものもたくさん入っているだろう。これが間違ったものに対する帰依

ということなんだね。

逆に広大なここに湖があったとして、その広大な湖が透明だったとしよう。そして、そこに今まで色の付いた水の中で生活していた人が入って、体を清めていくと。初めは自己のけがれが、その透明な水に浸透して、自己の周りは若干けがれたように見える。しかし、広大な湖だから、その人のけがれぐらいは簡単にぬぐい去ってくれる。そして、いつしか自分自身も、今まで付いた色が抜けて透明になってしまう。これが真理に対する帰依なんだ。

そして、真理というものは、今わたしが話したとおり、あなた方の煩悩を一つずつ落としていく——抑えるんじゃないよ——落としていくプロセスが必ず含まれています。これは真理の教えである。そうではなくて、あなた方の煩悩というものを一つずつ増やしていく教えがあるとしたら、それはあなた方を濁す、つまりドブ川の教えだということになる。そのどちらをあなた方が選択するか。これを釈迦牟尼は択法覚支と言っているんだね。それでこれは、真理に到達する偉大な七つの条件のうちの一つであると言ってるわけだ。

そして、今あなた方はここに、透明になるための、あなた方の魂を向上させるための機会に恵まれた。このチャンスを、あなた方がものにできるか、あるいはものにできないかは、あなた方の過去世から現在に至るまで積み上げてきた善業と悪業の結果であると考えたらよろしい。

この帰依というものが完全にできた段階で、いや正確にいうならば、帰依というものは実践だから、あなた方が最終の解脱をするまで帰依ができたとは言えないわけだけれども、少なくとも、つらいけれども帰依をして、実践をしていこうと考えた段階で、第一ステージの布施の極限の修行に入っていくことになる。

この布施の極限というのは何かというと、三つあるわけだね。まず、物質的な執着を落とすための、あなた方の持っている財産の布施をしなさい。二つ目に、あなた方の心を柔軟にし、清めるための、他人に優しくする布施をしなさい。三つ目に、あなた方が今生で、あるいは来世でも真理に巡り合えるように、真理を伝播する布施をしなさい。これが三つの布施だ。

今日は、このことについてはあまり触れない。わたしが話したいのは、この次

の持戒だからね。で、この三つは何を与えるかというと、あなた方に行為として——これは財施だね——あるいは心として——これは安心施のことだね——あるいは真理として——これはあなた方を解脱に導くという意味においてね——の堅固たる土台を築き上げることになる。

そして、この第一ステージが終了した段階で、第二ステージに入る。今日は会員だけではなく、非会員の方もいらっしゃるから、これは非会員の方が今日この話を聴いて今日から実践するだけでも、あなた方に恩恵を与えるわけだから、この話をしたいと考えます。

◉十戒——三つのカルマの浄化

まず、これはヨーガにしろ、仏教にしろそうだけども、十の戒め、そのソースとなっているものに、三つのカルマの浄化というものがあります。それは何かというと、まず身のカルマを浄化するために生き物を殺してはいけないよ。盗みを働いてはいけないよ。邪淫、つまり愛のないセックスをしてはいけないよ。口を

浄化するための行為として、嘘をついてはいけないよ。必要のない言葉をしゃべってはいけないよ。悪口を言ってはいけないよ。人を仲たがいさせるような言葉を吐いてはいけないよと、四つの戒め。そして、心を浄化する訓練として、貪りを離れなさいよ。怒りを超越しなさいよ。そして真理を見極めなさいよ、真理を否定してはいけないよという、心の三つの戒があります。

これを合わせて十戒だといっているんだね。さあ、この十戒は一見なぜ行なうかわからない、そのように考えるかもしれない。しかし、これには深い深い意味合いがあるんだね。それについて今から話そう。

◉不殺生――与えらる幸福と優しさ

まず、生き物たちを殺すということは、あるいは生き物たちをいじめるということは、そのとき心にはどういう働きが生じるだろうか。それは自己を保存したい、あるいは自己のために他はどうでもいいんだという心が生じるだろうか。それともすべての生き物が、あるいはすべての人たちが幸福になってほしいという

考え方が生じるだろうか。どちらですか。

（信徒）前の方だと思います。

そうだね。そして、「類は友を呼ぶ」のたとえがあるけれども、生き物を殺す人たちの、生き物を物としてしか考えられない人たちの心は、そういう人たちを集めます、周りに。それは、生き物を殺している人たちを幸福にする行為だと思いますか、不幸にする行為だと思いますか。

（信徒）不幸に……。

そうですね。つまり、殺生をしてはいけないよというのは、別に周りの生き物の生命を保全しなさいということだけではない。それは、それを実践する人たちを幸福にするという意味合いがあるわけだ。そして、それは優しさ、本当の意味での相手を安らがせる優しさというものを、あなた方に与えることになるだろう。これが第一の持戒。生き物を殺してはならないよという意味合いだ。つまり、生き物を殺すということは、だれを不幸にしているかというと、あなが方自体を不幸にしているんだということを理解しなければならない。

◉不偸盗――卑屈さと安定した心

持戒の第二ステージ。盗みを働いてはいけないよと。これは仏教の流派によってもいろいろあるわけだ。少しぐらいの盗みは働いてもいい。あるいは、全く盗みを働いてはいけない。これは、わたしは後者だと考えている。盗みを働くときの人の心というものは卑屈さを作ると思いますか、それとも安定を作ると思いますか。

（信徒）卑しい心を作ると思います。

そうですね。卑屈さを作る。では、卑屈になった心の働きというものは、ものをありのままに映し出すと思いますか、それとも、ものを正しくなく映し出すと思いますか。

（信徒）正しくなく映します。

そうですね。ということは、この盗みをしてはいけないよというのは、だれのために盗みをしてはいけないんですか。盗まれる人のために盗みをしてはいけないのか、それとも盗みをする人のために盗みをしてはいけないのか。どうですか。

（信徒）盗みをする人。

そうだね。盗みをする人のために盗みをしてはいけないよと。これが持戒の第二番目に来る不偸盗の戒。盗みをしてはいけないよという戒の背景にあるものです。

◉不邪淫――二つの意味合い

では次、第三番目に来る邪淫の戒はどうだろうか。快楽を貪ることは、たしかに楽しい。快楽は喜びである。快楽からわたしたちが離れることは、なかなか難しい。それはＯＫだ。北海道の方は、なかなか純情な方が多いから、これについての質問はパスして、少し、わたしの見解を説明しよう。しかし、エネルギーを漏らした後と、漏らす前とでは、肉体の状態、あるいは意志の強さ、意志の状態というのは、まるっきり別になるんだね。つまり、邪淫というものは、精神を不安定にするものであって、安定させるものではない、本質的にはだよ。ところが、現代の情報は逆のデータが入っているからね。つまり、ストレスがあるんだった

ら漏らしてしまった方がいいというデータが入ってるから、皆さんはそのデータに翻弄されながら生きている。だから両方の――つまり真実はエネルギーを漏らすことによって、意志の力を含めて、肉体も弱っているわけだけど、もう一つの正しくないデータによって、「ああ、ストレスから解放されたんだ」という安堵感を得る。

修行者と、それから在家の修行者とでは、この邪淫の戒の意味合いが違うんだね。もし、解脱を望む者がいたならば、決してエネルギーを漏らしてはいけない。そして、在家の修行者の場合は、まあ、エネルギーを漏らすのは仕方がない。しかし、そのときに心に卑屈さを作ってはいけないよ。例えば、愛のないセックスをしたときに、そのときに心というものは喜びに震えるだろうか、それとも空しくなるだろうか。どうですか。うん。

（信徒）空しくなる。

空しくなりますね。だから在家の修行者は、少なくとも愛を背景としたセックスをしなさいよと。これが、在家の邪淫の戒だね。そして、出家行者の邪淫の戒

は、先程言ったとおり、エネルギーを漏らすことによって、意志の力、肉体的な力が弱るわけだから、当然漏らしてはいけないよということになるわけだ。そして、この三つのカルマを、三つの修行を実践するならば、肉体的なカルマというものは、行為のカルマというものは、徐々に徐々に消滅していきますよということになるわけだね。

◉四つの口のカルマ——微細な世界への影響

口のカルマには四つあると言ったね、わたしは。嘘をつくな。必要のない言葉をしゃべるな。そして、仲たがいをさせる言葉をしゃべるな。悪口を言うなと。

この口のカルマというものはね、あなた方が生活している上において、周りがあなた方に正しい言葉を話しかけてくれる条件となる、一つは。もう一つは、これは、ちょっと難しい話だけれども、この世というものは、この現象界、それから微細な世界、そして原因の世界という三つの世界ででき上がっているわけだけども、その微細な世界の中に入り、その微細な世界を正確に理解することので

きる条件を作ってくれるわけだ。

例えばね、嘘をつくとタマスのエネルギーが――まあいきなりタマスというのは非会員の人わかるかな――この宇宙を構成している三つのエネルギーがあるわけだけれども、それはラジャスというエネルギー、ラジャス・プラーナだね。そしてタマスというエネルギー、タマス・プラーナだね。そしてサットヴァというエネルギー、サット・プラーナだね。この三つのエネルギーから成り立っています。そして、ラジャスはわたしたちの煩悩を背景として、あるいは熱エネルギーを背景としているエネルギーであると。タマスは、一見美しく見えるけれども、愚鈍なエネルギーを背景としている。それでサットヴァは、透明な光で、それはすべてをありのままに照らす。この三つのエネルギーから構成されている。そして、わたしたちのカルマというものは、この三つのエネルギーによって、その果報を受けることができるわけだ。

◉不妄語――混沌からの脱出

で、嘘をつくということは、嘘をつく背景には、自己を美しく見せたい、あるいは自己をかばいたいという、そういう心の働きがあるわけだから、当然タマスのエネルギーが優位になる。そうすると、あなた方の周りはタマス優位の世界ができ上がる。これは混沌とした状態だから、あなた方の行為そのものが遅れる結果を一つは招く。

はい、もう一つ。嘘をつくということはだよ、あなた方の周りに一枚、磨りガラスを入れたような状態になるわけだから、周りから見てあなた方は美しく見えるかもしれない。しかし、中に入っているあなた方は、例えば周りを正しく見ることができると思うか。どうですか。できないね。これが嘘をつくカルマの恐怖だね。つまり嘘によって固められた人の人生というものは、物事をありのままに見ることができないから、いずれ他人の嘘によって、あるいは正しくない判断によって、人生を狂わせますよ。これが、嘘をついてはいけない戒の意味合いだ。

きる条件を作ってくれるわけだ。

例えばね、嘘をつくとタマスのエネルギーが――まあいきなりタマスというのは非会員の人わかるかな――この宇宙を構成している三つのエネルギーがあるわけだけれども、それはラジャスというエネルギー、ラジャス・プラーナだね。そしてタマスというエネルギー、タマス・プラーナだね。そしてサットヴァというエネルギー、サット・プラーナだね。この三つのエネルギーから成り立っています。そして、ラジャスはわたしたちの煩悩を背景として、あるいは熱エネルギーを背景としているエネルギーであると。タマスは、一見美しく見えるけれども、愚鈍なエネルギーを背景としている。それでサットヴァは、透明な光で、それはすべてをありのままに照らす。この三つのエネルギーから構成されている。そして、わたしたちのカルマというものは、この三つのエネルギーによって、その果報を受けることができるわけだ。

◉不綺語――エネルギーのロスを防ぐ

では、次に、なぜ綺語を発してはいけないか。なぜ必要のない言葉を発してはいけないか。これはよく、インドの経典を見るとだよ、聖者が何年間沈黙の行に入ったという記述があります。わたしたちは行為によって、エネルギーをロスしているわけだね。わたしたちはしゃべることによって、エネルギーをロスしているわけだ。あるいは、わたしたちは心を動かすことによって、煩悩をかき立てることによって、エネルギーをロスしているわけだ。もし、この三つの行が停止して、そしてエネルギーを保全することができたならば、わたしたちは最もエネルギッシュな状態を作り上げることができる。しかし、必要のない、たわいのない言葉を発し続けるがために、わたしたちはエネルギーをどんどんどんどん漏らしていく。そして、普通だったら当たり前であるはずの、正しく夢を見る、あるいは正しく未来を見る力、こういうものを失なっているんだね。

はい、では一つ質問をしよう。先程、わたしは言葉というものと、それから微細な世界――オウムではアストラル世界と言っているよね――アストラル世界と

いうものとが密接な関係があると言った。もし、一つの言葉によって、一つの微細な世界が形成され、それが現象界に影響を与えたとしよう。その人が、例えばだよ、絶えず必要のない話をしていたとしたならば、その人のアストラル世界は必要のあるもの、あるいは必要のないもののどちらが優位に立つか、どうだ?

そうだね。そうすると必要のないものが優位に立つということは、それは現象界に降りたとき、それは必要のあるものがあなた方の周りにそろうか、それとも必要のないものがそろうか。

(信徒) 必要のないもの。

そうだね。これが綺語を発してはいけないよ、という真の意味合いだ。

じゃあ、次だ。これは簡単だね。これは小学生並みの問題だ。悪口を言われて、「ああ、わたしは悪口を言われた。気分がいい」という人は、ここにいるか。もう、これはね、現世果報として、即返ってくるね。人の悪口を言ったら、必ず悪口を言い返される。これが悪口を言ってはいけない意味合いだ。もちろんアストラル、現象界という別の意味合いもあるけれども、これは、もう悪口を言わな

いというのは、あなた方も当たり前として受けとめてくれるだろう。

◉不悪口・不両舌――恨み、反目を生まないために

じゃあ、次だ。ここにあなた方の友人のAさんとBさんがいたとしよう。そして、AさんにはBさんの悪口を言い、BさんにはAさんの悪口を言ったと。「Aさんが何々と言っていましたよ」とBさんに悪口を言う。Aさんには、「Bさんが何々言ってましたよ」とAさんに悪口を言う。これをもしなしたならば、この二人は仲たがいをしてしまうだろう。しかし、もし、これが発覚したとき、それはAさんとBさんに恨まれるだろうか、それとも感謝されるだろうか。

（信徒）恨まれます。

そうだね。これが不両舌だね。仲たがいをさせる言葉を発してはいけないよという意味合いだ。

じゃあもう一つだ。ここにAさんとBさんがいたとして、もともとは仲が良かったんだけれども、ちょっとお互いが、まだ未熟なるがゆえに、仲たがいをしてし

まった。そして、例えばあなた方が、Aさんに対して、「Bさんはあなたのことをこうこういうふうにして誉めていましたよ」と、あるいはAさんに対して、「Bさんはあなたをこうこういうふうにして誉めていましたよ」ということで、仲を取りもってあげたとしようじゃないか。このとき、いいかな、もし二人が、AさんとBさんが、それはあなた方の力によって、自分たちは仲直りできたんだということを知ったとき、そのときあなた方に対して恨みを持つだろうか、あるいは感謝するだろうか。感謝するだろうね。これが不両舌の裏側にあるものだ。

◉心の三つの戒――貪・瞋・癡を超える

そして、貪りが多ければ多いほど、わたしたちは苦悩するだろうか。それとも貪りが多ければ多いほど、わたしたちは楽な生き方ができるだろうか。どうですか。

（信徒）苦悩する。

そうですね。これが貪りを離れなければならないゆえんです。

では、真に怒り狂うと、このときわたしたちはエネルギーを消費するか、それともエネルギーを蓄えている状態であるか。どうですか。

（信徒）蓄えている状態。

怒り狂った状態がですよ、暴れ回って。

（信徒）あっ、蓄えていない。

蓄えていないでしょう。だからこれが瞋恚という、瞋恚というのは普通のカーッとくる状態じゃないんだよ、そうやって。怒り狂うという状態なんだね。これが怒りを越えなさいよという意味合いなんだね。

じゃあ、先程の嘘と関係があるけれども、ね、これは一番初めに話した帰依と関係があるけれども、もしわたしたちがここに真理というものがあって、その真理というものを否定し、正しくないものに、一時的な結果のために帰依したとしたら、それはわたしたちの輪廻転生を、あるいはわたしたちの今後の人生を狂わせると思うか、それとも狂わせないと思うか。もう一ついきましょう。はい。

（信徒）輪廻転生を狂わせます。

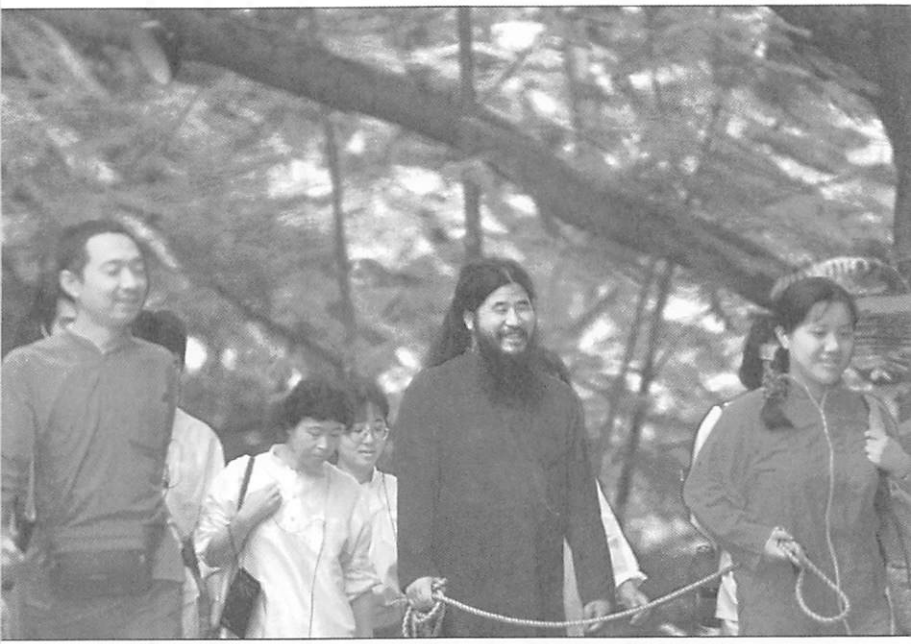
そうだね。わたしたちの輪廻転生を狂わせるわけだ。

ということは、この十個の戒めというものは、わたしたちに恩恵を与えるものであって、決して害を与えるものではない。どうだ、それは。つまり、わたしたちはこの十個の戒めを実践することによって、恩恵こそ得ることができるけども、損失は何一つとしてないわけだ。

さあ、今日、この話を聴いたあなた方も、この十個の戒めの実践をやってほしい。これはオウム真理教に帰依をする、あるいはわたしに帰依をする、しないということとは関係がない。これはあなた方に大きな恩恵を与えてくれるだろう。

そして、オウム真理教の諸君は、その段階ができた次のステップとして、意志の強化、三つの意志の強化、そして三つの精進、そして十の瞑想プロセス、そして解脱というプロセスを歩いていくことになるだろう。

一九八八年五月二十九日　札幌にて



第三話　至福へ導く仏教の最奥儀

「実践！　八正道と四無量心」

◉心をさいなむ幻影

人の心というものは、幻影にさいなまれている。この幻影というのは、一体どういうことかというと、自己の目的、自己の利益というものと相反する方向にベクトルの向きを作ってしまうということである。そして、そのベクトルの向きを本当の意味で自分自身のために向けること、それが八つの実践、そして四無量心である。

スタートから、いきなり抽象的な話になってしまった。もっとこれを具体的に表現したいと思う。

まず、人はだれでも幸福にありたいと考える。そして、その幸福という意味合いは、チァクラの示す煩悩の満足度で決まる。そして、その煩悩を満足させるための心の働きは、自己の利益と相反する方向へ現象を動かしてしまう。

例えば、おいしいものを食べたいと、たくさん食べたいと考える者がここにいたとしよう。この者は、初めのうちはおいしいものを食べ、そしてたくさん食べるという行為に走ったと。ところが、この味覚というものは、年齢とともに退化し、そして、そのおいしさを味わうことができなくなる。ところが、もし、この魂が自分のおいしいと欲するものを布施したとしよう。すると、布施された対象の喜びの感覚がその布施した者の心に伝わり、そして布施した者の味覚は倍増し、人の味わえないようなおいしさを味わうことができるはずである。

例えばこれは、「ガティーカーラ経」というお経、これは『南伝大蔵経』の「中部経典」に入っている内容の中にもあるが、ずっとずっと以前に登場したカッサパ仏を供養したガティーカーラは、そのカッサパ仏に対して供養した功徳によって、二週間、歓喜の状態にあったといわれる。

では、量についてはどうだろうか。これも同じように量をたくさん食べるということは、ひたすら胃袋が下がり、そして下垂し、大量に食べないといられなくなる。つまり、それは、初めの段階では少しで満足した胃袋が、大量に量を放り込まないと耐えられないという状態なのである。

もし、この大量の食糧の一部でも布施をするならば、その人の胃袋は死ぬまで健全な状態であり、ある一定の状態で満足を覚えることができるはずである。皆さんも知ってのとおり、この胃の下垂というのは、例えば副腎を圧迫したり、あるいは下腹部臓器を圧迫することにより、いろいろな病の原因ともなる。

◉自己の利益を離れよ

科学的に見ると、仏教の教えというものは、人を絶対的に幸福にする教えということができる。それは、自己の利益、この自己の利益を離れることにより、本当の意味では、自己に利益が還元されるんだということの教えでもある。

例えば、性欲の例を採ってみよう。本来、男性にしろ、女性にしろ、長い性的

快感を味わいたいと願望する。そして、その満足を得るために、いろいろなエロティックな本、あるいはビデオ等で情報を入れる。ところが、心はもう既にそこで頂点に達しているから、実際の交わりでは性的感覚を味わうことができない。

もし、これが逆に真理の実践をし、徳を積み、そして、そういうデータのない状態で、本当に執着する異性と交わり、性的な行為を行なったならば、それは当然、現代の人の感じる何倍、何十倍といったような性的エクスタシーを感じることができるはずである。

つまり、これも、皆さんが求めている楽しみというものと、実際皆さんが行なっている実践というものとの間に、大きな隔たりがあることを表わしている。

◉嫌悪――悪魔の使い手

では、嫌悪はどうであろうか。本来人間というものは、人と、特に愛する人たちと交わり、楽しみ、そして語らい、それを喜びと考えるはずである。しかし、嫌悪の情は、自己の心を閉鎖し、そして、いいことにつけ、悪いことにつけ、ブ

ロックすると。そして、この嫌悪の念が強くなると、相手の優しさ、あるいは相手のあったかさというものが伝わらなくなり、すべてが自分を痛め付けてるといったような被害妄想的な心の働きになり、結局自分自身を孤立させ、不幸にしてしまう。

もし、法をしっかりと学び、人の話をよく聞き、受け入れようとするならば、そのようなことはないはずである。そして、絶えず人の良さを学ぶことにより、心は成熟するはずである。つまり、この嫌悪こそ、悪魔の使い手といわざるを得ない。なぜならば、この嫌悪は、わたしたちが本来他の魂から学ばなければならない多くの利益というものを阻害するからである。

ということは、食欲、あるいは性欲、あるいは嫌悪といったもの、これらはすべて、わたしたちがこの修習をし、実践することにより、何の利益も与えず、逆にマイナスの方向に向かうんだなということが理解できるはずである。

◉愛着の思わぬ欠点

次は、アナハタ・チャクラに対する愛着はどうであろうか。愛着というものは、自己と縁の深い者に対して、その者を独占し、そしてその独占する対象、この独占する対象にいろいろ近付いてくる者に対して、それを排斥したいと願う、つまり嫌悪とも絡んでくるが、そういう感情の働きを持たせる心の働きである。この愛着は、もっともっとその魂と親しくなりたい、もっともっとその魂を知りたい、もっともっとその魂と接したいというような心の働きであるる。そして、それを根本として生起した心の働きが愛着である。

ところが、その愛着は、先程も述べたように、その愛着する対象と他とを区別する、あるいは、その愛着する対象を独占したいと思う心の働きによって、その愛着する対象に対して逆にいろいろな圧力をかける形になる。これはちょうど舟を岸に着けたいと考えていて、竿で舟を押すようなものである。つまり、力を強く入れれば入れるほど、舟は遠のいてしまう。

本来、一つ一つの魂というものは、自由でなければならない。ということは、

その自由を尊重されてこそ、本当の意味での和合というものが成立するはずである。ところが、例えば親子関係において、例えば兄弟関係において、例えば夫婦関係において、例えば友人関係において、この愛着のディフェクトというもの、欠点というものに陥りがちである。よくこれについては気を付けなければならない。

◉権力——その衣を脱ぎ捨てたとき

では、次に、権力に対する指向とはどうであろうかと。わたしたちの権力に対する思いは限りない。なぜならば、その権力というものは、権力によって多くのものを満たしてくれる。しかし、この権力は、わたしたちの着ている服にたとえることができる。つまり、これは、いつまでもその座に就くことができないということなのである。

例えば、生まれ、王子として成長し、王様となり、死んでいくと。しかし、死んだときには、この王様という衣を脱ぎ捨てなければならない。その王様という

衣を脱ぎ捨てたとき、果たしてその人が平常心でいられるかどうか。つまり、権力という乗り物を使わないでその人が幸福でいられるかどうかということ、これが最も大切なことなのである。そして、権力とは衣であるということを、権力というものは乗り物であるということを理解したならば、その権力は、すべての衆生を利する最高の衣、あるいは最高の乗り物ということになるであろう。

しかし、その権力と自分自身、服と自分自身、あるいは乗り物と自分自身とを同一であると考えるならば、この人はまさに死というものを直前にしたとき、あるいはその権力から追われたとき、その苦しみは計り知れないものになるであろう。

それはちょうど、別の表現で表わすことができる。大変な寒冷地、例えば氷点下三十度とか、四十度といったような、例えば北海道の北端。この真冬を想像していただきたい。ここに、大変暖房の効いた家があると。そして、その中で生活をしていると。この人は、こう考えた。「わたしは、北端で、マイナス三十度、四十度のところで、平気で生活することができる」。しかし、本当にそうであろ

うか。この人が生活をしているのは、マイナス三十度、四十度という外界と違い、暖房に温められた、二十度、あるいは二十五度といったポカポカの空間で生活しているということになる。権力とは、この家にたとえられる。そして、本当に幸福を願うなら、この家を取り払った状態、三十度、マイナス三十度、マイナス四十度といった中で、暖房を使わず生活できるかどうかということなのである。

そして、そういうことを培っていくこと、これが真理であり、これが仏教なのである。

◉捨の精神――ひたすら今を作り上げよ

では、徳の現象についてはどうであろうか。この徳の現象は、わたしたちを現世において、いろいろと満足させてくれる。そして、現世的な願望というものは、すべてがかなうということになる。しかし、この徳もまた幻影なのである。なぜならば、徳を積まず、徳を使い続けると、必ずその徳は切れ、そして喜びから苦しみに転落するからである。

これはちょうど、冷暖房機にたとえることができる。ある時期、暖房を入れる。しかし、その暖房機が壊れて、次のスイッチが入るとき、それは冷房機となると。しかし、もしこの暖房機を絶えず修理し、チェックし続けるなら、長い間、その暖房の恩恵に預かることができるであろう。これが、功徳の特徴なのである。よって、この功徳の現象に対して、頓着をすべきではないのである。

そして、四つの無量心の最高の心の状態は、無頓着、捨の精神だといわれている。真理でいう捨の精神とは、こういうバックボーンをもとに説かれた教えなのである。つまり、今味わっている苦楽というものは、過去、あるいは過去生のわたしたちの言葉、行為、心の働きという三つが重なり合って現象化しているにすぎないと。ということは、今味わっている喜び、あるいは苦しみというものは、今、この瞬間とは無縁なのである。つまり、これはあくまでも過去の幻影であり、現在の結果ではないのである。

よって、すべての魂を救済する大乗の仏陀になるためには、この無頓着、今なされている苦しみ、あるいは楽に対して、一切頓着せず、ひたすら今を作り上げ

ていくということが大切なのである。

◉仏教は未来志向

ここで、出てくるのが、二正勤二正断なのである。

つまり、これはどういうことかというと、今、瞬間瞬間を全力で生きる、あるいは未来を全力で生きることこそ、仏教の真義だからなのだ。そうだね。だって、過去の幻影を今味わってるわけだけど、この幻影は、過去のあくまでも幻影であって、わたしたちの未来に何の恩恵もない、そうじゃないか？　それよりも、今、瞬間瞬間を二正勤二正断の実践により、今なしている善法を増大させる、そして今まだ徳がなくてできないけど、未来において徳が備わったら、絶対にこの徳を積むぞという、徳を増大させるように意識する。そして、今なしている悪業を断ずる。そして、未来において生じるかもしれない悪業を出ないように心がけると。これは、どうですか。未来のわたしたちの楽を決定するものだと思わないか。ということなんだよ。つまり、仏教というものは未来志向なのであると。

◉覚者となるための七つの土台

では、そのためには、一体どういう行ないをなせばいいのかということになってくる。これは、まず、「何が真理で何が真理でないか」というデータをひたすら入れるということから始めなければならない。この、何が真理で何が真理でないかを何度も何度も繰り返し、データを入れなければ、わたしたちは過去世からの幻影によって、過去世からの錯綜によって、ものを正確にとらえることができなくなっている。よって、ひたすら記憶修習をすべきなのである。

そして、今何の修行をなしたら最もメリットがあるのか、これを次は選択しなければならない。例えば、初心者があまりにも難しい瞑想をなすとか、あるいは修行の進んでる者が、簡単なマントラを唱えて、自分は修行しているんだと錯覚するとかいうことは、その人の修行を挫折させたり、あるいは進まなくさせたりする要因となる。よって、この二番目の何を選択するのか、これは最も大切な仏陀へ至る道の一つということになる。

そして、三番目は、決めた修行に対して勇敢に修行を進める。そして、たゆま

ず修行を進める。これが必要なのである。これを勤精進、あるいは勇気をもって精進するといわれている。これが、第三の仏陀の心を支える、仏陀の心を作っていく修行なのである。

そして、第四番目は、「ああ、今日は疲れたな」と言いつつ修行するのではなく、「うれしいなあ、自分は修行してうれしいなあ」「自分は修行できることがうれしいなあ。自分は教学できることがうれしいなあ。徳を積むことがうれしいなあ」という、この修行に対して、ただひたすら喜びを持ち続ける修行、これを実践しなければならないのである。

そして、生活のリズムをしっかりと作り、心身が軽快になるように、修行によって軽快になるように組み立てる修行。これが、第五のわたしたちの仏陀に至るための土台を培う修行なのである。

そして、この五つを達成し、ある程度固まったならば、次はしっかりと自分の内側を見つめる。そして心を鎮め、心を止め、観察する。そして、どういう煩悩があり、自分はどういう世界へ転生するのか、あるいはどういう、自分自身は思

考のパターンを持っているのかをしっかりと理解すると。これが第六番目のわたしたちが仏陀になるための土台となる修行なのである。

ここで、問題になってくるのは、例えば一番目の、何が真理で何が真理でないのかということを理解できてないと、この六番目、この観察の智においても当然ずれが出てくる。

例えば、現代人は、膨大な時間を使って、マンガ、アニメ、あるいはテレビ、映画、雑誌等のデータを入れている。そして、こういうデータは、わたしたちの知らないうちに深い意識に根付き、このデータをもとに判断をするという謬見解を培うことになる。よって、その前に、ひたすら何が真理で何が真理ではないのかの記憶修習をなさなければ、このサマディというものが、全く無効になってしまうということなのである。

そして、先程も述べた、例えば嫌悪、性欲、食欲、愛着、権力、あるいは現世の願望成就といったようなもの、こういうものに対して一切頓着をしない、頓着しないでただひたすら修行を続けるということ、これが七番目の大乗の仏陀に至

る土台なのである。

なぜかというと、先程も述べたとおり、現在という瞬間は幻影である。これは、過去、あるいは過去世のわたしたちのカルマが生起し、現われている状態を表わしている。その現在の幻影にとらわれ、それにより再びまた悪業を積み、あるいはそれにおぼれ、功徳を積まない状態を作ってしまうならば、その人の現在から投影された未来というものは、また不幸ということになる。よって、現在を無視しなければならないわけである。これが、正生活、正しい生活なのである。

◉苦を与えれば、苦が返る

では、わたしたちの身・口・意における、まず身の行ないの統御については、何をなせばいいのであろうかと。例えば、わたしたちが殺生をする。例えば、相手に苦痛を与える。苦痛を与えると、その苦痛のヴァイブレーションは、シャクティーパットと同じで、自分の内側に内在される。ということは、苦の総量は一定なのである。苦の総量が一定だということは、相手を苦しめたそのデータとい

うものは、必ず自分に入ってくるわけである。

すると、例えば小さな虫たちにも、当然苦しみというものはあるから、その苦しみの総量がわたしたちに伝わってくる。もっと徳の高い大きな生き物は、その苦しみの量が多いから、その苦しみのデータというものは、わたしたちのコーザルにしっかりと根付かされると。

逆に、生き物を安らがせるということは、その生き物の喜びというものがわたしたちの心に根付かされるから、これはわたしたちの喜びという形で返ってくる。

この理法を理解するならば、殺生を離れ、すべての魂を安らがせることの偉大さに気付くであろう。

次は、偸盗である。人の心というものは、必ず、その人の所有しているものに対して愛着している。あるいは、執着している。ということは、他の者の所有を盗むということは、その人に、その執着から来る苦しみを与えることになる。よって、偸盗をした段階で、その持ち主の苦しみが伝わってくることになる。そして、これは、逆に自分の執着しているものを奪われるという形で苦しまなければなら

ないのである。

よって、他に対してものを施し、盗まないということは、これは、だれの利益でもなく、自己の利益なのである。

同じように、邪淫がまさにそれである。これには、正確にいうと二つの意味合いがある。

その第一は、性エネルギーを漏らすことにより、徳の消耗をし、疲弊するということである。

そして第二は、これは仏教的に、一般的にいわれている邪淫だけども、これは、他人の妻、あるいは他人の夫を寝取るということなのである。これは、先程も述べたとおり、他人の妻、あるいは他人の夫というものは、その夫婦関係において必ず愛着し合い、あるいは独占し合おうという心の働きがある。その、独占し合おうという心の働きに対して、強烈なダメージを与えるわけだから、当然その苦しみというものは、その対象者に向かってくる。そして、その苦しみをしょうことにより、未来において苦しまなければならないというカルマを作るのである。

よって、正行為の原則というものは、殺生を離れ魂を慈しむ、偸盗を離れ物を施す、邪淫を離れ、そして本当に心からの友情を培うということになる。

◉言葉の統御をなせ

では、言葉についてはどうであろうか。まず、妄語がくる。この妄語によって、ものを覆い隠したいと考える心の働きが増大される。この心の働きは、わたしたちのカルマの顕現化を遅くする。つまり、一種の、そこで袋、あるいは箱を作ったような形になる。ということは、その嘘が多ければ多いほどカルマの現象は遅れることになる。カルマの現象が遅れると、カルマの理法が理解できなくなり、悪業を多く積む。そして、それによって、結局その悪業が現象化するときは、取り返しのつかないようなカルマの清算となっている。これが妄語なのである。

よって、真実を語るということは決していいことではない。このいいことではないとは何かというと、何かわたしたちにいいことが返ってくるということではなく、すべてのものの現象が、はっきりありのままに見えるということなのであ

る。

では、綺語はどうであろうか。この綺語というものは、心の働き即言葉という、つまりコーザル即アストラルという、この流れを変えてしまう。つまり、心にもない言葉を大量に語ることにより、アストラルに心と関係のない、要らぬものがたくさん生じることになる。ということは、心で思ったことが現象化せず、屈折を生むわけである。ということは、この綺語は、わたしたちがものを達成していく上において最も大きな障害ということになる。

では、悪口はどうであろうか。これは、殺生と同じである。つまり、悪口を放つことにより、相手に苦しみを生起させる。そして、その苦しみのヴァイブレーションは、自分の心に返ってくるのである。

ということは、綺語を話さず、真実だけを語ると。そして、悪口を語らず、人に優しい言葉を語るということは、それだけでわたしたちに大きな恩恵があるのである。

仏典で、悪口により地獄に落ちたという例があるが、これはまさにそれである。

つまり、これは殺生と同じ――形態は違うがね――カルマの返り方をするわけである。

では、両舌はどうであろうかと。この両舌においては、必ず嫉妬心というものが、心の背景にある。そして先程も述べた、その嫉妬心の背景には、また嫌悪という心の働きがある。ということは、どんどんどんどん自分の世界を小さくしていくということになる。そうだね。嫌悪は壁でしょ。

ということは、この両舌は、人と人とを仲たがいさせ、それと同時に自分の世界を小さくしていき、最終的には自閉症になるということになる。

ところが、人と人とを和合させる、この言葉の実践をなすならば、心が豊かになり、壁が取り払われ、多くのいろんな人と交わることができ、そして、いろいろなことを学び、魂が成長するということになる。

ということは、妄語、綺語、悪口、両舌というこの行為、この言葉の行為は、これはわたしたちを不幸に陥れるものであり、真実を語り、必要のない言葉を語らず、人に優しい言葉を語り、人と人とを和合させる言葉を語るということは、

わたしたちの心の病を取り除き、わたしたちの心を広大にしていくということになる。そして、これを正語と言うのである。

◉教えを基に、検討する

では、八正道の原則である、正見解、正思惟とは何であろうかと。

まず、この正見解とは、仏陀の教え、グルの教え、この教えをただひたすら学ぶということである。ここで、考えてはいけないということである。

なぜならば、先程も述べたとおり、わたしたちがわたしたちと呼んでいる思考は、小さいときから両親によって植え付けられたもの、兄弟によって植え付けられたもの、あるいは社会的環境によって植え付けられたもの、例えばマンガ、雑誌、テレビ、アニメーション、映画等である。そして、これをわたしたちはわたしたちと考えている。

ところが、今から二千五百年前登場した仏陀釈迦牟尼の教え、あるいはそれより以前にあったインド・ヨーガの真実の教え、あるいは二千五百年から現在に至

るまでの多くの聖者方が修行して得た結果の教えといったものは、これは普遍的な教えなのである。それは、なぜかというと、「無常」、だれが見ても絶対にそうだとわかる基本的原理を背景として教えているからである。

よって、まず、この正見解というものは、自分の考えを捨て、ひたすら学ぶことから努力すると。そして、例えば、『マハーヤーナ』だったら、五回ぐらい必ず読み、そして熟読すると。これを熟読して、初めて正見解のベースができたということになる。

次はそれに基づき、自分自身の身の行ない、口の行ない、あるいは心の働きについてチェックを入れると。これが、正思惟なのである。

つまり、正見解、正思惟というものは、仏典をもとに、あるいはグルの教えをもとに、自分自身を検討していくプロセスなのである。ということは、先程の正語、あるいは正行為、正生活といったようなもの、これが仏典の基本的な教えであり、そして、その背景というもの、バックボーンというものも、皆さんは理解できたわけだから、これから正見解に立つならば、それを実践しなければならな

いということが理解できるはずである。

◉そして、サマディへ

そして、その次の正記憶修習。この正記憶修習というのは、一度、二度、三度、四度、五度ではなく、例えば自分がなさなければならない瞑想を、十万回、あるいは百万回といったレベルで、何度も何度も記憶すると。この、なぜ何度も何度も記憶するかというと、これが一定の回数になると、わたしたちの表層意識から潜在意識に入り、そして潜在意識から超潜在意識へとデータが流れていくからである。

そして、この正記憶修習をなして、はじめてわたしたちが深い意識へ到達したとき、その正記憶修習をなしたものが、乗り物となり、いいですか、乗り物となり、わたしたちをいろいろな神秘の世界へと案内するわけである。

ということは、その前に、正記憶修習のなされないような禅の瞑想というものは、わたしたちに利益を与えないということになる。あるいは、単に勤行だけに

いそしんで、つまり読経だけをしている場合は、これはその後の寂止、正観の正サマディというものがないから、これも正確に観察できないということになる。つまり、詞章、あるいはマントラの修行というものがあって、初めてその次の寂止、正観のサマディに入ることができるわけである。

そして、このマントラ修行、詞章の修行だけではなく、日々の生活において、心、言葉、行為の統御をする。特に、言葉と行為の統御をすることが大切なのである。

これが、八つの聖なる実践、八正道と呼ばれるもののすべてである。

◉四無量心——広大で深遠な心を

では、次に四無量心、これはなぜ実践しなければならないかということになる。例えば、「ホー、湖面に映る虚像のような様々な幻影に引きずられ、輪廻の大海を浮沈する生き物たち。彼らすべてが絶対自由、絶対幸福なるマハーヤーナにて安住することができるよう、四無量心込めて大乗の発願をいたします」と。こ

のマントラを十万回唱えると。すると、何かの現象があるとき、このマントラが浮いてくると。そして、例えば、自分の妻、子供、あるいは夫、あるいは父母、あるいは友人といったものを見たとき、なんて哀れなんだろうという思いが生じてくると。まず、これが心の生起、これが慈悲の悲なのである。

そして、その哀れみを、強く強く持つ、強く強く持つだけではなく、この人を本当に幸せにするためには、どうしたらいいんだろうかと考えなければならない。すると、おのずと結果は一つということになる。それは、真理を実践させるしかないなと。真理を実践していただくしかないなと。この人は、真理を実践してこそ、初めて今の苦しみから脱却することができるんだと。こう考える思い、これが悲なのである。

では、慈愛とは何であろうか。この慈愛とは、例えば愛着する対象、あるいは好感を持つ対象に対して、その好感を持つ対象が、もっともっと幸福になってほしいと、本当の意味で幸福になってほしいと思う心の働きである。

ということは、これも一つしかない。それは、絶対的自由・幸福・歓喜を相手

に与えること、無常を超越した歓喜を相手に与えることなのである。

確かに、無常から常に至るときに、相当多くの苦しみを対象に与えることになるかもしれない。しかし、それは、ちょうど病を治すとき手術が必要なように、あるいは注射が必要なように——多くのわたしたちの友というものは病んでいる。よって、その病を治すとき、そこに苦しみが生じたとしても、それは逆に喜びとして、つまり、その人の心の成熟の喜びとして、見守るべきなのである。

そして、この慈愛、そして悲の実践、これはわたしたちの心を大きくしてくれる。そして、視野を拡大してくれることになる。

ところが、この慈愛、悲しみといったようなもの、悲といったようなものは、どちらかというと、対象が自分よりもレベルの下の者に向けられる心の働きなのである。自分より優れた者、あるいは自分と同等の者に対しては、どのようにしたらいいか。

それは、称賛の瞑想、そして称賛の実践こそ、わたしたちの心を広大にしてくれるのである。つまり、もし、対象を称賛することができるなら、自分より優れ

ている者を称賛することができるなら、心は自然とその人の良さを学ぼうとする。そうだね。ところが、対象に対して闘争本能を持ったり、嫉妬心を持ったりすると、その人の欠点を一生懸命見付けようとし、そして、それと同時に心はどんどんどんどん屈折してくる。そうだね。

よって、第三番目の実践、この称賛というのは、自分と同等、あるいは自分よりも優れた者に対して行なうべき、真理の実践者の実践過程なのである。

そして、第四のパターン、これは、先程も述べた、この現実、この現象、今というものに対して頓着しないということなのである。この今というものは、だれも、どうすることもできないのである。つまり、それはどういうことかというと、この今というものは、過去世から、あるいは今生の過去において培ったわたしたちの善業と悪業との集積が今なのである。

◉六つの極限との関係は

そして、今から二千五百年前、原始仏教において、出家が称賛されたのはそこ

にある。

つまり、出家というものは今の苦しみから逃れることができる。そして、ひたすら善法を増大させることができる。善業を増大させることができる。初めのうちは、逃れていてもカルマの返りにより、少しずつ少しずつ苦しみが現象化する。

しかし、それがある段階になると、善業しか積んでないから、あるいは善法しか実践してないから、その苦しみがなくなったとき、その魂の五蘊、つまり肉体、感覚、イメージ、意志、意識というものは、善の集積、功徳の集積になるのである。そして、その段階でサマディに入り、そして高い世界をすべて認識し、この人間界がいかに低い世界であるかを認識し、この人間界に対する愛着を捨て、ニルヴァーナ、あるいはマハー・ニルヴァーナへと入っていくのである。

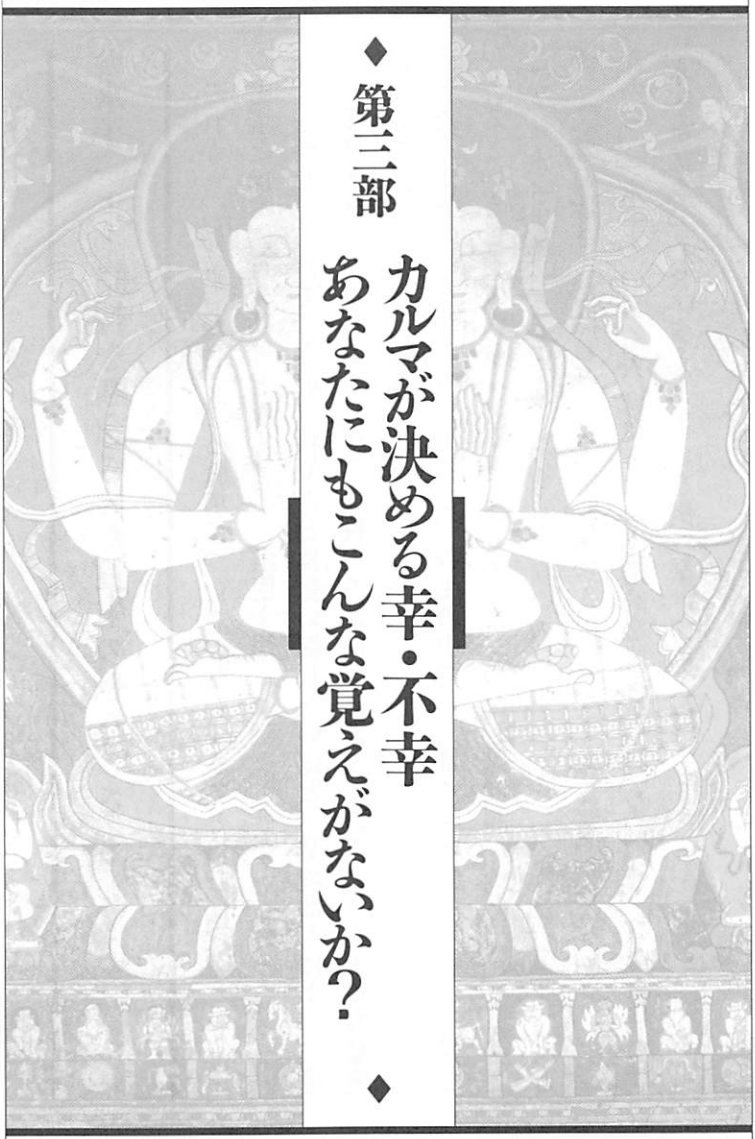
これが、実践的八正道、そして四無量心のすべてである。

ということは、この八正道、あるいは四無量心というものは、六つの極限と何ら変わらないことになる。そうだね。これを六つの極限に当てはめるならばどうなるかというと、まず、三つの布施、財施・法施・安心施という三つの布施によっ

て功徳を積む。そうだね。次に、持戒を守ることによって、言葉、心、行為の統御をする。そうだね。そして、三番目の忍辱、ね、耐え忍ぶ修行によって、無頓着の心を培っていく。そうだね。四番目の精進の実践によって、今の善業よりもっともっと大きな善業を形成し、そして悪業を止滅する。そうだね。そして五番目の瞑想のステージ、サマディのステージによって、その培ってきたわたしたちの五蘊をじっくり観察し、そしてわたしたちの悪業の部分、あるいは善業の部分をチェックし、そして悪業の部分はまたひたすら落とすと。そうだね。そして、最後、智慧、六神通に到達すると。そうだね。

ということは、八正道、あるいは六つの極限、これは全く同じなのである。これが、わたしの悟り得た八正道であり、わたしの悟り得た六つの極限であり、わたしの悟り得た四無量心である。

一九九一年一月三日　富士山総本部道場にて



第三部　カルマが決める幸・不幸
あなたにもこんな覚えがないか？

◎水子一——修行を断念させた殺生の恐ろしさ

これから、修行者が必ず陥る魔境についてお話しすることにしよう。

魔境とは、修行の妨げとなるもの、解脱や悟りに到達させないもののことをいう。しかし、一言でこういう状態だとは言い切れないほど、魔境は人によって違い、多種多様なんだね。で、今回は殺生のカルマによって引きずり込まれる魔境について説明しようと思う。

わたしが気付いたところによると、殺生の中でも、特に中絶によって「水子」を作るということは大変な悪業となるようだ（わたしは世間一般にいう「水子」とか、「水子供養」などを説くつもりはないのだが、そういった言葉を使った方が、読者の皆さんにはわかりやすいだろうから、ここでは使わせてもらった）。だから、「水子」のある人はなかなか本格的な修行に入れない。これが魔境だ。「水子」のあったR子さんの場合を例に挙げてみよう。

彼女は、クンダリニーを覚醒させ、クンダリニーのステージとしては非常に高いところまで行った。そして、本格的に修行をして成就を目差すか、またはこのまま現世的な生活を続けるかという分岐点に立った。

本格的な修行というものは、オウムの修行システムをもってすれば在家でも可能だ。しかし、彼女の持つ悪いカルマでは、出家してオウムのスタッフとして修行する方法しか考えられなかった。

「本格的に修行をして最後まで行きたいのだったら……。」

と、当然わたしはスタッフになることを勧めたわけだ。ところが、彼女はそのことについてとても悩んだ。特に、スタッフとなるにはすべてのものを布施しなければならない、という規則を聞いたとき、彼女はおかしくなってしまったんだよ。

なぜかというと、「水子」のある人は、自分と最も縁のある子を殺してしまったわけだから、自分ではわからなくとも、潜在意識はその罪に震えおののいている。そして、その恐怖をごまかすために、外界の物質やお金が必要なんだ。したがって、それを布施しなくてはならない、なんてことは、本人にとっては身を切

られるようにつらいことであってね、彼女は動揺したわけだ。

彼女には、この動揺から自殺衝動が起こり、自動車に飛び込もうとしたり、赤信号で道路を渡ったりし始めた。これでは本当に死んでしまうかもしれない。

そこでわたしは、彼女を〝極厳〟修行に入れた。これはわたしにとっても最後の賭けだった。失敗したら、彼女はつぶれてしまうに違いない。

極厳修行は、皆さんもご存じのように真っ暗闇の独房で行なわれる。これまでのデータでは、「水子」のある人が極厳修行に耐えられた例はわずかしかない。その理由としては、次のことが考えられるだろうね。

まず、暗闇が迫りくるための恐怖。それに加えて、外界がシャット・アウトされることの苦しさだ。この外界がシャット・アウトされる苦しさというのは、今まで自分の内面を外界の楽しみでごまかしていたことから起こる。「水子」のある人は、先程も言ったように、この傾向が強いので、極厳修行が耐え難いんだね。

今までにも、極厳修行のつらさに耐え切れず逃げ出してしまった人までいたけれど、R子さんもまた実家へと戻っていってしまった。つまり、失敗に終わって

しまったということなんだ。残念なことだけれどね。このように、どうしても修行が続かない、これが殺生のカルマから来る魔境だ。わたしはつくづくと、殺生のカルマを持つ人を救うことの難しさを実感したものだ。

これは仏教の、

――殺生をする者は、地獄へ落ちる――

という教えを証明しているとはいえないだろうか。

それはなぜか？　死後、最初に魂が放り込まれるのは、独房と同じ真っ暗闇の世界（バルドー）だからなんだよ。殺生のカルマのある人の魂は、ここで「水子」のある人が独房に入ったのとそっくりな動きをするだろうね。暗闇が怖くて怖くてたまらない、とね。この恐怖のあまり、判断力なんてものは消えてなくなっているだろう。そして、暗闇から一刻も早く抜け出そうと、一番魅力的に見える地獄の世界へと飛び込んでいってしまうんだね。

どうしても、殺生のカルマのある人には、地獄が魅力的に映ってしまうんだ。なぜだかわかるか？　それは、地獄が、その人が欲している最も物質的な世界だ

からなんだよ。そして、今度は地獄の苦しさを味わわなければならなくなる、ということなんだね。

では、殺生のカルマ、特に「水子」のカルマがあって、それでも救われたいと願っている人はどうしたらいいんだろうか。

いきなり布施をしなさい、といわれても、そういう人は無理だろう。R子さんのように……。だから、自分のできる布施から始めなさい。五円でも十円でもいいから、布施をし続けてみなさい。そして、布施に慣れなさい。

そうすると、次第に価値観が変わってくるだろう。そして、最終的には、お金など自分のことに使うよりも、布施をしたときの方が心が軽くなることを知るだろう。喜びを感じるだろう。その瞬間、殺生のカルマ、地獄のカルマが切れるんだ。だから、殺生のカルマのある人は、それを信じて頑張ることだ。いいですか。

最後に、念のために言っておくと、布施は真理に対する布施でなくてはならないよ。

◎水子二――抜けられない性的欲望の渦

水子のカルマについて、また違った角度から説明してみよう。

まず、水子を作るとスヴァディスターナ・チャクラが大変けがれる。これはどういうことかというと、動物界、あるいはセックスの行為とつながるということである。

そして、水子を作り、スヴァディスターナ・チャクラをけがした人は、そのけがれが落ちるまで、いろいろな異性の誘惑を受け、心が動揺するようになるのである。心が動揺しても、耐えることができれば問題ないわけだが、猫や犬がさかりになったときと同様に、耐え切れずに経験をしてしまうと、完全にスヴァディスターナ・チャクラの世界に引きずり込まれてしまう。そして、一人、二人、三人、四人、五人と経験をし続けるのだ。それ以上のカルマを積まなかった人は、そこでストップするのだが、そこで、また新しい殺生のカルマを積んだ人は、よ

りいっそう深く、その世界に引きずり込まれていくのである。そして、三悪趣、つまり地獄に生まれ変わるか、餓鬼に生まれ変わるか、動物に生まれ変わるかという選択を必ずや迫られるようになるのである。

では、どのようにしたらよいのであろうか。

まず、カルマというものがどのようにして作られていくのかというと、人は最初に、この現象界において肉体次元で経験をする。その後、その経験はアストラル世界のイメージとして作り上げられ、最後にコーザル世界に、そのデータがインプットされるということになるのである。

次に、そのカルマがどのようにして現象化するのかというと、コーザル世界のデータがアストラル世界に影響してイメージ化し、その後、この現象界で異性の誘惑に出会うというわけである。

そして、そのときにいろいろな異性とお付き合いをする可能性があるのだが、まずコーザル次元でじっと耐えることができたなら、最も早くそのカルマを消滅することができる。次に、イメージまで降りた段階で耐える場合は苦痛も大きい

し、期間も長くなる。そして最後に、もし実際に行為をしてしまったならば、それは大変長期化し、また次の因を作ってしまうということになるのである。

現代は汚れているから、水子一体であれば、そう大したことはないのであるが、二体、三体と水子がある人は、特にそこに気を付けなければならない。水子は異性との接触によってできるものであるから、異性との接触に対して自己を律するならば、そういったことは起こらなくなるのである。

わたしが相談を受けた会員の女性たちの中では、ひどい人になると水子が二体、三体とある人がいる。その中には一対二のセックスを強要されるとか、一対三のセックスを強要されるという世界に引きずり込まれている人がいるのである。こういうことは水子が一体しかない人の場合には起きておらず、二体以上水子がある人の場合のみに起きているのである。そして、その人たちの価値基準は、大変動物的なのである。もちろん、修行がどんどん進んでくれば、それは落ちていって、大変ノーマルで高い精神状態となり、自己のなしたことの無意味さを痛感するわけであるが、そうなるまでは明らかに動物的な目で物事を見てしまう。

また、スヴァディスターナ・チャクラのけがれている人とけがれていない人とを比較した場合、けがれていない人はどちらかというと、愛情という基準で物事を見るけれども、けがれている人は愛情イコール、セックスという動物的な低い価値基準で物事を見てしまう。そして、そこに大きな違いがあるのである。

さらに、下のチャクラに引っかかってしまうと、当然、上にはエネルギーがいかない。スヴァディスターナ・チャクラに少しエネルギーが蓄えられても、性的接触によってそこがけがれて、エネルギーをロスすれば、永遠にクンダリニーのエネルギーが上昇しないということになるのである。だから、これは修行者として、どうしても通過しなければならない、そして、越えなければならない一つの関門なのである。

では、なぜ水子を作るのであろうか。これは自己の存在、あるいは自己の快楽に対する執着から派生しているのである。つまり、子供が生まれたら、もう遊べないとか、付き合った相手が自分と結婚してくれないので、その子供が生まれたら生活することができないとか、そういうエゴイスティクな発想によって堕胎す

るということである。

それに対し、行なったことの裏返しとしてカルマは必ず返ってくるものである。それには二つのパターンがあり、一つは性欲の強い男性が近寄ってきて、肉体的な関係を持ち、相手のエゴによって捨てられる経験をするということがある。それからもう一つのパターンとしては、エゴイスティクな男性が近寄ってきて、その男性によって、エゴが他人をいかに傷付けるかということを体験させられるということがある。

だから、本当に水子のある人は、第一回目にも書いたとおり、真理に対する布施を徹底的に行なうとよいのである。布施ができない人は奉仕を徹底的に行なう。それすらできない人はザンゲを行なう。そして、この三つのプロセスをすべて実践するならば、水子を乗り越えることができるであろう。まず、ザンゲをして罪を悔い、奉仕を一生懸命に行なう。次に布施を行なう。そして、その後、同じことはもう二度と繰り返さないという強い意志の力によって、修行をし続けるならば、必ずやスヴァディスターナ・チャクラのけがれから来る魔境を乗り越えるこ

とができるに違いない。

ではここで、P子さんの例を挙げてみよう。

彼女には水子が三体あり、その影響によって、異性の誘惑に大変弱かった。彼女が今まで経験した相手の数は、両手両足の指を合わせても足りないくらいであった。しかも、自分自身も男性が好き（あくまでも性的に）と言っていたのである。

しかし、彼女はわたしの説法を聴き、自己がどこで引っかかっているか、そして、今、自分自身が歩いている道は真に幸福になれる道ではないということを知ったのである。そこから、まずザンゲが始まった。もちろん、三人も殺生しているのであるから、簡単には功徳は積めなかった。しかし、彼女なりに一所懸命功徳を積み、いろいろなバクティーを行なって、少しずつ少しずつ、その道を乗り越えてきたのである。

そして、現在では完全に乗り越え、どの男性に対しても、性愛ではなく愛を持って接することができるようになってきているのである。

近ごろ彼女は、わたしにこう言っている。情というものは、やはり意味がない

のだと。なぜなら、それはエゴを背景としているから、自分も幸福になれないし、相手も幸福になれないのだからと。

◎大事故を起こした暴力のカルマ

人を暴力によって傷付けたカルマを持つ人は、一体どんな魔境に陥るだろうか？実例を挙げながら、そのことを考えていきたいと思う。

オウムのスタッフの中には大きな事故を起こした経験を持つ人が結構多い。彼らが口をそろえて言うのは、それらの事故が降ってわいたような不幸なものではなく、自らが招いたものであるということである。例えば、一瞬ボーッとしている間に対向車線に飛び出してしまった、などというふうに。

そして、どのケースにも共通しているのが、車はペチャンコでも自分は無傷だったとか、生きていたのが奇跡だと言われたとか、とにかく自分自身は助かっているということなのだ。

『生死を超える』にも書かれていたが、ミラレパ大師の例など典型的だろう。

彼がまだ一般会員で、オウムのスタッフとなっていなかったころのことである。彼は某豆乳メーカーの営業をしていた。営業なので当然自動車をいつも運転している。そして、二度も自動車を大破させてしまったのである。

彼に言わせるとこうだ。車を運転していると、自分が事故を起こしていくヴィジョンがまざまざと目に浮かび、ボーッとしているうちに本当に事故を起こしてしまっているのだという。

不思議なのは、車が大破しても本人はカスリ傷ひとつないということである。また、事故を起こした相手が得意先であっても、先方は別に怒りもせず、会社の方も車二台ダメになっても彼をクビにする気はなかった、ということも特記すべきことだろう。

これが「暴力によって人を傷付けたカルマによる魔境」なのだ。彼はオウムの会員として修行を始めていたため、自分の持つカルマを清算しなければならなかった。カルマを清算する手段として魔境が訪れたのである。

どうして彼が暴力のカルマを持っていたのかお話ししよう。ごく普通に考えたら、そんなに悪いことをしていたわけではなかった。多くの青年がやっているように、空手をやっていただけである。

しかし空手のような格闘技は人を傷付けるカルマをどんどん積んでいくようなものである。また、潜在意識には闘争本能とか破壊本能といったものが存在しているものである。

そんなとき、彼がオウムの会員として修行を始めたので、一気にカルマを消し、潜在意識を浄化しなくてはならなくなった。そのために事故を立て続けに起こしたというわけだ。カルマを清算するにも、潜在意識を浄化するにも、一度実際に現象化させてしまうのが早道なのである。

さて、彼は二度の事故を機に会社を辞め、オウムのスタッフとなって奉仕に、修行に打ち込んだ。その結果、今のミラレパ正悟師が誕生したのである。魔境のことをあながち悪いもの、怖いものとはいえまい。魔境に負けることなく乗り越えたときに、新しい道が開けているのだから。

ところで、ミラレパ正悟師の場合、空手をやっていたのはそう長い期間ではなかったらしい。だからこの程度の魔境ですんだのだともいえる。

剣道を十年近くやり続けていたAさんの場合はもっと大変だった。百数十キロのスピードで河川敷きを走っていたときに運転を誤った。車は数十メートル空中を飛び、下に落ちてしまったのである。

警察官が「普通だったら死んでいた」と言ったほどの事故で、彼は重症を負いながらも助かったのだが、今まで積んだカルマが、ミラレパ正悟師に比べて、はるかに莫大だったためにこのような魔境が現われたのだろう。

ところで、オウムの関係者の場合、たとえ、どんなに大きな事故であっても、命を落とすようなことはなかった。それは、修行内容が真理にのっとったものであったし、わたしのシャクティーパットも受けていたからである。それらの効力が、身体をプロテクトするのだ。

それがどういうことか、もう少し詳しく説明しておこう。正しい修行とわたし

のシャクティーパットは、風のエレメントと空のエレメントを強化する働きがある。風のエレメントは生命エネルギーであり、身体も強くなる。また、空のエレメントはアストラル世界を浄化するので、アストラル世界とつながっている潜在意識の浄化を進めることができる。そのため、現象化をその分弱くするのである。

こういうわけで、オウムの修行をし、わたしのシャクティーパットを受けている人は、どんなにひどい魔境に陥っても決して死ぬことはないのである。そして、たいていの人は自らの努力で見事に魔境を抜け出し、修行のステージをどんどん上げていくことができるというわけだ。

では、独りよがりの誤った修行をしている人が魔境に陥ったらどうなるだろうか。身体が守られていない上に、現象化も弱められることなく一気にやってくるだろう。大変危険で、取り返しのつかない結果を招くことになってしまうに違いない。したがって、いつでも正しい修行を心がけるように——。

この種の魔境であるにしろないにしろ、魔境というものは、修行中にだれもが一度は経験するものである。特に未経験者は、毎日の修行をしっかりと行ない、

魔境に備えていただきたいと思う。魔境がやってきたら、次なる成長の土台となるくらいにしてもらいたいものだ。それによって、あなたも第二のミラレパ正悟師となって、真理を広めるべく活躍することができるようになるだろう。わたしもそれを楽しみにしている。

◎ガンと餓死——貪りの心が生み出した不幸

先日、東京在住の信徒Tさんがある告白をした。

——わたしが今まで、だれにも話すことなく隠し続けてきた秘密を、尊師に聞いていただきたくてたまらなくなりました。どうか聞いてください。お願いします。わたし自身どうして自分の周囲に、こんな忌まわしい出来事が起こり続けるのか、全くわからないのです。

昔、わたしには三人の家族がいました。父母と三つ上の兄です。

ところが、わたしが高校生のとき、父がいなくなりました。父は教師だったというのに、もともと女ぐせが悪く、それが原因でとうとう家を出ていってしまったのです。まあ、それ以前から家にお金も入れず、あまり父親らしいこともしてくれてはいなかったのですが……。七年ほど経って、この父親はガンで死にました。

母は、父と別居した後、料理教室を開きました。仕事の方は結構順調だったらしく、今では大きな料理学校の経営者となっています。資産も十億はあるでしょうか、豊かな暮らしをしています。

兄とわたしは、ずっと独身のまま、母と一緒に暮らしてきました。兄は無職で、わたしは一流といわれる企業に勤めておりました。その生活は二年前、兄が四十三歳、わたしが四十歳になるまで続きました。が、わたしたち一家はまたもや大きな不幸に襲われました。……兄がおかしくなってしまったのです。

もともとわたしたち一家は、神道系のSという会に入信していました。その会は、先祖供養の大切さや、不成仏霊の恐ろしさを説いていたのですが、一番熱心

だった兄が不成仏霊に狂ってしまったのです。

何でも不成仏霊のせいにしてしまい、異常な言動が目立つようになったとき、母は兄を勘当して家から追い出してしまいました。兄の状態が「あまりにもひどいから――」と言って……。

しばらくはわたしが、アパート暮らしを始めた兄を援助していました。もちろん、これは母には内緒でした。どうしても兄を見捨てるわけにはいかなかったのです。

わたしはわたしなりに一生懸命にやったんです。でも、所詮わたし一人の力ではどうにもなりませんでした。わたしが母に隠れて給料の中から捻出したお金を、兄は、あのろくでもない会に注ぎ込んでしまうのです。自分はいっこうに何の職にも就かないまま……。思い余って、わたしもついに援助を打ち切りました。

それから数カ月が経ったとき、アパートから兄が変わり果てた姿となって発見されました。死因は餓死……でした。

このことが、わたしにとって一番ショッキングな出来事だったのですが、その

他にも気になることがいくつかあります。

不思議といえば不思議なことなのですが、今まで三回引っ越しをしたにもかかわらず、三回とも両隣の住人が泥棒だったのです。実際に我が家に忍び込むのを目撃したこともありましたが、警察には通報しませんでした。なぜですかって？盗まれる物が、つまらない小さな物ばかりだったからですよ。例えば、盆栽だとか、ね。

あと、母のことも気になっています。彼女は物に対する執着が異常に強いんです。ヒステリーでもあるのですが、わたし名義の財産でさえ、彼女がガッチリと握っていて、決して手放そうとしません。

一体どういうカルマのために、こういう一連の出来事が起こるのでしょうか？死んだ父や兄はどういう転生をしたのでしょうか？そして、残った母やわたしの転生はどうなるのでしょうか？

できましたら、そこのところを教えていただきたいと思います。

以上が、Tさんがわたしにした告白である。Tさんには、その場でこれらの出来事が起こる理由を説明しておいたが、これが餓鬼のカルマから来る魔境の典型的な例なので、皆さんにもお話ししておこう。

ここに登場ずる人々は、全員餓鬼のカルマを持っている。父親も、母親も、兄も、隣人もである。そして、彼Tさん自身までもが同じカルマを持っていることに気付かねばなるまい。餓鬼のカルマとは、貪りのために真実が見えなくなるカルマだ。

父親の場合、女性に対して貪りを持ち、家庭を壊した。そして、ガンである。ガンは貪りを含んだ心の作用が、ガン細胞という有害不必要なものまでも作り出してしまうために生ずる病気である。ガンは心が作り出すのだ。

ガンは心が作り出す——というわたしの言葉は、ガンを克服したオウムの信徒さんたちの体験が証明してくれよう。彼らは、真理に対する布施をすることによって、心の中にある〝貪り〟や〝執着〟を消すことに努めた。その結果、ガン細胞も消えていったのである。乳ガンや胃ガンが消えてしまい、急に手術が中止になっ

たという話もいくつかある。

さて、話はもとに戻るが、父親は明らかに餓鬼のカルマを持っていたことがわかる。生きていたときから、女性への貪りやガンという形でカルマが現われている。死後も、当然その人のカルマの一番強い世界に転生するので、父親が餓鬼界に落ちたのは間違いない。かわいそうだが、カルマとはそういうものである。

次に兄の場合も、餓死という餓鬼のカルマが最も強く現われた死に方をした。きっと、餓鬼界に生まれ変わった今も、飢えと渇きに苦しみ続けていることだろう。

隣人たちが物を盗むのも、貪りからだ。母親が物に対する執着が強いのも、餓鬼のカルマを持っているからである。そして死後も餓鬼界に落ちていくのである。修行によって、餓鬼のカルマを切らない限り……。

餓鬼のカルマを切るには、

1　徹底的な財施（真理に対する財産の布施）をすること

2　マニプーラ・チャクラから特殊な方法でエネルギーを上昇させること

3　マントラを唱えることによって、餓鬼のカルマを破壊するこという三つの方法を併せて実行しなくてはならない。

最後に、わたしはTさんに聞いた。

――これだけあなたの周囲に餓鬼のカルマを持っている人が集まっているということは、あなたにもそのカルマがあるということですよ。「類は友を呼ぶ」というでしょ。あなたも盗みをよくしたんじゃないですか？

――確かにそうです。散歩していて、ちょっといい鳥カゴや盆栽があると盗んできたものです。……餓鬼のカルマですか、そうですか。

事の重大さ、恐ろしさに気付いたTさん。現在そのカルマを切ろうと懸命に修行をしている。さて、あなたは大丈夫ですか？

◎精神病――徳を積まなかった報い

修行者には、いろいろなタイプがある。ここで問題にしたいのは、功徳を積むことなしに、行だけを行なった修行者が陥る魔境についてである。

ただ、この魔境は、すぐには現われない。現われるのは、功徳を積むことなしに行だけを修行した生の、次の生においてである。つまり、生まれ変わってから、魔境に陥って苦しむことになるわけだ。

ここにその典型的な例があるのでご紹介しよう。

ある日、O子さんという女性が、オウムの富士山総本部道場にやってきた。O子さんは、大学を卒業するころから自律神経のバランスを崩し、心身の不調を訴え始めたそうだ。その症状とは、ひどい不眠、不思議な光が見える、時間の観念がなくなるといったようなことだったという。

『マハーヤーナ』の読者の皆さんだったら、

「あれ、いつも読んでいるようなことだなあ。これのどこがおかしいんだろう?」

と、お思いになるだろう。そう、これは修行者が通過していくステージの一つなのだから、それで正しいのだ。

ところが、彼女の周囲には、これらの経験が霊的進化の良い現われであることを教えてくれる人が、だれ一人としていなかったのだ。それどころか、一般人の常識からかけ離れた症状を訴えたことにより、彼女は全くひどい状態に追い込まれてしまう。

まず、父親が、O子さんを精神病院へと連れていった。病院側は、彼女を自律神経失調症と診断した。そして、しばらく通院して治療することを勧めた。

しかし、父親はO子さんを、無理やりその精神病院へ入院させてしまったのだ。通院治療で大丈夫だということだったというのに。おそらく、父親の意識の中には世間体というものがあったのだろう。異常なことを口走る娘を外に出しておいたら大変だ——と。

その後のO子さんは、何度も入退院を繰り返す。牢獄のように自由のない精神病院。そこへまた入らなければならないということから来る苦しみ。追い詰められて、ガソリンをかぶって自殺しようとしたこともあったという。

しかし、心の弱い彼女は、だれかが止めてくれるということを期待し、計算にも入れていたのだろう、結局自殺を果たすことはできなかった。

このように、あれやこれやありながらも、入院生活や薬づけの苦痛を経験することによって、前生の悪いカルマが薄れてきたらしい。彼女の持っていた最も良いカルマが現われてきて、オウムと縁を持つまでに至ったのだから。

現在、O子さんは富士山総本部道場で修行をしている。最初にやってきた日から、もう一カ月くらい経っただろうか。今では薬がなくても寝られるようになり(オウムに来る前は、一日に三時間くらいしか寝られないということで、睡眠薬と精神安定剤を乱用し、薬なしではいられなくなっていた)、心も強くなって、激しい修行にも耐えられるようになってきている。

確かに、行は霊的進化をもたらす。ここで行というものを明確にしておくなら

ば、次のような種類のものである。

・宗教的儀式
・祝詞
・マントラ
・現世的な瞑想
・霊媒

しかし、霊的進化をもたらすということだけで、心を成熟させるわけではないという点を忘れてはいけない。今挙げた行は、すべて現世的な満足を得ることを目的としているのだ。

さて、彼女は前生の行で、ある程度霊的に進化していた。そのため、今生でも本人が気付かぬうちに、そのステージにまで行ってしまったのである。

問題はここからだ。わけがわからぬままにいる彼女を理解してくれる人が、だれ一人いなかったのはなぜだろうか？　経験することがかえってマイナスとなって、今生の修行のスタートが遅れたのはなぜだろうか？

それは、彼女が前生で功徳を積まなかったからにほ他ならない。功徳があれば、その功徳が修行しやすい環境を整えてくれるのである。反対に功徳を積んでいなければ、修行に適した環境は望めないことになる。彼女は前生で功徳を積まずに行だけを行なったカルマによって、今生で大きな苦痛を伴う魔境に入ってしまったというわけだ。

まあ、彼女の場合、回り道をしながらも、オウムという真理に巡り合うことができた。幸せな方だといえるであろう。

一般に、精神病だといわれて入院したり通院したりしている人たちの中にも、数多くのO子さんのようなケースが含まれているに違いない。前生で功徳を積まなかったばかりに、霊的進化を異常と扱われてしまっているかもしれない。

そういう人たちは、O子さんと同じように真理の修行をすれば、心も安定し、霊的ステージを上げることができるわけである。

また、話は変わるが、ある宗教団体は、クンダリニーが覚醒した後の様々な変化を魔境として片付けてしまっているという。それは、そこの指導者にクンダリ

ニーの経験がないものだから、頭から否定してしまうのだ。せっかくクンダリニーが覚醒したというのに、この場合もおかしな目で見られるわけだ。そういうA宗に入信しているのも、前世で功徳を積まなかったカルマによるものと言える。修行のための良い環境に恵まれないというわけだ。

ところで、先程のO子さんだが、わたしが心配していることがある。O子さんは前世で人の修行の邪魔をしたことがあるのだ。透視によって、わたしはそれを知った。

人の修行の邪魔をしたカルマも、いずれは彼女に返ってくるだろう。そのとき彼女はカルマに打ち勝つことができるかどうか……。それが、彼女の今後の生き方を決定することになるだろう。

◆第四部　今、なぜオウム真理教か◆

第一話　これであなたはだまされない

「真の宗教の四つの条件」

◉なぜ宗教を実践しなければならないのか

世の中には、それは日本だけではなく、世界すべてを含めて、たくさんの宗教が存在している。そして、その宗教の一つ一つをね、わたしたちは最も正しいといっている。ではね、何をもって正しいとするのか、あるいは何をもって真理とするのか、何をもってすべての人たちを幸福にしてくれるね、宗教とするのかについて、今日は話したいと考えます。

まず、宗教とはいったい何ぞやと。わたしたちは、なぜ宗教を実践しなければならないのか。これから語らなければならない。

宗教とは、霊的な、つまり内側の世界の開発、そして、心を安定させ、平和にしていくことということができるでしょう。そして、何のためにその宗教を実践しなければならないかというと、それは、この現象界、人間の世界だけがわたしたちの世界ではないということだね。

それはどういうことかというと、わたしたちはせいぜい生きたとしても、百歳まで生きることしかできない。しかしわたしたちは、日々の生活の中で、今日はまだ死なないだろう、明日はまだ死なないだろう、あるいは、わたしは六十歳、七十歳ぐらいまでは生きられるだろうと思って生きている。

ところがね、ここに一匹のもぐらがいて、このもぐらが畑を掘り始めるとしよう。そして、その畑の上に一軒の家が建っていると。そのもぐらを見つけた人は、「何だ、高々一匹のもぐらか」と考えて放っとくと。ところが、そのもぐらはすごく働き者で、毎日せっせせっせと穴を掘った。そして、その家の基礎の下も、もぐらによって穴ぼこだらけになったと。そして、ある日突然、地震がきた。もちろん、その家はその地震でつぶれてしまったと。

これと同じように、わたしたちは毎日毎日正しくない情報、つまり、もぐらさんがね、わたしたちの内側の世界、心の世界を一生懸命穴掘ってるわけだ。そして、それが一日、二日、三日と、初めのうちは大した影響はないと。しかしそれが、一週間過ぎ、一カ月過ぎ、一年過ぎていったならば、そして、何かのきっかけで、例えば病、例えば事故によって命を捨てなければならないとき、そのときは先程の家ともぐらとの関係と同じように、わたしたちの基盤である心はガタガタになり、そして苦しみの世界へ生まれ変わってしまう。

◉二つの道——功徳と悟り

それを越えるためには、二つの道がある。一つは、いかなる、もぐらが穴掘りをしたとしてもつぶれないような、頑丈な基礎を築くと。そして、安定した家の状態でいるならば、いかにもぐらが穴を掘ったとしても、わたしたちの心というものは不動であると。そうすることによって、わたしたちは高い世界へと生まれ変わることができると。これが一般的にいわれている功徳なんだね。

そして、この功徳はわたしたちを人間界、あるいは人間界以上の阿修羅の世界だとか、あるいは神々の世界に生まれ変わらせてくれる。

それから、もう一つは、もともと家なんかなければいいんだ。つまり、家に執着するから、そこで家が壊れたときに、心はガタガタになるんだといって、家から心を引き離し、家に執着しない。そうすると、例えば死ぬとき、家が壊れたとしても、わたしたちの心というものは平静でいられると。これが悟りだね。

そして、この二つこそ、わたしは真理だと考えている。もちろん悟り、もう一つ解脱というものがあるわけだけど、今日の内容にはね、今日今聞いてる人たちの内容にはあまりそぐわないから、解脱については今日はやめておこう。

そして、この悟り、あるいは高い世界、天界へ生まれ変わる道、この二つを持っている宗教、これが本当の宗教なんじゃないかなとわたしは思います。

◉正しい教義があるか

「でも、麻原、どこでも悟り、あるいは高い世界へ生まれ変わりますよと言っ

ているぞ」と。では次には、何を目安として正しい宗教、あるいは正しくない宗教というものを選択したらいいんだ。これは大変難しい問題だね。しかし、難しいからといって放っとくわけにはいかないから、ここでみんなにわかりやすいように説明をしようと。

それはね、まず宗教というものには必ず教義というものがある。教義というのは何かというと、この教団では、例えばオウム真理教では、これをもって解脱といいますよと。あるいは、これをもって悟りといいますよと。そしてそれは、このようなパース、道を歩くならば結果は出ますよと。これが、まず第一の目安。これは仏・法・僧の中の法だね。

じゃあ、しかし法は秘儀とされていて、一般的には公開されないといっている教団もあるよと。それは出版物に目を通して、よくよくお読みになるならば、正しい判断ができるはずである。なぜならば教義というものは矛盾があってはいけないからである。

「しかしそんなことを言っても、麻原、お前は、以前は涅槃と言ったものが、

今はマハー・ニルヴァーナということに変わってるじゃないか。つまり、ニルヴァーナがマハー・ニルヴァーナに変わっているではないか」と。例えば真理教の信徒の方でも、このようにお聞きになる人がいらっしゃるかもしれない。まあ実際にそういう質問があるわけだけど。それは、同じ系統の体系をどんどんどんどん幅広くしていった場合、言葉における置き換えというのはなされるわけだね。しかし、その本質を指してるものは同じであると。

ところがそうではなくて、教義そのものがもしでたらめだとするならば、つまり、いつも教義が変わっている、あるいは教義がもしいい加減だとするならば、それはその教祖、あるいは教団そのものが、その法について、あるいは教義について理解できてないということになるんだ。だから入信をする前、よくいろんな本をお読みになって、そして検討なさるべきである。しかもそれは、いろんな角度から本はお読みになるべきだろう。そして次は、疑問をぶつけてみるべきだね。これが第一である。教義である。

◉経験の大切さ

そして第二には、果たしてその世界が経験できるのかということだね。これは、オウム真理教ではあなた方の先輩が、あなた方より少し前にわたしと縁の生じた者たちが、修行によっていろんな経験をしているから、よくわかると思うけども、要するに経験できるかどうかだ。

つまりね、教義というのは何かというと、道なんだね、これは。地図なんだよ、地図。地図の中の道なんだよ。だから例えば、北海道からどのように行ってどのように行けば、青森に達すると。そしてそれから、どういう道を使って行けば東京へ行けると。これが教義だね。

しかしだよ、例えば円盤があると。その円盤で札幌から東京へまでだった場合二分で行けるよと言ったとしよう。しかしそれは、だれもいまだかつて経験していないとしたならば、その修行体系、教義そのものは正しくないということになるよね。ところがそうではなくて、ここに一枚の地図があって、この道をこのように歩いていくならば、最終的には東京へ到達できる。ここでいう東京というの

は、あなた方が幸せな、そして安心できる人生、それだけではなくて安心できる死後の世界という意味だね。

その多くの人たちが、わたしは青森まで行ったんだと。わたしは仙台まで行ったんだと。あるいは、わたしは福島まで行ったんだと。あるいは、わたしは茨城までは行ったんだと。あるいは、わたしは東京まで行ったんだと。こういうたくさんの経験があるもの、これが本当の宗教なんじゃないかなと。その二番目なんじゃないかなと思うんだね。つまり経験している者がいるということだね。

◉確実に、より早く

そして第三番目には、例えば入信した場合、その後きちんと指導できるグル、あるいは先生が存在しているかどうかということになる。

もし地図があり、あるいは経験できた人がいたとしても、例えば指導する人が、もう今既になければね、それはやはり同じように絵に描いた餅である。そして、絵に描いた餅をいくら実践しても仕方がない。だから第三番目の条件はあなた方

を幸福の世界、あるいは安心立命できる世界へと誘う先生、あるいはグルがいるのかなということになると。

そして、これは付け足しだけども、現代人は大変忙しい。例えば、修行というのは一日二時間とか三時間が限界である。それぐらい短い修行時間でも、あなた方を修行者として霊的に進化させるだけのシステム、方法、メソッドね、これを持っているのかなと。これはでも付け足しだね。例えば十年かかってでも、二十年かかってでも到達できるんだったら、それでもいいと。しかしもちろん、早く到達できるんだったら、それはそれに越したことはない。これが付録としてのイニシエーション、つまりあなた方を早く高い世界へ誘うための方法が存在してるのかなと。あるいは研究されているのかなと。

そしてこの四つのきちんとした柱がある教団、これは最高の宗教ではないかなと、わたしは思っているんです。なぜならば、いくらここに綺麗事を並べた教えがあったとして、その教えをいまだだれも経験していない。そうすると、こんなものはあってもしょうがないわけだね。なぜならば、少し文章のうまい頭の良い

人は、それぐらいの教義を作り上げることができるから。

だから、ここに法があり、その法を、今先程の言葉を言い換えるならば地図だね、ここに地図があり、その地図を今まで使って目的地に向かった人がいて、そしてちゃんとその目的地の方向に向かうことができると証明される、それだけの豊富な体験談がなければならない。そして、それを道案内してくれる、例えば道に迷ったとき、電話一本かければちゃんと元の道に戻してくれる、正しい道に戻してくれる先生、あるいはグルが存在していること。

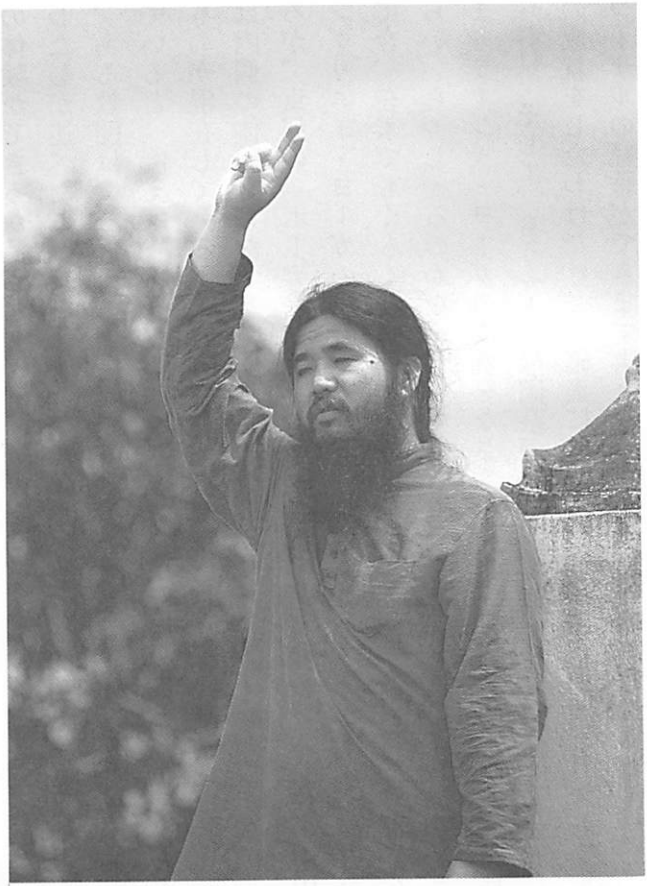
そして、例えば乗ってる車があまりにもポンコツで、スピードが出なければ、ちゃんと修理をしてくれて、そして速いスピードで目的地まで連れてってくれる、そういうイニシエーション、秘儀、特殊な方法を持っている。これぞ最高の宗教だと、わたしは考えているんです。

◉偉大な功徳、偉大なカルマ

そして、この四つの柱に巡り合うことのできる魂というのは、素晴らしい、偉

大なるカルマを持っているんだなと。なぜならば地球に今、六十億とも七十億ともいわれている魂が存在していて、その中で果たしてどれほどの人が内側の世界を経験できるだろうか。あるいは、どれほどの人が正しい道を歩くことができるだろうか。そして、どれほどの人が解脱、悟りに到達することができるだろうか。あるいは、どれほどの人が高い世界へ生まれ変わることができるだろうかと考えるならば、これは仏典でもいわれているとおり、あるいはこの現象界、人間の世界を正しく見つめるならば、ほとんどの人が、それに巡り合うことができない。

ところが巡り合うことのできた人、この人たちは一体どういう功徳によって、どういう善業によって、この真理に巡り合うことができたんだろうかと考えるならば、きっとそれは前生の一つの生で、素晴らしい功徳をお積みになったか、あるいは真理に対して帰依をなさっていたかなんだろうね。そして、今ここに集まっていらっしゃる方は、その素晴らしい功徳をお持ちだということになると。



◉内側の体験ができるかどうか

今、わたしが述べたこと、それはオウム真理教と他の教団との違いなんだね。例えば、ある教団は『法華経』を掲げていると。例えば、ある教団は『維摩経』を掲げていると。例えば、ある教団は『聖書』を掲げていると、ね。いろんな法というものが混在している、この中でだよ、果たしてどれほどの人が心の体験、あるいは内側の体験をしたかというと、ほとんどしていないわけだね。

ところが、京都の「ボーディーサットヴァの会・蓮華の会」の会長の中山さんが、クンダリニー・ヨーガの成就を三日前になさったと。これも在家の方だね。

そして今、在家でもくもくと修行している人が、あと一、二、三、四、五……、七名ぐらいいらっしゃるのかな。そしてその中で、スワミに、えーと、ガッパだね、つまりラージャ・ヨーガの成就をなさったのが、京都の中山さん、旦那さんだね、これは。そして、もう一人、静岡県のね、山本君というのが、まあラージャ・ヨーガの成就をしたわけだけど、確実に、修行を続けていけば、アストラル、あるいはコーザルの経験ができますよと。これがオウム真理教なんだ。

ただね、仏教の中で、貪・瞋・癡というものがあると。癡というのは何かというと、光のない状態と。真理に対して否定する心の働きと。今までいろんな宗教でだまされてらっしゃる方、あるいはもともと、ね、あまり真理を実践なさらなくて、疑いというものが心にはびこっていらっしゃる方は、今日のわたしのこの話を聞いたとしても、なんとなくピンと来ないということになるだろう。

修行というものはね、キャッチボールなんだね。いろんな教団が、いろんなボールを投げると。そしてそのボールの、どれを受け取るかというのはね、これはあなた方次第なんだ。

◉正しく法を学ぶ

ただね、今日の講話の最後に一言言ってきおきたいこと、それは正しく法を選定しなさいよと。そして、正しく宗教を選定しなさいよと。そして、正しい先生につきなさいよと。この三つをもし間違わなければ、たとえオウム真理教以外に真理があったとして、それを実践なさったとしても、素晴らしい結果を招くこと

ができるだろうと。

旬子が、〝口受の学はわずか四寸ばかり〟と言っている。口受とは何かというと、要するに耳、耳で聞いたね、講話をそのまま口で伝えるということだ。そうではなくて、耳で聞き、目に、目で読んだ法というものを実践すると。そしてそれが、本当に体からにじみ出るようになったとき、その言葉というものは多くの人の心を打ち、あるいはその心の働きというものは、その人を絶対的な安らぎの世界にいざなうことでしょう。

はい、それでは講話をこれで終わります。

一九八九年三月一八日　札幌にて

第二話　絶対の自由・幸福・歓喜をあなたに

「実践せよ、そして獲得せよ」

◉今、なぜオウム真理教か

帰依信徒の皆さん、皆さんはなぜ今この日本にオウム真理教が必要なのか、しっかりと認識し、理解していらっしゃいますか。

オウム真理教と他の宗教団体との違いは、それはオウム真理教に四つの柱が存在しているからです。ではその四つの柱とは何でしょうか。

まず第一にしっかりとした教義の体系が存在している。このオウム真理教の教義の体系は、今から何十万カルパ、何百万カルパ、何千万カルパの昔から存在している覚者方の流れの教えの体系なのです。そしてそれは原始ヨーガの流れに、

あるいは原始仏教の流れにエッセンスを認めることができます。したがって他の教団と違い、その教えは深遠、そして絶対確実なものといわざるを得ません。

では第二の柱とは何でしょうか。第二の柱とは、そこへ到達するポイントポイントにおいて、イニシエーションが存在しているということです。このイニシエーションとは、わたしたちが法を聴いたり学んだりするだけでは理解することのできない神秘的な部分に対してエネルギーの移入を行なったり、あるいは意識をチェンジさせる特別な技法です。このエネルギーを移入したり、あるいは意識をチェンジさしたりする特別な技法、これは今日本でオウム真理教だけが持っている方法です。

そして三本目の柱、これは何でしょうか、これは信徒の皆さんの道筋にそれぞれの段階において成就者が存在しているということです。一般に成就者を見た場合、その成就者は普通の人と何ら変わらないかのように見えます。しかしその人の知っている世界は、一般の人とは全く違いますし、また使える身体もこの肉体だけではなく、多次元の身体を有しているわけです。そしてこの成就者の最終地

点には、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜という状態が存在しています。

◉自由に身体を創造し、苦悩を滅し、歓喜に包まれて

ではこの絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜とは何でしょうか、これはまず絶対自由とは、このわたしたちの意志と反して病にかかり、老い、そして死んでいく身体と違い、心の本性が作り出す身体を自由に操り、そして自由に創造し、そしてまた自由にそれを元の状態に戻すと。つまり身体を有して経験したいときは経験し、あるいはその身体が邪魔なときは、その身体を止滅することのできる状態、これが絶対自由です。

では絶対幸福とは何でしょうか、すべての真理の法則を完全に悟り、そして一切の苦悩を排斥した状態、一切の苦しみを取り除いた状態、止滅した状態、滅尽した状態、破壊した状態、これが絶対幸福の状態です。

では絶対歓喜とは何でしょうか。これはわたしたちの内側に存在している善法、徳が増大することにより、わたしたちが行為を行なうことなく身体が歓喜の状態

で絶えずいられる状態、これが絶対歓喜なのです。

そして、この三つの状態は心の本性とも、あるいは真我ともいわれるものの有する三つの状態なのです。そしてこの状態に少しずつ近付いている成就者たちが存在してるということは、それは皆さんが道場に通い、師、あるいは正悟師、正大師等と話をなさることによって、あるいはそばに行かれることによって体感することができるはずです。

◉真理は最高の功徳の現われ

では、第四番目の柱とは何でしょうか、それは根本グル、そして根本的な経典を有しているということです。そして、この第四番目の柱、根本グル、根本経典、これを完全に有し、その存在が今あり、そしてその法の、法則が実践できる皆さんは、大変素晴らしい功徳のある方だといわざるを得ません。

そしてこの四本の柱を完璧に有している、それは今のところ日本においてはオウム真理教しか見いだすことができません。ですから皆さんは、オウム真理教の

信徒として確信を持って日々の学習、そして日々の実践、そして日々の宗教的行事に励んでいただきたいと思います。

そこにいくら素晴らしい法則があったとしても、それをもし実践しなければ、それは絵にかいた餅にすぎません。そこにいくらおいしい食べ物があったとしてもそれを食べなければ、その本当の味わいを理解することはできません。

さあ皆さん。この四つの柱を皆さんの土台とし、そしてしっかり日々の修行に励んでいただきたいと思います。

第三話　成就者を続出させた秘密

「〝四本の柱〟が解脱に導く」

◉教義・瞑想プロセス・行法

オウムには、四本の柱があるって皆さん知ってるか。その一つは教義である。教義というのは、どのようにして心は進化していくか、どのようにして霊的に進化していくか、どのようにしたら幸福になれるか、どのようにしたら苦悩から解放されるかという一つの柱があるね。これは教義である。

それから第二に、オウムには瞑想のプロセスがある。どのようにしたら心を進化させることができるか、どのようにしたら霊的に進化させることができるかという、四つの瞑想プロセスがあるよね。

それは何かというと、クリヤ・タントラ、チァリヤ・タントラ、ヨーガ・タントラ、アヌッタラ・ヨーガ・タントラという四つのプロセスだね。日本的な言葉を借りるならば、儀式、それから行、それからヨーガ・タントラと、それから無上ヨーガ・タントラというね、四つの瞑想プロセスがある。

そして、三番目の柱としては、その瞑想に至るための行法がある。それはアーサナ、それから浄化法、そしてプラーナーヤーマ、ムドラーといった、わたしがインドから持ち帰った、ハタ・ヨーガ、ラージャ・ヨーガ、クンダリニー・ヨーガのいろんな技法がある。

そして、この一、二、三、この三つの柱というものは、あなた方を間違いなく解脱に導く。

◉最短の成就の道

それからもう一つ、これはオウムの最も特徴的なものだけど、第四本目の柱、イニシエーション。例えば、プルシャもそうだし、それから超甘露水もそうだし、

それから「アストラル・テレポーター」による音のイニシエーションもそうだし、いろんな意味でのイニシエーションがあるよね。

で、このイニシエーションというのは何かというと、あなた方の、例えば、大乗の仏陀に至るためには千生かかる、あるいは二千生かかる、あるいは三千生かかるという、その膨大に長い年数をグルの、あるいは大師の神聖なエネルギーによって、どんどんどんどん縮めていく。

だから、例えば千生かかるものが、五百生になる。五百生かかるものは、三百生になる。三百生かかるものは、五十生になる。五十生かかるものが、十生になる。十生かかるものが、一生で成就できる。そして、一生で成就できるものが、十年で成就できる。十年で成就できるものが、三年で成就できる。これがオウムの一つの特徴のイニシエーションだよね。

◉本当の価値を知るために

ところが、ここが、今回のポイント。この中で果たして、この四本の柱を意識

して実践している人が何人いるだろうかという問題だね。ここに祭壇があって、ここにおいしいぼた餅が、たくさん供養されてたとしようじゃないか。しかし、このぼた餅をだよ、じっと眺めていて、もし食べなければ、このぼた餅が果たして甘くておいしいのか、あるいはちょっと酸っぱくておいしいのか、あるいはしょっぱくておいしいのか、わからないだろう。

つまりわたしたちは、どんなにいい修行背景を持っていても、どんなに素晴らしい修行体系を持っていても、それを実践しなかったならば、何の価値もないということだ。

ただ他の宗教組織だって教義は持ってるよ。しかし、オウムの教義と他の宗教組織の教義の違いは何かといったら、オウムの教義というのは、科学的であるということ。それから、どの人も理解できるということ。そして実践をしていけば、必ず経験をするプロセスだということだ。

しかしだよ、ここにどんなに素晴らしい教義があったとしても、それをもし実践しなかったら、これは先程言ったとおり、祭壇に飾られているぼた餅だよね。

絵に描いた餅だよね。そうじゃないか。

瞑想体系もそうだ。オウムには四つの瞑想体系がある。しかもそれは、世界でも類を見ないような瞑想体系を持っている。これは、持っていると言いながら実践しなかったら、これも絵に描いた餅である。

行法もそうだね。たくさんの瞑想に至るための行法をオウムは持っているよね。しかし、この瞑想に至るための行法を持っていても、これを実践しなかったならば、これも絵に描いた餅であると。

◉他力本願は依存ではない

それから、ここにイニシエーションがある。このイニシエーションを受けないでだよ、「わたしは、今生で解脱するでしょうか」とか、どうだ、「わたしは、何年で解脱するでしょうか」とよく聞く人がいる。それはそんなのは、不可能だよね。なぜ不可能かというと、だいたい千生、二千生かかるものを、一生でやり上げようとしているわけだから。あるいは十年でやり上げようとしているわけだか

ら。そのためには他力を使わなければ不可能である。よく大乗を他力本願だというけども、その他力という意味は、わたしが今言ったような意味なんだよ。

つまり、あなた方はあなた方で努力をすると。しかし、あなた方の努力だけでは、時間的に相当かかる。だから、あなた方よりも高いステージの、高い霊性を持った、心のピュアーな人がだよ、あなた方の心を浄化し、霊的に引き上げること、これが他力の本当の意味合いなんだね。他力というのは依存ではないんだよ、これは。つまり、あなた方はあなた方で努力をする自力、そして他力を合わせたもの、これが本当の修行体系なんだ。

そして、この四本の柱を持っている宗教というのは、わたしは今、日本にはオウム以外にあり得ないと考えています。

◉なぜ宗教をやって暗くならなければならないのか？

実はね、おととい、土曜日、東京で「真理の集い」があった。で、その後、非会員の方とちょっと相談に応じたわけだけど、そのときにおっしゃるんだよ、

「オウムは他の宗教と違いますね」と。「何が違うんですか」と聞いたら、みんな「明るい」と言うんだね。ここはポイントだね、ここは。

なぜ宗教をやっていて、暗くならなきゃならないんだと。まあその人たちは、その明るさのために入信なさったわけだけども、ね。心がどんどんどんどん浄化されていったら、暗くなるはずはないよね、明るくなっていくはずだね、本当は。どうだ、それは。どう思いますか。幸福になるわけだから明るくなるよね。

◉とらわれた心は正常な働きを失う

しかし、一般の宗教は、暗いといわれているわけね。では、この違いは何かといったらだよ、普通、わたしたちは宗教に依存するとき、わたしたちの願望、エゴというものを満足させるために、宗教に依存する場合が多いよね。例えば、何とかをお願いしたいと、何とかを成し遂げたいと、何とかを得たいと。例えば恋愛を成就したいとかね、お金が欲しいとかね、例えば、事業を大きくしたいとか。しかしそれは、わたしは結果だと思うんだね、すべて。

しかしその結果のために、心が働き出したとき、心というものは、その結果に執着するわけだね。例えば、恋愛をしたいと、恋愛のことだけを考えると。そうすると、その執着にとらわれてしまって、心は正常の働きをしなくなる。お金を得たいと考えたときに、例えばだよ、心はそれにとらわれてしまって、正常な働きをしなくなる。例えば、何かを成し遂げたいと考えたときに、心はそれにとらわれてしまって、結局、心は自由な働きをしなくなると。

◉心を本来の姿に

しかしだよ、心が本来自由で透明だったならば、例えばその人の最も良い状態が出てくるわけだね。例えば、明るい。そして、すべてのものを映し出すから記憶力もいいと。そして、心に屈託がないわけだから、未来に対する不安がないと。それによって思い切ったことができる。それから、もう一つは、心が雑念状態にないわけだから、集中力も身についてる。

そして、その結果として、例えば、恋愛の成就があったり、あるいは事業の発

展があったり、あるいは何かを成し遂げたいというときに、それを成し遂げられるというような結果が得られるわけなんだ。つまり、本末を転倒しているわけだ、今のやり方というのは。当然、心はとらわれていけばいくほど暗くなる。

◉カルマの法則に従って

だから、皆さんもだよ、もう一度原点に帰って、考えようじゃないか。わたしたちは真理によって、あとはカルマによって、返ってくるものさえあればいいと。そして、それは未来に対してわたしたちを完全に幸福にしてくれるもんなんだ。この世の中というのは、自己の成し遂げたこと以外は返ってこないんだ。そこで無理なカルマを積んでしまったならば、必ず未来において正しくない結果——果報だね——が返ってくるんだ。それがオウムの教義です。

それから、オウムの瞑想体系というものは、完備しています。わたしたちは、その瞑想体系にのっとって、修行していけばいいんですよと。それから、その瞑想に至る道筋、修行法もきちんとあるから、疑いなくそれを実践すればいいんで

すよと。そしてイニシエーションを受けることによって、その修行法というものは、どんどんどんどん短縮されていきます。そして、この四本の柱をあなた方が実践するならば、二年後、十五人以上の成就者が九州支部から出てくれるだろうとわたしは確信を持っています。

一九八八年六月六日　福岡にて

第四話　次々と新派を生むわけ

「深遠で広大――最高の教義」

◉分派を生むオウム真理教のカルマ

教団にはカルマというものがある。例えば阿含宗のカルマ、あるいはオウム真理教のカルマ、あるいは創価学会のカルマ等々である。

オウム真理教の場合どうかというと、発足してわずか六年足らずなのに、もう既に新派、つまり教団として名を挙げてる人たちが五名いる。五名いるとはどういうことかというと、五つの団体が結成されたということである。他の宗教のカルマの分析はいざ知らず、オウム真理教のこういう動きというのは、一体何がその土台としてあるのかというと、おそらくオウム真理教の教義の一つ一つが、新

興の宗教を興すに足る材料を持っているからではないかと考えられる。

例えば、ある人はオウム真理教のヨーガ的な一部を利用し、気功と称し、そして、これはある政界の大物をバックアップとして宗教を打ち立てた。ある人は——これは水戸の人だが——同じようにヨーガ系統のアシュラムを、ダライ・ラマ法王の名前を借り、スタートした。ある人は最終解脱者と称し、これは、ここ埼玉で教団を打ち立てた。そして、長崎、それから関西方面に、もう一人いるという話を聞いています。

◉破法の温床、浅薄な土台

それは一体なぜなのか。これは、日本の宗教のレベルの低さをもろに表わしていると言わざるを得ない。

例えば、『大般涅槃経』。これはパーリ三部の、パーリ三蔵の中のお経の中の一つである。この中には七科三十七道品のダイジェスト版というべき内容も、当然こもっているし、それから釈迦牟尼の死に際しての、いろんな教えが含まれて

いる。

そして、現在、これはオウム真理教と関係ないわけだけども、この『大般涅槃経』を基に、宗教教団を打ち立ててるところもある。あるいは大乗経と称し、『法華経』を土台として教えを説いているところ、あるいは『維摩経』を題材として教えを説いているところ、あるいは『仏部三部経』を教えの土台として説いてる教団等々ある。しかし、これらはすべて破法である。

破法とは何かというと、法を破るという意味である。もし、この日本がジャンブ州、つまり、真理を展開する土台の地であったならば、このような悪法ははびこらなかったであろう。しかし、この日本の人々の宗教的土台が、あまりにも浅薄なるがゆえに、ちょっと教義的に新しいことが含まれると、そこから新しいものが生起してしまう。

例えば仏教という言葉、これを一つ俎上に上げたとして検討するならば、ものすごく分厚い、例えば皆さんが持っている『マハーヤーナ・スートラ』、これ、大体百、六十冊分ぐらいの原訳があり、それと同じぐらいの注釈書があり、それ

をもって小乗仏教、あるいはパーリの大乗仏教の土台ができ上がったと考えるべきである。

そしてその土台を基に、大乗経典、例えば『般若経』、これは『般若心経』ではなくて『般若経』ね、智恵の経典がずらっと並ぶ。あるいは『法華経』がくる。あるいは『維摩経』がくる。こういう土台があって、初めて、この大乗仏典の善し悪しというものが検討できるはずである。ところがそういうことなく、仏陀釈迦牟尼の名前を使いながら、正しくない法がはびこってしまう。

もともと仏教というものは、すべての衆生を済度するために説かれた教えである。よく仏教とは何かという質問に対して、仏陀の教えであると説く人がいる。しかし、実際それは正しくなく、仏教とは仏陀に至るための道の教えであるということの方が正しい。

◉マハー・ニルヴァーナへと続く長い道

そしてそれは在家の実践、あるいは出家の実践と大きく分けて二つに分けることができる。そして在家は未来際において必ず出家し、最終解脱をし、そして色究竟天へと到達し、マハー・ニルヴァーナへと入ると。この未来際というのは一生、二生のことをいってるわけではない。五生、十生、百生と長きにわたっての道を説いてるわけである。

よって死、そして転生というものに重きが置かれる。つまり、これはどういうことかというと、そのような法がしっかりはびこっているエリアへと転生するための教えである。そしてそれがバルドーの教えなのである。つまり、真の叡智の持ち主は、この一生で仏教の全体が理解できるなどとは考えない。

例えば典型的な例を挙げるならば、在家修行者であったアナータピンディカ長者。このアナータピンディカ長者は、何十億とも何百億とも布施をなさった方で、朝食前に一回、朝食後に一回、夕方一回、三回必ず祇園精舎を訪れ、そして布施をなさり、法を聞かれていたという話である。もちろん仕事も何もせず、その仏

陀の教えに従って生活をなさっていた。では、この方がその法をたくさん聴き、記憶修習し、一体どの世界へ転生なさったのか。これは除冷淡天、つまり第四天界である。これだけひたすら朝から夜まで仏道の修行をなさっていらっしゃる方が第四天界なのである。

ましていわんや、わたしたちが例えば法に没入し、法を研究し、法を説くという生活をしていない者が、果たして、ちょっとした知識によって、皆さんの迷妄を除去することができるだろうかと考えたら、それは大変な怖さがある。

しかし、これはオウム真理教のカルマとして受けなければならない。それはちょうど仏陀釈迦牟尼が登場なさり、デーヴァダッタが破法を展開したのと同じように、それは甘んじて受ける、いや、絶対に必要なプロセスなんだと考えています。そして、これからも惜しげもなく皆さんに、いろいろな法を展開していきたいと考えています。

◉四如意足——願望成就の法

一つの法を達成するのに一生、あるいは二生とかかる。その法が何十、何百、何千と存在している、これが真理なのである。そして、その一つを取るだけでも、現実的な問題はすべて解決できると。

例えば四つの如意足というのがある。この四つの如意足とは何かというと、この世で願望を成就するための法である。では、この四つの如意足の流れは何かというと、まず第一に決意如意足といって、自分はこれこれをしますと誓願を立てる。これを日々、百回、千回と唱え続け、その土台を固める。

そして第二番目の如意足として、精進如意足というものがある。この精進如意足というのは何かというと、その決意にのっとり、つまり決意を根本とし、善は善とし、悪は悪とし、善を増大させ、悪業をやめ、そして悪業を未来における悪業の増大を防ぐというものである。

そして三番目は思念如意足である。この思念如意足とは何かというと、わたしはこれこれこれだけの修行をやってるんだから、必ずこれこれの結果が出ると。それを思念し続けるという第三段階の瞑想である。

そして四番目は観慧如意足である。観慧如意足とは対象を検討し、その検討したものを分析し、そしてそれを実践するということである。

例えばこれを受験、そして恋愛に当てはめてみよう。まず第一番目の受験。まずわたしはこれこれの大学へ入りたい。あるいはこれこれの高校へ入りたい。これを思念すると。

で、この土台が固まったならば、次は自分自身の性格を分析し、例えば、わたしは食欲が旺盛過ぎるから、もっと食欲を慎もうと。これを日々の努力目標とすると。あるいは、性エネルギーを漏らすとするならば、性エネルギーは漏らさないようしようと、これを日々の努力とする。あるいは、今睡眠を九時間取ってるけど、将来においてはこれを六時間ぐらいにしたいと。これが精進如意足の断に相当する。

では勤は何かというと、例えば受験に必要なのは体力である。よってこれから少しずつ少しずつ体力をつけるためにプラーナヤーマの修行を行なおう。あるいは、わたしは雑念が多いからマントラ修行を行なおうと。これが勤である。

そして三番目の思念如意足は、よって、わたしはこれだけの決意と、それからこれだけの精進の如意足を行なったんだから、これこれの大学に通る。これこれの大学に通る。これをマントラのように唱える。

そして四番目。これは実際に自分自身の学力を分析し、例えば数学が弱い場合は、数学の自分自身は代数が苦手である。例えば微分、積分が苦手である。あるいは自分自身は幾何が苦手である。例えば三角関数が苦手である。よって、そのためにはもう一度教科書からひっくり返し、土台を固め、そのうち問題集にアプローチするということを思索し、実践する。これが四つの如意足である。

この如意足とはどういう意味かというと、すべての現象を意のままに動かす、それを具足する、自分のものにする瞑想法ということになる。

では同じように、これを恋愛に当てはめてみよう。例えば、わたしは恋人が欲しいと、これが決意如意足である。よって、例えば今から一年後、二年後に結婚したいんだと。これが決意如意足に当たる。

そして二番目には、例えば自分自身を分析して、どうも自分は知的でない。よっ

て教学を一生懸命しようと。これは勤に当たるね。あるいは、言葉の使い方において、四つの悪口を実践しているから、それをやめよう。これは断に当たるよね。このような形で実践すること、これが第二番目の精進如意足に当たる。

そして第三番目は、自分自身は徳も備わり、そして戒律も守り真理を実践してるんだから、わたしには素晴らしい恋人が現われ、素晴らしい結婚をしても当然であると思念すると。これが三番目の思念如意足である。

そして四番目は、自分自身の性格を検討し、例えば自分は甘えん坊だから、年上でこのような優しい人が現われてくれたらなと。あるいは自分は職業人間であるから、自分をサポートしてくれるような、素敵な恋人が現われたらなと。これを思索すると。これが観慧の如意足である。

そして、この四つの如意足は、三十七道品のたったの一つのパートにすぎない。しかもこの三十七道品全体が、仏教系体全体を指してるのではなく、これもまた一部のパートなのである。

◉四預流支の実践——真理の広さを知るために

では、いかにその真理の深さ、真理の広大さをわたしたちは理解したらいいのだろうか。そのためには四つの預流支の実践が必要である。つまり、わたしたちが「井の中の蛙、大海を知らず」ではないが、あまりにも法というものを知らないがために、傲慢になるわけである。

それはちょうど、今まで歩きしか知らなかった者が自転車を見、自転車の乗り方を覚え、自分は最高の乗り物に乗ってるんだと思うのと同じである。しかしその自転車に乗ってる者が自動車を見たらすごいと思うだろうし、ヘリコプターを見たらもっとすごいだろうと思うだろう。そして、それがジェット機になれば、あるいはマッハ三、マッハ五、マッハ七と出るようなジェット戦闘機、あるいはロケットを見たならば、なぜわたしは自転車を見て、自転車に乗って、そこで傲慢でいられたんだろうと考える。

これと同じように多学の弟子になるならば、つまり多くの法を理解し、記憶し、実践するならば、傲慢の要素は消えるはずである。

小さい器の者は、小さい器の教祖と縁ができる。大きな器の者は、大きな器の教祖と縁ができる。そして、皆さんはオウム真理教、そのバックにいらっしゃるシヴァ大神、そして諸々の仏陀と、これはこの地球において最高の法の雨を降らすことのできる教団の信徒として、法の実践ができるわけだから、それを喜びとし実践していただきたいと思います。

◉深く広大な心へ

では、四つの預流支とは何か。これは、まず第一は三宝に対する帰依である。三宝とはシヴァ大神の化身であるグル、あるいは、諸々の仏陀の象徴であるグル、これに対する帰依である。第二番目は真理に対する帰依である。この真理というのは、オウム真理教においては二つのパートに分かれている。一つは仏典である。あるいはヨーガ経典の教えである。もう一つはそれを現代的に、例えば今日の如意足のような、説き明かされた説法である。そして三番目はその法の遵守者、法に集う者、つまり正大師、正悟師、師という形になる。

この三宝に対しての帰依、この三宝の教えを吸収し、実践するぞと考えること、三宝に対して奉仕や布施の実践を行なうこと、これが第一の預流支である。

第二番目の預流支はいかに多くの法を聴き、それを記憶するかである。先程も述べたとおり、小さな器には小さな水しか入れることはできない。心を大きく持ち、あるいは記憶の空間を大きく持ち、それから大量の記憶を修習すると、これが第二番目の預流支である。

では、第三番目の預流支は何か。これは、その真理にのっとり思索をすることである。例えば先程も述べた、今日の四如意足、この四つの如意足を自分の今の問題に当てはめ検討する。まず、決意如意足は自分にとっては何だろうか、精進如意足は自分にとっては何だろうか、思念如意足は自分にとっては何だろうか、観慧の如意足は自分にとっては何だろうかと。これが第三番目の如意足である。

そして第四番目の如意足は、真理に基づき考えたことを実践する。例えば瞑想するぞと決めたら、必ず瞑想する。例えば言葉の統御をするぞと決めたら、必ずその言葉を修正する。あるいは殺生を離れるぞと決めたら、いかに苦しみを与え

る対象があったとしても、決してそれを傷付けないと。このようなことを意識し日々実践するならば、あなた方の心は心の覆いが取れ、少しずつ少しずつ、大きな大きな、深い深い、広大な心へと変化するはずである。

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けられない。どんなに権力があったとしても、どんなに大金持ちであったとしても、どんなに愛する対象がいたとしても、どんなに名誉を持っていたとしても、どんなにお金持ちであったとしても、人は死にます。そして、わたしたちが普遍の絶対的幸福に浸ることができるのはただ一つ、それは輪廻転生を間違わず、絶えず真理の下に転生することである。

そして、真理の下に転生するためには、真理の実践、真理の実践の前の教学、思索、これを怠らず日々行なうことである。

おそらく、わたしが死ぬまでの間に、信徒の皆さんに例えばパーリ四部のね、パーリ三蔵の、すべてを提供することはできないと思うんだね。というのは、膨大な量があるから。でも三分の一、あるいは半分ぐらいでも解説書を付けて皆さんの手にね、お渡しすることができたらなと考えています。皆さんも真理をでき

るだけ多く自分のものにし、豊かな心、そして豊かな人生を送っていただきたいと思います。

一九九一年二月十三日　埼玉にて

第五話　依存型宗教では悪趣に落ちる

「幸福をもたらす実践型宗教」

◉実践型宗教の三つの条件

宗教には二つのタイプがある。その一つは、依存型宗教といわれるもの。そして、もう一つは、実践型宗教といわれるものである。現代の日本における宗教は、ほとんど前者に属する。そして後者に属するための条件、つまり実践型宗教の条件というものは、三つの条件、あるいは三部の経典を有しているということが条件となる。

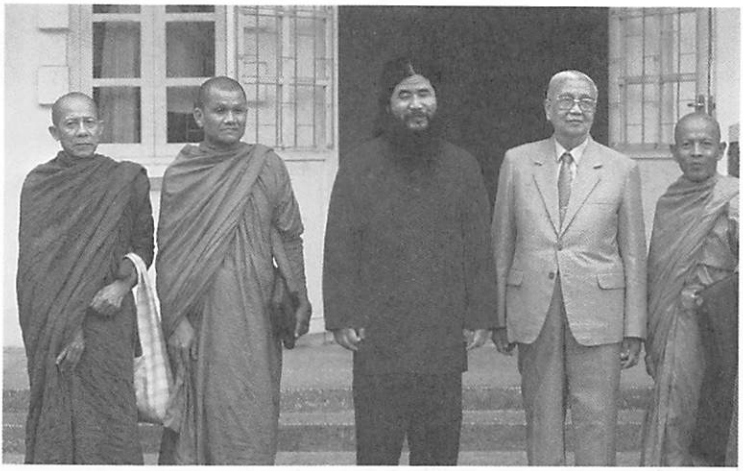
三つの条件とは何かというと、それは「義・法・詞」といわれる三つの条件である。この三つの条件の「義」とは何かというと、これはまず魂がどのような形

でマハー・ニルヴァーナに至るかという道筋、あるいはマハー・ニルヴァーナに至らない、デーヴァに至る道の教えがあるとしたならば、どのような、そこに道しるべがあって、そして到達していくかという教え、これが「義」である。

そして、「法」、つまりダルマ、これは何かというと、その教えを聴くことによって、いろいろな現象を分析する力を得る。

例えば、どういうことかというと、布施があると。で、その布施は、在家においては八つの目的で達成されると。

その八つとは何かというと、まずこの現世において豊かな人生、あるいはすてきな恋人、あるいは高い地位に昇るといったような、この人間界の願望を成就するための一つの目標として布施を行なうと。つまり、布施をし集中することによって、その世界へと到達する。つまり、この現実世界をよりいい方向に向けるという第一の布施の意味合いと。それから、第二は、四天王衆天に至るための布施を行なうと。第三は、三十三天界へ生まれ変わるための布施を行なうと。第四は、夜摩天界へ生まれ変わるための布施を行なうと。第五は、覩史多天に生まれ変わ



るための布施を行なうと。第六は楽変化天へ生まれ変わるための布施を行なうと。第七は、他化自在天へ生まれ変わるための布施を行なうと。そして、第八は、梵衆天、つまり梵天の臣下として生まれ変わるための布施を行なうという、例えば、その、そういう八つの布施があるんだよと。

そして、その方法としては、ひたすら布施を行ない、心を自己の目的に集中すると。これが分別を背景としたお経、つまり法、ダルマであると。これは第二番目ということだね。

そして、第三番目の「詞」というのは何かというと、これは言ベンに司るという字を書いて、要するに、あなた方が例えば、「ホー、湖面に映る虚像のような」というようなね、詞章、つまりあなた方が精神的に、あるいは心において成熟していくための乗物、これが「詞」である。

要するに、「義」とは何かというと、マップに相当すると。つまり、ここから例えばアメリカに行くためにはどうしたらいいかというと、まず東京までの道筋を確実に確認し、それから東京から次は千葉への、千葉の国際空港に至る道を確

認し、そして飛行機に乗り、そして飛行機で飛ぶと。で、空路はどうであると。これが義に当たると。

そして、その途上の小さないろいろな人生を渡る上において、あるいは修行する上においての問題点を分析的にとらえる。これが「法」に当たると。

そして「詞」というのは何かというと、実際にあなた方をそこへ連れていくための詞章、これが「詞」であると。

そして、この三つの条件を備えて、初めてあなた方があなた方の目的地へ至ることができるんだということである。

◉出家者に必要な三つの経

そして、これだけではなく、今度は出家に入ると、それプラスの三つの経が必要になってくると。この三つの経は何かというと、「論に対する経」、そして「法に対する経」、そして「律に対する経」という三つ必要になってくる。

「論に対する経」とは何かというと、例えば、その道しるべ、先程言った義、

義に対して深い分析的な教え、ま、これは仏教ではよくアビダルマがそれに当たるわけだが、ま、それが必要であると。

で、例えばどういうことかというと、五蘊とはどういうものであると。例えば、五大種とはどういうものであると。例えば神通とは、どういうものであると。こういうことがしっかりと定義として存在していると。そして、この定義をなしたならば、次は、この定義を達成したならば、次はこういう状態になるんだよという。つまり先程言った義をしっかりと裏付けた教えの部分が存在していると。これは「論」である。

そして、第二の「法」、つまりダンマは、これは先程言った教えの部分を集大成したものであると。ま、例えば、『布施分別経』がそうである。あるいは、『真理相応』がそうである。あるいは『預流相応』がそうであると。これは、すべてサンスクリットではニカーヤという、これは「経」という意味だが、それに属すると。

もう一つは、「律」である。この律の代表的なものは、あなた方も知っている

とおり、十の戒めがある。それだけでなくて、出家修行者には、多くの律が課せられる。

そして、この「論・経・律」、この三つがそろって、初めて本当の意味での実践宗教ということができる。

◉真面目が肝心

ということは、オウム真理教の教えは難しいと、まあエリートが中心であるとよくいわれるけども、それは当然である。なぜならば、教えが難しいからであると。じゃあ、エリートでなければできないのかと。それは、そういうことはない。例えば、ここにいるわたしもエリートではないし、今教団の正悟師といわれてる人たち、正大師といわれる人たちの中で、もちろんエリートもいるが、エリートじゃない人もいるということである。じゃあ、何が大切かと。それはまじめに取り組む姿勢、そして人生の大半を修行に打ち込むんだという姿勢、これが必要である。

よく考えてみよう。わたしたちには、一人二十四時間という時間が与えられている。この二十四時間の時間の中、例えば二十三時間五十五分を三悪趣に至る、例えば貪・瞋・癡に対してまみれ、それを肯定し、それを自己の中にデータとして取り入れたとしようじゃないか。そして、一日のうち五分だけ、まあ真理といわれるものの教えを学んだと。この人はどうなるかというと、要するに、そうだね、二十四かける六十マイナス五か、分の五だけ聖に至る可能性があると。残りは悪趣へ至る可能性ということになる。ということは、この人の来世は悪趣であると。しかも、今までは真理と縁がなかったわけだから、余計に悪趣に至る可能性が高くなると。

◉死の恐怖を乗り越えるために

人は死ぬ、必ず死ぬ、絶対死ぬ、死は避けられない。これは、いかなるものでも死を避けることができない。例えば、天皇も死んだ。もちろん、池田隼人をはじめとする、佐藤栄作もそうだが、総理大臣も死んだと。ジョン・F・ケネディ

も死んだと。マリリン・モンローも死んだと。いかにこの世の中が素晴らしいものであって、そしてそこで満足していたとしても、必ず人は死ぬ。その死を避けることはできない。

そして、わたしたちがこの現世にうつつを抜かし、満足し、生きていればいるほど、死の大群が襲ってきたときの恐怖というものは耐え難い。

例えば、ひたすら修行している者たちも、この肉体から魂を抜け出させるときは、大変な恐怖がある。ましていわんや、それを知らない否定している人たちが、そういう状態になったとき、どうであろうかと。

これはね、自宅に、まあ九州の方々は、ほとんどお風呂があるだろうから、試していただきたいんだが、自宅のお湯の中にたくさんの塩を放り込むと。そして人間の比重よりも重たい状態にして、そこにプカンと浮いてみると。これは必ず、浮きます。そのときのえもいわれぬ恐怖と、それからあなた方が死に際して経験するであろう恐怖はそっくりであるといわれています。

では、その恐怖をなくすためには、どうしたらいいか。それは生、つまり生き

てるうちに死の経験をし尽くすことなんだ。そして、現に仏陀釈迦牟尼の在家の弟子たちも布施、持戒の実践だけではなくて、瞑想をしていたそうです。その瞑想とは何かというと、無常に対する瞑想、特に三苦に対する瞑想、そして十二縁起の法というものを根本に瞑想していたといわれています。

五感にとらわれることにより、苦しみは生起する。五感を止滅することにより苦しみは止滅する。ね。そして、いかに愛していても、その愛する者と必ず別れなければならない。死というものを境に、愛着すれば愛着するほど、その別れるときの苦しみは大きい。いかに財産があったとしても、その財産は死後持っていくことはできない。それに頼り、心の本質を失っていれば、必ずやそれがなくなったとき恐怖します。

◉喜びを求めるほど

人間の感覚というものは面白いもんで、喜びを求めれば求めるほど、苦しみも増大します。そして、その喜びが強ければ強いほど、苦しみというものも強いわ

けです。特に、死というものを境に、すべての喜びを捨てなければならなくなったとき、その苦しみというのはいかなるものか、それを皆さんはよく考えなければならない。

日本の大乗仏教の本質は現世利益、つまりお金持ちになる、いい結婚をする、幸せなね、生活を送る、これに主眼が置かれます。原始仏教の本質はそうではなくて、死というものに本質を置きます。

もちろん、原始仏教の教えの中にはね、大いに功徳を積み、その、要するにおこぼれ、カスで生きなさいという教えがあります。で、そのカスで生きた場合には、死というものを境に、いろいろなものと離別しなければならない、あるいは捨てなければならないとしても、それに対する苦しみは生じないと。なぜならば、内側に豊かな心があるから、その心は持っていけると。心の飾りは持っていけると。来世への功徳は持っていけるというふうにいわれるわけだね。

ところが、大乗仏教では、徳の少ない人に現世利益を与え、より一層徳をなくさせ、来世は悪趣へ落とさせると。来世は悪趣へ落ちさせるというのが現状です。

皆さんの中で、死なない魂というのを見たことがありますか。死なない魂というものを聞いたことがありますか。そして、もし久遠の絶対的な、皆さんに祝福、あるいは至福を与えるとするならば、それは当然、生を超えた、死を超えた、絶対的な境地からくる祝福でなければならないし、そして至福でなければならないと思います。

人は死ぬ、必ず死ぬ、絶対死ぬ、死は避けられない。そして、真の勇者、真の智慧ある者のみが、その死に打ち勝つことができると。

◉無常を悟り、徳を積む

最後に——三つの苦しみ、つまり苦苦、壊苦、行苦という三つの苦しみがあります。この苦苦というのは、例えばヤケドをする、あるいは嫌なものを見る、嫌な音を聞くといったような苦しみ。その本質が苦しみであるという苦しみ。そして行苦というのは、例えば今まで美しい人が年老いて醜くくなる。あるいは、元気はつらつだった肉体が年老い、ね、体にシワができ、そして使いものにならな

くなっていくという。そして、壊苦というのは、先程言った、愛する者とも必ず別れなければならないと。必ず壊れてしまうと。いかなる喜びも、必ず壊れてしまうと。

この三つの苦しみを乗り越えるためには、この生まれて死ぬという短いライフタイムを有効に使い、生まれる前、死後を通して三世を見極める力を自分自身で養い、無常を悟り、そしてこの世に執着せず、淡々と生き、大いに功徳を積むということが必要だと思います。

そのためには、オウム真理教の教えの中にある、四つの預流支、そして六つの極限、これを徹底的にね、行なっていただきたいと思います。

今、まさにヴァジラヤーナの時代に入ったとわたしは思います。なぜならば、今のオウム真理教の信徒の立場というものは、大変苦しいと。この逆境の中での教学、逆境の中での布教、逆境の中での布施、逆境の中でのわたしはオウム真理教の信徒であると言える心の強さ、これは順風になったときの十倍、百倍、千倍、あるいはそれ以上の価値があるとわたしは確信を持っています。

そして、今こそ真に、今こそ全力で、今こそすべてをかけて、真理の実践をしていただきたい。そのとき、あなた方に必ずやシヴァ大神の、諸々の仏陀の、そしてグルの祝福があることは間違いないでしょう。それでは、大乗の発願、そして苦の詞章を唱えて、今日の講話は終わりとしたいと思います。

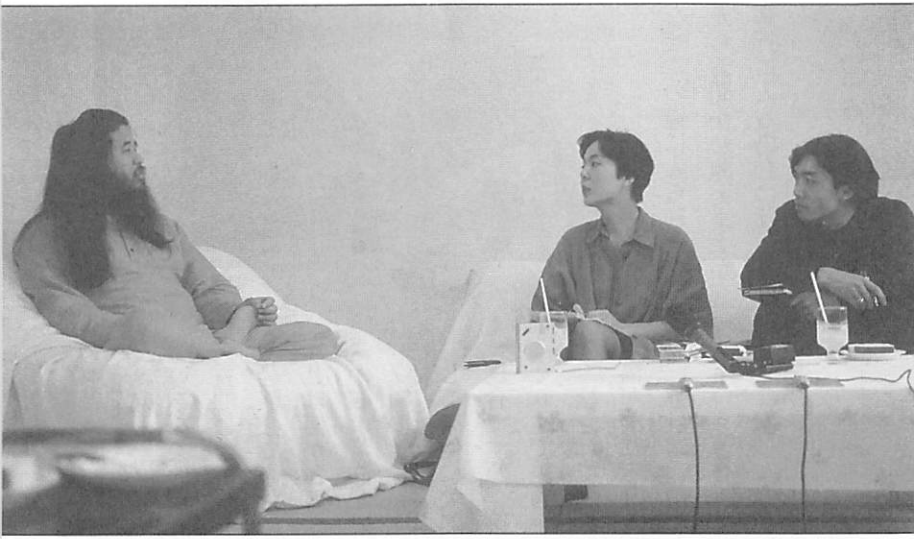
しっかりと自己の心を見つめ、苦しみにどっかりとあぐらをかき、のっかり、あなた方の苦しみが根本的に止滅するというまで、教学、功徳、瞑想を徹底的に行なってください。しっかり修行してください。

一九九〇年十二月九日　福岡にて

巻末特別インタビュー

『流行通信HOMME』
1991年9月号より

◆



◆

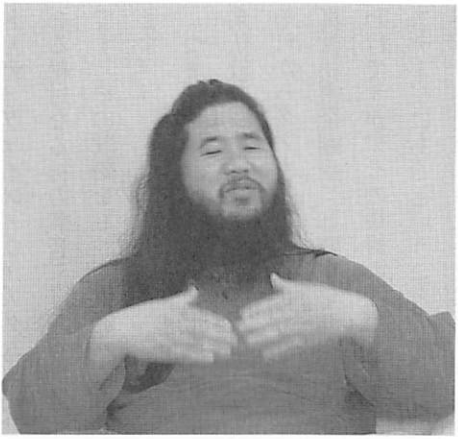
麻原尊師が語る
「正しい宗教の選び方」

――まず、なぜこの道に入られたのか、そのあたりからお聞かせ願えますか。

麻原　人が修行に入る場合には、いろいろな条件があるわけですけれど、本質的には一つなんですね。〝三苦〟を経験して修行に入る。では、その三苦とは何かというと、まず第一は痛みとか心の苦悩といった本質的な苦しみ。殴られたら痛いとか、生まれながらにして肉体に欠陥があるとか、そういう場合ですね。第二番目は変化。例えば、それまで美しかったものが事故に遭って壊されて醜くなるというような、幸福が壊れるときの苦しみ。それから第三番目は、求めたものが手に入らないという苦しみ。いずれにしろ、この三つの苦しみのどれか一つにぶつかって、

修行に入るわけです。

わたしの場合は〝無常〟。すべての現象は変化するものであり、その変化は止めることができない。そこで、変化しないもの、絶対的なもの、本質的なものを求めて修行に入ったわけです。



――これが絶対であるというものがもう見つかったのでしょうか。それとも、それを見つけるために、今、修行されているのでしょうか。

麻原　わたしの状態というのは、仏教的な言葉を使うならば〝イエシェ〟といわれる段階です。〝イエシェ〟というのはチベット仏教の高僧であられるカムトゥール・リンポチェがわたしの体験をお聞きになったときに使われた言葉で、「コンプリート・アブソリュー

ト・ディヴァイン・ウィズダム（完全なる絶対なる神の叡智）」という意味です。その段階をもって最終解脱とします。

つまり、仏教にはヒナヤーナ（＝小乗仏教）、マハーヤーナ（＝大乗仏教）、それからタントラ・ヴァジラヤーナ（＝真言秘密金剛乗）というレベルがあるわけですが、その最終の段階、最終のステージにあるということです。ですから、不変のものを得た状態といえるのではないでしょうか。

――幽体離脱を経験して、それから修行を始められたと聞いておりますが。

麻原　いや、幽体離脱を経験したのは三歳ぐらいのときからで、それは単なるプロセスにすぎません。幽体離脱や霊現象というのは、わたしにとっては少しも楽しいものではありませんでした。

――そのあたりから宗教に興味をお持ちになったわけですか。

麻原　それが即、宗教に対して興味を示させたわけではないですね。逆にアンチ宗教でしたからね、二十一歳くらいまで。神に頼むことが嫌いだったというか、小さいときから仏壇・神棚に礼拝はしていましたが、神仏に何か頼

むということは敬遠してました。その気持ちというのは、今は理解できますけどね。

つまり、仏教というのは仏陀（＝覚醒者）の教えであると同時に、仏陀になっていく道で、「ただ単にお祈りして依存するというのは正しくない」ということを小さいときから知っていたんだと思いますね。言い方を変えるならば、仏教イコール自己開発の道だということですね。自分自身を開発して、最終的には自分の本質的なものに到達する。そういうことを小さいときから知っていたから、実際にそのような教えにぶつかるまで、いろいろなことを学んでいたんじゃないでしょうか。

――日本では大乗仏教が主流といわれていますよね。それに対する反発があったのですか。

麻原　いや、大乗仏教に対する反発というよりも、本当の大乗仏教が伝わっていないということに対する反発ですね。大乗仏教の本質というのは、ある人が修行し、そして仏陀になる。目覚める。そして、その経験、ヴァイブレーション、力によってすべてを済度する教え、これが大乗仏教なんです。ところが、今の日本では、その前段階の

「努力して覚醒に至る道」というのを説いていない。そこには経典しかなく、絵に描いた餅しか存在していない。そういうことに対して疑問がありましたね。真の大乗というのは、小乗の上に立脚するものだと考えていましたから。

――それでは、アンチ宗教だったのが修行を始められたというのは、何か具体的なきっかけでもあったのですか。

麻原　一つには、結婚前後の心の変化ではないでしょうか。現代では、安らぎは家庭にあるというふうに教えられていますよね。ところが、真剣にそれを意識すればするほど、現実の生活というのは苦の集まりなんですね。結局、そこにも自分の安らぎというものはな

かった。そう思った瞬間から激しい修行の道に入っていました。

ただ、今から考えると、わたしの人生イコール修行といえないこともないですけどね。例えば、スポーツや武術も時間があれば朝から晩までやるという具合に、一つのことを極めることについては小さいころから性質としてありました。ヨーガにしろ仏教の修行にしろ、そういう性質――これは精進というんですが――その土台は確立していたんではないかと思います。

――ところで、オウム真理教と仏教の関係がちょっとわからないのですが、そのあたりを教えていただけますか。

麻原　「オウム真理教」というのはま

ず、宇宙の本質的な創造・維持・破壊、これを〝オウム〟という言葉で表わしています。つまり、無常を表わしているわけですね。そして、〝真理〟というのは、サンスクリット語でサティアン、パーリ語でサッチャというんですが、絶対的な叡智を表わす。

なぜ何々宗とか仏教という言葉を使わないかというと、先程も申し上げたとおり、今の日本には真の仏教が伝わっていないと確信を持ってますので、仏教という言葉を使うと逆にその教えが広めづらくなる、そう考えて「オウム真理教」という名前を使っているわけ

ですね。また、お釈迦様が初めて衆生にダルマ（＝教え）をお説きになった初転法輪、これは『真理相応』というお経の中で示されてますが、その中でも要するにお釈迦様は「これが仏教である」とは一言もいってらっしゃらない。「これが真理である」と言ってらっしゃるわけです。ですから、仏教の教えを説く場合、やはり〝真理〟として説くべきであるというのがわたしの立場です。

◆麻原尊師のリアリティとは？

――麻原さんご自身について、ちょっと質問させていただけますか。

入り口の大きな下駄箱の〝尊師〟と書かれた一列に、おそらく麻原さんの

ものだと思いますが、白いスニーカーがありました。全く当たり前のことですが、麻原さんも肉体を持っているんだなあ、と妙に納得させられました。

そこで、非常に下らない質問で恐縮なんですが、身長と体重を教えてくださいますか。

麻原　そうですね、今はちょっと病んでまして、体重が八三キロぐらいじゃないでしょうかね。身長が一七四・五センチぐらいじゃないかと思います。

――血液型は何ですか。

麻原　A型です。そういうのにみんな、興味を持つものかなあ（笑）。

――何といいますか、ある種のリアリティが出ますよね。「麻原さんというのはこれくらいの大きさで、ちゃんと血液も流れているんだ」と何となく想像できますよね。そういうことで、お聞きしたいなと思ったのですが。

麻原　そういうリアリティが出ても、意味がないといったらいいのかな。この身体というのはあくまでもカルマの幻影で、別の身体がたくさんありますから。例えば、アストラル・プロジェクション（＝低位形状界に飛び出すこと）での身体というのは、この身体ではないですよね。あるいは、心の広が

りを経験する身体というのは、また別の身体ですよね。

――それはどのように考えたらよろしいんでしょうか。

麻原　そうですね、それは菩薩、正確な言い方をするなら〝到達真智運命魂〟と訳されるわけですが、つまり、真の智慧に到達することが運命づけられている魂には十段階ありまして、その魂のステージを今言った化身の数ではかるわけです。最終的には六つの身体を有すると。さらに、修行が進むことによって一つの世界でも無数に身体を使えるようになりますから、これは無限になります。

　この肉体も一つの身体でありますが、これは老いるものであり、そして死ぬ。最終的には粗雑な五大元素（＝肉体を構成する五つの要素）に還元される身体ですよね。だから、この身体を論じたからといって、だれも利益を得ることはないでしょう。

――そうすると〝十二縁起の法（＝解脱へ至るプロセス）〟を終えられた麻原さんは、死というものを超えた存在なんですか。

麻原　ええ、わたしには死はありません。肉体は、死ぬ時期が来れば捨てる。

そういう意味では自由です。再生することも自由。転生というものもありますし。

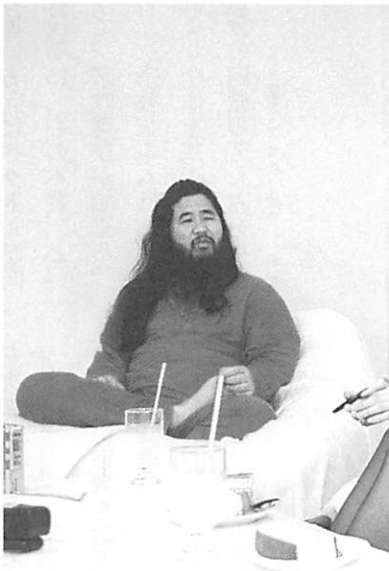
――教祖としての麻原さんに一つお聞きしたいと思います。宗教には〝救い〟という命題が必ずあります。麻原さん自身はそのあたりをどのように考えられていますか。

麻原　救いというのはすべて条件と原因、救われる原因と条件の二つがあって生じるものです。もちろん、わたしたちの修行というのは、回向、つまり自分たちの積んできた修行の結果をすべての魂に還元するという瞑想をしま

す。そういう意味では「すべての魂に救いがあってほしい」と願ってはいますが、そういう種子のない人たちに対して手を差し伸べるのは難しい。

ただ、未来においては、未来というのはわたしが死ぬまでという意味ではなく、生まれ死に生まれ……という輪廻転生の長い時を経て、すべての魂に救いがなされるんじゃないでしょうか。それが覚者といわれる、菩薩といわれる人たちがこの世に生を受け、生きている意味合いですから。

――今は〝第三次宗教ブーム〟といわれ、一九七三年ごろから様々な新宗



教が生まれているわけですが、オウム真理教以外の新宗教についてどうお考えですか。若者が宗教的なものを必要としていることについては。

麻原　結局、心というのは、物質によって満足するようなものではないということですね。満足させようと考えると、ある人は歌を聞いたり本を読んだり、より物質から遠い方向にベクトルが向く。その最終段階に〝心の本質〟というものがあって、宗教選びが始まる。

第一次、第二次宗教ブームはどちらかというと個より全体を基調とした宗教ですが、自分の内側の苦しみを克服するには自分自身を変化させるしかない。第三次ブームは、まさに個人を変化させるいろんな宗教の勃興だとわたしは考えています。それは時の流れという一つの条件と、個人個人の苦しみという原因、この二つが合わさっていろんな法、ダルマが生起してきたんじゃないでしょうか。ですから必然的な第三次ブームだと考えます。

◆正しい宗教を選ぶための八つの基準

――他のいわゆる新宗教に対してはど

うお考えになっているのでしょうか。

麻原　それはそれぞれの教祖の方が、いろいろな形をおとりになっているのでしょうから。

ただ、一つ読者の方に宗教の選び方として、「こういう条件でお選びになったらよろしい」というのはあります。これが〝聖なる八支の実践〟といわれるものなんですね。日本には「八正道」という言葉で伝わっていますが、その本質が誰にも理解されていません。

まず、この世の中も含めて、すべての世界観を通しての正しい見解、正しい教えがある教団かどうか。それが第一ですね。

そして、それに基づいてきちんと思索をしているかどうかを調べなさい。

次に、人々を利するような、理性を向上・発達させるような言葉を訓練しているかどうか。

四番目としては、衆生を利するような行為をしているかどうか。

五番目は、それにのっとると、苦しみが減少し楽が増大するような生活を説いてるか。

次は、日々の生活において、今なしている善いこと、つまり善法を増大させ、今なしている悪業を捨断する教え

を説いているか。

七番目は〝サマディ〟（＝肉体から自在に離脱し、心の本性に還ること）に入るための教えを説いている教団であるかどうか。

そして最後は、サマディについての教えを説いている教団であるかを調べなさいということですね。

なぜこの七番目と八番目が必要なのかというと、この二つによって、自分自身で教義の世界を経験できるわけですね。

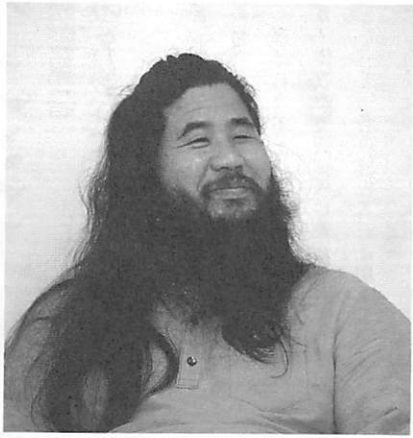
そして、最もやってはいけないのは、盲信するということ。要するに、必ず宗教は疑いなさい、と。疑いながら、自分の今持っている考え方とその宗教の説いている考え方と、どちらが幸福を与えるかどうかを検討しなさいということですね。

この八つの実践方法によって教団をチェックなさるならば、その宗教が自分に利益を与えるか不利益を与えるか、理解できると思います。

――では、最後の質問です。新宗教の場合、創始者の時代はいいんですが、二代目、三代目あたりで、その教団がこれから栄えていくか、それとも消えていくかが別れますよね。麻原さんに

もいずれ肉体的な死が訪れるわけですが、その先のことはどうお考えですか。

麻原　少なくともダルマは残りますね。オウム真理教は、おそらく続いていくでしょうね。おそらくというのは、未来は未来の人たちが決定することであって、わたしが決定することではありませんから。



仏教的世界観というのは面白いもので、決定的な未来がないんですね。つまり、いくつかの様態があって、百パーセント確定というのはあり得ない。その瞬間のデータを総合すると「こうなる」といえるけれど、それからまた何らかの変化があった場合、大きく変わるでしょうから。

仏陀の智慧が光を放ち混迷の時代を照射する

INITIATION

イニシエーション

麻原彰晃著

この名著はすべてを語っていた！

「解脱」「悟り」のプロセスを細やかに説き明かし、最高の修行法を伝授する。

本来、選ばれた弟子にのみ明かされる秘儀――ヨーガ・仏教の奥儀を極めた修行の正しさは、誕生した三五〇名の解脱者が証明する。

さらに、自民党の大勝と大敗、円高の進行、農作物輸入自由化など、今日の世界と日本の動向を正確に予言している、驚くべき記述の数々！

◎「解脱」「悟り」の真実／現代の仏陀麻原彰晃が最高の修行法を公開。

◎タントラ・イニシエーションの全貌／チベット密教・ゲールク派とオウムの秘儀を比較する。

◎確実に核戦争だ！／日本と世界の近未来を予言する。

◎総勢三十一名の体験談／「クンダリニーが覚醒する」「過去世が甦る」「悟りのプロセス」など、これが修行プロセスと霊的ステージの真実だ。

武田 健さん（東京都／学生）
「末法の時代は終わった」ということを確実に感じさせる本である。

松岡謙次さん（愛媛県／警備員）
読めば読むほど、「頑張ろう、やるぞ」と思わせるような素晴らしい本です。

山本 勇さん（石川県／会社員）
解脱するまでの心の状態が、多くの例を挙げてわかりやすく書いてある。

大森恵子さん（山口県／店員）
他の書では得られない絶対なる真理に触れることができた。

武田葉子さん（熊本県／主婦）
「人間として最高の、最終の目的は何か」ということがはっきり示されています。

本間智加子さん（東京都／経理事務）
宗教に対する偏見がいっぺんに吹き飛んでしまいました。

定価2163円 ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。(送料300円)
オウム出版 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 電話03(3439)6043 郵便振替 東京2-109325

麻原彰晃の世界 PART 4

宗教にだまされるな！

麻原彰晃

ISBN4-900497-77-0 C0014 P980E 定価980円(本体951円)